

大阪府立大学看護学部年報

2009年度



2010年
第5卷

はじめに

平成 21 年度は、大阪府立大学にとって節目の年であった。総合大学から理系中心の専門性の高い大学へとその特色を明確にし、学部再編を含む大規模な改革へと舵を切った。

看護学部については、質の高い看護職の育成という、現在医療界の喫緊の課題を果たすべく地域保健学域・看護学類として今後も存続してゆくこととなった。

さて、平成 21 年度当初に看護学部・看護学研究科の課題として取り上げたものは以下の通りである。

(学部)

- ・ 統合カリキュラム見直しへの動きに関して対応を検討
- ・ 質の高い志望者の確保 ー入試広報活動の焦点化
- ・ 魅力ある府大看護学部作り ー看護学部版学士力G P準備

(院)

- ・ 看護管理等の高度専門職業人育成コース設置の検討
- ・ 「がんプロフェッショナル育成プロジェクト」(H19-H23)の推進
- ・ 国際交流の推進 タイ(マヒドン大学)との Exchange Program (4名の院生来日)

(全体)

- ・ 魅力ある府大看護の広報活動
- ・ (府大の将来像、府戦略会議方針等を踏まえ)第2次中期目標へ看護学部・研究科のビジョンの策定
- ・ 大阪府病院機構との連携(実習、研究、地域貢献)強化

これらの課題は、各委員会・ワーキンググループ等の活動により達成できたもの、また時期的に実現が難しかったもの等、達成度はさまざまである。

大学全体の組織が大きく変化する中で「府大看護」として教育・研究を通して社会に貢献し続けるためには、よりいっそう自己点検・評価に基づく地道なPDCAサイクルを丁寧に戻してゆくことが求められている。

年報作成にあたっては看護学部の歩みをふり返り、データに基づき客観的にまとめる努力をしたつもりである。この年報が他大学の方々にとって何らかの参考になれば望外の喜びである。また、労の多い編集作業を担った看護学部部局評価・企画実施委員会委員等担当者に心から感謝する。

平成 22 年 3 月 31 日

大阪府立大学 看護学部
看護学部長・研究科長 青山ヒフミ

目 次

はじめに

第1章	学部及び研究科の目的	1
第2章	学部・研究科の組織	3
第3章	学部・研究科の運営	7
第4章	学生の受け入れ	31
第5章	教育内容及び方法	36
第6章	学生支援	45
第7章	教育の成果と教育の質の向上及び改善のためのシステム	48
第8章	研究活動	52
第9章	社会貢献と国際交流	55

資料 大阪府立大学看護学部教員業績一覧

編集後記

第1章 学部及び研究科の目的

1. 看護学部

看護学部の教育目的は、「生命の尊重と個人の尊厳を基盤とし、豊かな人間性を形成するとともに、科学的専門知識・技術を教授し、看護を総合的な視野で捉えられる人材を育成する。」であり、教育目標として以下の5つを掲げている。①人間の痛み、苦しみを分かち合え、幅広い教養を身につけ、生命の尊厳について深く理解し、行動できる豊かな人間性を養う。②看護に必要な知識と技術を修得し、科学的根拠に基づく適切な判断と問題解決能力とあわせ、社会の変化や医療技術の発展に対応できる能力を養う。③保健・医療・福祉・教育・地域においてヒューマンサービスを提供する人々と連携し、看護の実践と調整的な機能を果たす能力を養う。④変化する社会の中で看護の役割を展望し、発展させ、地域的・国際的な視野で貢献できる能力を養う。⑤看護学への関心を深め、総合的な視野と看護研究の基礎能力を養う。

以上の目的は、大阪府立大学看護学部規程に「教育目的」として定められている（規程第54号第2条 http://www.osakafu-u.ac.jp/info/about/kitei/reiki_honbun/ax94000931.html）。さらに教育目標は、履修要項およびホームページと看護学部案内に示し、学内外に広く周知されている。

特に看護学部の新入生を対象としたガイダンスにおいては看護学部長より教育目的、教育目標について説明を行うとともに、履修要項や学部案内の冒頭部分に掲載することで、より意識づけがされるよう配慮している。さらに新たに就職した教員には、看護学部長からのオリエンテーションの際に本学部の教育目的、教育目標について説明を受ける機会が設けられている。また、受験希望者には学部案内を送付すると共に、オープンキャンパスや入試ガイダンスの参加者に説明を行い、広く社会に公表されている。

2. 看護学研究科

看護学研究科の教育理念は、「生命と人権の尊重を基盤とし、保健・医療・福祉及び社会の諸変化に対してクオリティ・オブ・ライフ (QOL) を志向した創造的・実践的な対応ができる専門的知識と技術をもった人材を育成し、看護学の発展と人々の健康に寄与する。」である。博士前期課程では、「人間の存在と生命の尊厳について深く理解し、広い視野に立って精深なる学識を修め、専門分野における教育研究能力、あるいは高度に専門的な看護実践能力を有する人材を育成する。」を目的とし、①専攻する看護専門領域に関連する理論に精通し、看護活動に適用する。②専攻する専門領域の看護実践の質の向上を目指して、専門性の高い看護ケアを提供し、改革を推進する。③高い倫理観を持ち、複雑な倫理的問題を判断し調整する。④看護に関する研究業績をクリティカルに検討し、看護ケアに積極的に活用する。⑤看護教育並びに看護実践の向上のために相談・教育・調整機能を高める。⑥専攻する看護専門領域に関する研究課題に取り組み、看護研究能力を高める。⑦看護実践・研究・教育を通して国際交流に貢献することを目標にしている。博士後期課程では、「豊かな学識を有し、看護学分野において学術・研究を推進し、その深奥を極め、自立して研究活動を行うことのできる能力を有する人材を育成する。」を目的とし、①看護実践の改革を目指し、専門性の高い看護ケアを開発する。②理論や看護援助方法の妥当性を科学的に検証する。③優れた看護実践、関連領域の知識・研究を用いて、研究活動を行い、看護学の発展に寄与する。④教育、医療、研究、行政関連機関において、社会の変革に対応できる指導的・管理的リーダーシップを発揮する。⑤都道府県や国家レベルの政策開発や意思決定に参画する。⑥学際的、国際的な視野に立ち、学術交流、研究活動、保健医療活動に貢献することを目標にしている。

看護学研究科の目的は、大阪府立大学大学院看護学研究科規程に示されている（規程第 61 号第 2 条 http://www.osakafu-u.ac.jp/info/about/kitei/reiki_honbun/ax94001001.html）。さらに、「教育理念」および「博士前期課程教育目的・教育目標」、「博士後期課程教育目的・教育目標」は履修要項およびホームページと看護学研究科案内など学内外に広く周知されている。

特に研究科の新生を対象としたガイダンスにおいては看護学研究科長より教育目的、教育目標について説明を行うとともに、履修要項や研究科案内の冒頭部分に掲載することで、より意識づけがされるよう配慮している。

また、受験希望者には研究科案内は送付すると共に、受験前の指導教授との面談において説明を行うなど、看護学研究科の目的は、広く社会に公表されている。

第2章 学部・研究科の組織

1. 領域・分野と教員組織

1) 看護学部の教員組織

看護学部の教育目的に基づき、学士課程は学則に則って遂行され（規程第47号第1～42条 http://www.osakafu-u.ac.jp/info/about/kitei/reiki_honbun/ax94000031.html），教員は大学設置基準第12～13条に基づき確保している。現在専任教員数65名（教授18名，准教授15名，講師11名，助教21名）で教育課程を遂行している。教員数，教員配置については，ホームページ上で公表している。

教員組織は看護学部の教育目的に則り，教育課程として共通教育科目（教養科目・基盤科目），専門支持科目，専門科目という3区分からなる。教員組織は，健康科学，人・環境支援看護学，家族支援看護学，生活支援看護学，療養支援看護学の5領域となっている。健康科学領域は共通教育科目（教養科目・基盤科目），専門支持科目を担当し，他の4領域は専門科目に対応するよう編成されている。これに基づき，各領域に教授，准教授，講師及び助教を配置している。教員間の組織的な連携体制は，各領域に主任教授がおかれ，領域内および領域間の調整が行われる。教育に係わる責任は，授業科目毎に担当者が教務委員会，教授会を経て，毎年度決定され，シラバスに明示されている。

上記のように教員組織は5領域で構成され，教育研究を推進している。各領域の教育課程上の担当分野は次の通りである。「健康科学領域」では，教養教育と専門支持教育を担当している。「人・環境支援看護学領域」では，看護・看護学とは何かについて看護の対象となる「人」，その人をめぐる「環境」，看護の目的である「健康」から理解するとともに，基礎的な看護技術を習得し，統合された存在である人に対して，看護独自の機能を発揮するための基本となる知識と技術を習得する。「家族支援看護学領域」では，親子，家族関係，家族のライフスタイルおよび家族発達に応じた家族の健康の維持・増進・疾病予防に向けた支援と健康問題への援助に必要な基本的知識と技術を学ぶ。「療養支援看護学領域」では，健康上の問題を有する成人期の人々へのケアについて，看護理論を基盤に，クオリティ・オブ・ライフ(QOL)の向上を目指した健康回復，健康維持あるいは安らかな死への援助を行う知識と技術を習得する。「生活支援看護学領域」では，地域で生活する高齢者や精神に障害をもつ人々など，すべての年齢層を対象に健康の維持増進から在宅療養の支援まで，看護に必要な基本的知識と技術を学ぶ。

看護学部の教員は，専門性に基づき各領域に配置されて学部の教育にあたっており，各々が研究から培った能力を発揮するように構成されている。したがって，学士課程における教育研究の目的を達成する上で適切なものとなっている。

なお，平成17年4月に公立大学法人大阪府立大学として統合されたことを契機に「豊かな人間性を形成するため，総合大学としての教養教育を生かすこと」を基本的な考え方として，教養教育が組み立てられた。教養教育は，語学，情報教育，健康・スポーツ科学演習からなる基盤教育と教養科目から構成されている。教養科目は，羽曳野キャンパス開講科目に加え，週に1回中百舌鳥キャンパスにおいて開講されている61科目の中から選択することができる。学生は羽曳野キャンパスおよび中百舌鳥キャンパスにおいて，多くの科目から教養科目・基盤科目を選択することができるようになった。なお，中百舌鳥キャンパスとの交通にはキャンパス間のバスを授業開始時間にあわせて運行している。

2) 看護学研究科の教員組織

看護学研究科においては、大学院設置基準第9条および大阪府立大学学位規程(規程第63号第8条 http://www.osakafu-u.ac.jp/info/about/kitei/reiki_honbun/ax94001501.html)に基づき、博士前期課程は44名、博士後期課程は33名の研究指導教員をそれぞれ確保している。なお大学院担当教員は、大学院看護学研究科2009年度学生必携で公表している。

看護学研究科では、多様化、複雑化、高度化する社会環境の中で、生命と人権の尊重を基盤として、看護に求められる社会的使命を遂行し、看護学を創造的・実践的に発展させ、国際社会及び地域社会のあらゆる健康レベルの人々に貢献できる看護分野の高度な実践者、管理者、研究者、教育者を育成するという大学院設置の趣旨・目的に基づいて、幅広い看護の領域をカバーできるように専攻を構成している。教育課程は基盤教育と専門教育で構成されている。

博士前期課程では、「人・環境支援看護学領域」は看護技術学・看護情報学・看護管理学・看護教育学の4分野、「家族支援看護学領域」は母性看護学・小児看護学・家族看護学の3分野、「生活支援看護学領域」は地域看護学・在宅看護学・老年看護学・精神看護学の4分野、「療養支援看護学領域」は急性看護学・慢性看護学・がん看護学・感染看護学の4分野の合計15分野から構成されている。上記の15分野にはそれぞれ修士論文コースがあり、そのうち11分野は専門看護師コースをもっている。

博士後期課程は、「生活支援看護学領域」と「療養支援看護学領域」の2領域で構成している。「生活支援看護学領域」は看護技術・情報学分野、看護管理・教育学分野、地域・精神看護学分野、在宅・老年看護学分野、母子健康看護学分野の5分野で構成している。また、「療養支援看護学領域」は急性療養看護学分野、慢性療養看護学分野、がん療養看護学分野、感染療養看護学分野の4分野で構成している。

3) 教員の採用

大学の設置目的及び教育理念に基づき、教員の任期制、公募制及び外国人の兼任教員の確保が導入されており、教員組織の活動をより活性化するために多様で透明性を確保した教員採用の措置をとっている。

看護学部教員の性別構成、年齢構成(平均年齢)は、資料2-1-3に示すとおりである。看護学部では、外国人教員を兼任教員(外国語)として確保し、採用している。教員の採用に関しては任期制及び公募制を導入している。本学教員の任期に関する規程に基づき、任期制は助教の採用に適用し、任期は3年としている(規程第14号第2条 http://www.osakafu-u.ac.jp/info/about/kitei/reiki_honbun/ax94000411.html)。公募制は、本学教員人事規程(規程第15号第3条 http://www.osakafu-u.ac.jp/info/about/kitei/reiki_honbun/ax94000381.html)に基づき、全教員の採用に適用し、公募方法は資格、経験年数等の条件を明示し、本学ホームページ、研究者・人材データベースJRECINを活用している。

平成 21 年 10 月 1 日現在

講座		健康科学	人・環境支援	家族支援	生活支援	療養支援	合計
構成							
教員数		3	12	14	19	17	65
性別 (名)	女性	1	11	13	17	15	57
	男性	2	1	1	2	2	8
平均年齢 (歳)	教授	58.0	55.0	50.3	53.3	53.3	53.9
	准教授		44.7	45.5	45.5	47.0	45.7
	講師		44.0	44.5	40.0	41.0	41.8
	助教		37.0	34.6	35.6	35.0	35.3

教員の採用に関する事項は、本学教授会規程に基づき、教授会で審議し(規程第 62 号第 3 条 4 項 http://www.osakafu-u.ac.jp/info/about/kitei/reiki_honbun/ax94000111.html), 本学人事委員会規程に基づき(規程第 99 号第 1 条 http://www.osakafu-u.ac.jp/info/about/kitei/reiki_honbun/ax94000151.html) 人事委員会で審議する。教育研究上の指導能力について審査を行い、本学教員選考基準により、教員を選考している。具体的には、履歴書、教育研究業績書、主要な著書または論文、および採用後の専門分野の研究計画と教育に対する方針等の書類審査、面接・プレゼンテーションにより評価する。平成 21 年度は、平成 22 年度採用予定の教授 3 名、准教授 2 名、助教 5 名を選考している。なお、任期制による任期満了助教 1 名の任期満了に伴う更新審査を行い、任期更新を希望した助教 4 名を審査し任期を更新した。

4) 教育支援者

大阪府立大学羽曳野キャンパスでは、看護学部、看護学研究科と総合リハビリテーション学部、総合リハビリテーション学研究科を設置し、専任教員を看護学部、看護学研究科に 65 人、総合リハビリテーション学部、総合リハビリテーション学研究科に 40 人配置している。これら 2 学部、2 研究科の事務をつかさどるために、総務・会計・入試・学生・教務・図書業務等を担当する事務職員 14 人、派遣職員 9 人、契約職員 8 人、非常勤職員若干名を配置している。

なお、平成 17 年度からの 3 大学統合、再編、法人化に伴い分離している羽曳野キャンパスの事務のうち一元的に処理することが適当な業務については、法人本部に集約して事務の効率化を図っている。

TA については研究科会議の承認を得て、適宜活用を図っている。平成 21 年度の TA 採用人数は延べ 23 名、総時間は 394 時間であった。

また、平成 21 年度より教員支援者として看護学部教員を支援する非常勤事務職員 1 名が配置された。教材用資料複写、書類作成等の補助業務を行っている。

2. 付属組織・センター

看護学研究科は、療養学習支援センターを有するが、これは療養学習支援に関する研究・教育・実践を推進するとともに、その成果を地域に還元し看護の質の向上に寄与するという趣旨に基づき平成17年から附置された。療養学習支援センターの設置趣旨および業務等は、大阪府立大学大学院看護学研究科療養学習支援センター規定（規程第21号 http://www.osakafu-u.ac.jp/info/about/kitei/reiki_honbun/ax94001711.html）に明示している。療養学習支援センターは、円滑な運営を図るため、大阪府立大学大学院看護学研究科療養学習支援センター運営委員会を設置している。運営委員会は大阪府立大学大学院看護学研究科療養学習支援センター運営委員会規定（規程第22号 http://www.osakafu-u.ac.jp/info/about/kitei/reiki_honbun/ax94001721.html）に基づき、7名の運営委員で組織されている。センターの主な事業は、地域住民および医療機関の利用者を対象に各種の療養学習支援活動および健康相談活動、療養学習支援に関する研究活動、療養学習支援に関する学術交流活動である。

3章 学部・研究科の運営

1. 運営組織

教育活動に係る重要事項を審議するために教授会を最高意思決定機関と位置づけ、その下に教育活動に係る重要事項を審議するための委員会を設置し、定期的に会議を開催し、それぞれの分掌事項を効率的に検討し、円滑に審議を進めている。

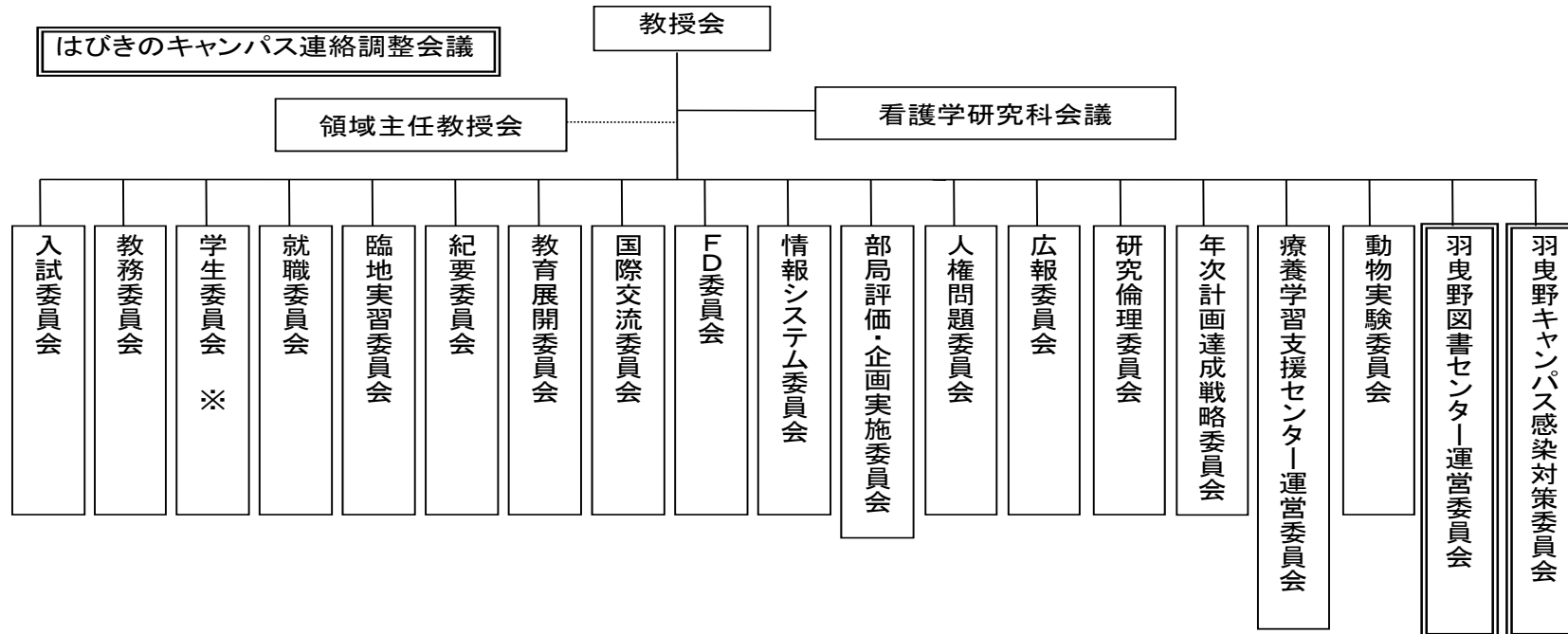
本学教授会は、教育課程の編成に関する事項、学生の入学、卒業又は課程の修了、その他学生の在籍に関する事項及び学位の授与に関する事項、学生の支援及びその身分に関する事項、教授会を置く組織の長から付議された教員人事に関する事項、その他教授会を置く組織の長から付議された教育又は研究に関する重要事項について審議する。教授会の下に教務委員会、臨地実習委員会、学生委員会等を設け、教育活動が円滑に行われるための必要な活動を行っている。資料3-1は看護学部の運営組織図である。

教務委員会、臨地実習委員会、学生委員会等は毎月1回の定例の会議を開催している。特に、教務委員会では、教育課程に関する事、履修に関する規程の制定及び改廃に関する事、教育の実施及び運営に関する事などについて検討し、臨地実習委員会では、教育の中の臨地実習の運営に関する事項を中心に検討し、その検討結果は教授会で報告し、重要事項については更に教授会で審議し、決定している。

看護学研究科における重要事項については、研究科会議で審議し、教授会で最終決定となる。

大阪府立大学看護学部組織図

平成22年3月31日



総合リハビリテーション学部と合同

※は総合リハビリテーション学部と合同だが、委員会としては別組織

2. 委員会活動

委員会名	入学試験委員会
目的	第2条 委員会は、次に掲げる事項について審議する。 (1) 入学試験に関する企画に関すること (2) 入学試験の適正かつ円滑な実施に関すること
構成員	青山学部長(委員長), 高見沢教育研究会議委員, 階堂教授(副委員長), 上野教授, 桑名教授, 田中(京)教授, 星教授, 岡本准教授, 勝山准教授, 長畑准教授, 佐々木講師, 別宮講師, 山本・羽曳野キャンパス事務所長
活動概要	1. 委員会の開催 1) 看護学部入学試験委員会 (定例 12 回, 臨時 4 回) 2) 入学試験運営委員会 (全学) 6 回 2. 入試の実施状況 1) 看護学研究科 (1) 博士前期課程 (8/22, 第2次募集: 2010/2/13), (2) 博士後期課程 (8/23) 2) 看護学部 (1) 特別選抜: 編入学試験 (9/5), 推薦入学試験 (11/21), 外国人留学生 (2010/2/25, 志願者なしのため実施せず) (2) 一般選抜: 前期日程試験 (本試験 2010/2/25 実施, 追試験 3/3 該当者なしのため実施せず), 後期日程試験 (本試験 2010/3/12 実施, 追試験 3/18 該当者なしのため実施せず) 3) その他 (1) 大学入試センター試験 (2010/1/16, 1/17), (2) 工学部中期日程試験 (2010/3/8) 3. オープンキャンパス (8/8, 8/9: 新型インフルエンザによる感染予防のため中止, ただし, 中止を知らずに来訪した参加者には個別に対応) 4. 入試ガイダンス (10/24, 高校生他の学生 271 名, 保護者他 132 名) 5. 入試説明会等 1) 来校した高校への説明会 (大学体験) : 2 件 2) 高校訪問 : 8 件 3) 大学説明会等 : 9 件 6. 入学試験あり方部会への諮問 1) 受験生の育成と増加の方策について 2) アドミッションポリシーに沿った学生の受け入れを検証する方策の検討
来年度の課題	1. 入学試験全般について 1) 入試運営の整備・見直し, 2) 入試実施要項の整備・統一 3) 学部教員の業務平準化に向けての努力 2. 入学生の確保について 広報, 高校訪問, オープンキャンパスなどの継続と改善 3. その他 1) 事務体制の強化要望

委員会名	教務委員会
目的	以下の事項について審議した (1) 教育課程に関すること (2) 履修に関する規程の制定及び改廃に関すること (3) 教育の実施及び運営に関すること
構成員	高見沢教授(委員長), 楢木野教授(副委員長), 白井教授, 杉本教授, 高辻教授, 和泉准教授, 井端准教授, 牧野准教授, 細田准教授, 山本講師
活動概要	<p>平成21年度は, 13回教務委員会を, さらに緊急の事案について書面による持ち回り委員会を随時開催した。委員および学生グループ職員の協力により, 教育運営に支障が生じないようフレキシブルに教務委員会を運営することができた。特に下記の内容について重点的に活動した。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 教務委員会活動年間計画を作成し計画にそって運営を行った。 ② 全学教務関係委員会(教育運営会議, 教務委員会, 共通教育専門委員会)の報告を行い, 府立大学全体の教務内容と看護学部教務委員会が連動して運営できるようにした。 ③ 新カリキュラム移行に伴い, 旧カリキュラム科目の単位読み替え表を作成し教員に周知した。 ④ 新カリキュラム移行に伴い, 専門支持科目の単位が卒業要件を満たしていない学生の単位習得状況と必要な履修指導内容を明示した書類をアドバイザー教員に配布し, アドバイザーに個別履修指導を依頼した。 ⑤ 看護学部・研究科における非常勤講師の任用時間数に関する申し合わせ事項を策定し, 非常勤講師の任用は教務委員会で審議することとした。 ⑥ 看護学部実習における新型インフルエンザ対策の指針を作成し, 教員の対応方針を明確にし, 予防に必要な物品を配布した。 ⑦ 教養科目・基盤科目(羽曳野キャンパス開講分)受講に関する抽選実施方法を検討した。 ⑧ 看護学研究科科目等履修生実施要領を現行にあう内容に修正した。 ⑨ 学生必携の記載内容を, 現行に沿うよう大幅修正した。 ⑩ 履修オリエンテーションの日程・内容・配布資料を再検討した。
来年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・履修オリエンテーション内容が適切であったか再検討する(特に大学院)。 ・保健師・助産師・看護師等学校指定規則変更に備え, 専門教育検討WGの新カリキュラム案完成後, 卒業要件・実習科目の履修要件・単位読み替え表等具体的に検討する必要がある。

委員会名	学生委員会
目的	学生の休学, 退学, 復学, 除籍に関する事, 学生の表彰及び処分に関する事, 学生の生活指導に関する事, 学生の福利厚生に関する事, 学生相談に関する事, その他学生の生活に関する事について審議する
構成員	上野教授(委員長), 町浦教授, 荒木准教授, 石澤准教授, 鎌田准教授, 田中(結)准教授, 稲垣講師, 山口助教
活動概要	<p>1. 委員会の開催</p> <p>1) 羽曳野キャンパス学生委員会 (羽曳野キャンパス共通・看護学部 11 回)</p> <p>2) 全学学生委員会 3 回</p> <p>3) 全学 WE B S C 運営委員会 1 回</p> <p>4) 全学アクセスセンター設置準備委員会 1 回</p> <p>5) 全学アドバイザー大会 1 回</p> <p>2. 活動状況</p> <p>1) 学生の休学, 退学, 復学, 除籍に関する事</p> <p>〈休学〉</p> <p>前期: 学部 5 名 大学院 4 名</p> <p>後期: 学部 7 名 大学院 5 名</p> <p>〈退学〉</p> <p>前期: 学部 1 名 大学院 1 名</p> <p>後期: 学部 2 名 大学院 1 名</p> <p>〈復学〉</p> <p>学部 5 名 大学院 1 名 (4 月 1 日時点)</p> <p>学部 1 名 大学院 1 名 (10 月 1 日時点)</p> <p>除籍はなし</p> <p>2) 学生の表彰及び処分に関する事</p> <p>〈表彰〉</p> <p>前期: 学部 4 名 (杏樹賞) 学長顕彰は該当者なし</p> <p>後期: 学部 5 名 学長顕彰 大学院 1 名</p> <p>3) 学生の生活指導・相談に関する事</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アドバイザー制度教員運用マニュアルの修正 ・長期休業前の学生の状況把握 ・アドバイザー活動報告まとめ <p>4) 学生の福利厚生に関する事</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学院自習室の環境整備 ・大学院パソコンの整備 ・大学院自習室 (0 棟) の年末年始の運用について検討 <p>5) 学生の生活に関する事</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4 月学生研修の実施 ・4 月履修説明会の実施, 準備

	<ul style="list-style-type: none"> ・学生生活の手引きの修正 ・「私の健康手帳」の作成 ・杏樹祭における学生の運営状況の見回り，監督 ・学位記授与式における準備，当日の進行（予定） <p>6) その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学院授業料減免対象者の評価 ・大学院奨学金返還に関する評価 ・大学院ハラスメント相談への対応 ・盗難2件（学内1件，実習施設1件）への事務局の対応 ・友好祭物品貸し出しの相談 ・謝恩会の相談 ・長期履修生への土曜日の事務局対応について
来年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・学生相談室の利用の活発化 ・学内敷地内禁煙における喫煙コーナーの設置場所 ・盗難を予防する対応 ・学生委員会と実習，実習施設との連絡調整が重なる教員が多く委員会の運営に若干支障があった

委員会名	就職委員会
目的	<p>委員会は、次に掲げる事項について審議する。</p> <p>(1) 就職業務方針に関すること</p> <p>(2) 就職の相談及び指導に関すること</p> <p>(3) 求職、求人に関すること</p> <p>(4) 就職についての調査に関すること</p> <p>(5) その他就職に関すること</p>
構成員	中村教授(委員長), 町浦教授, 松尾教授, 荒木准教授, 池田准教授, 石澤准教授, 和泉准教授, 小笠講師, 吉川講師
活動概要	<p>1. 就職ガイダンス</p> <p>第2回就職ガイダンス(6月):4年生, 新卒者を迎えて就職準備</p> <p>第3回就職ガイダンス(10月):4年生, 国家試験準備 (11月):国家試験手続き</p> <p>第4回就職ガイダンス(2月):4年生 国家試験受験票配布, 就職にあたって, 「私の記録」配布</p> <p>第1回就職ガイダンス(2月):3年生, 就職活動について</p> <p>2. 学生への就職支援</p> <p>1) 模擬面接:平成21年5月から7月に実施 41名</p> <p>2) 病院就職説明会 大阪府立病院機構:6月9日, 病院合同説明会:6月11日 45施設</p> <p>3) 学生の個別相談 ・随時対応, 地域看護(保健師)関係</p> <p>3. 施設対応(委員長, 事務)</p> <p>4. 就職に関する事務関係(事務) ・就職情報, 就職支援室の管理, 学生の就職状況の把握</p> <p>5. 国家試験に関すること ・受験準備, 指導, 受験手続(就職ガイダンス) ・合格発表時の対応</p>
来年度の課題	<p>基本的には平成21年度を踏襲した活動内容になる予定。</p> <p>平成21年度の積み残し事案</p> <p>①進路報告Web化</p>

委員会名	臨地実習委員会
目的（職務）	本委員会は、臨地実習の目的・目標、運営、指導体制の整備などに係る事項について審議する。
構成員	白井教授(委員長)、杉本教授、楢木野教授、佐藤准教授、中嶋准教授、林田准教授、大川講師（(代)和泉准教授）、太田講師、別宮講師、吉川講師、和田講師
活動概要	<p>[主な活動の開催回数]</p> <p>委員会 11 回 実習オリエンテーション 2 回 応用実習選択ガイダンス 1 回 5 医療センター臨地実習連絡会 2 回</p> <p>所管事項については「実習運営担当」「5 医療センター担当」「実習関連情報管理担当」で分担して検討し、委員会承認後に必要に応じて教授会に諮り実施した。主な内容は以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新カリキュラムの年次進行を考慮して実習要項を改訂 ・実習科目選択説明会や実習オリエンテーション等を実施 ・実習進度表および学生配置表等を作成 ・5 医療センター臨地実習連絡会を企画・実施 ・5 医療センターの学生用控室等の管理方法について整理・周知 ・平成 21 年度の事故報告書のまとめと報告 ・学生による臨地実習評価のデータを整理・分析し、報告書を作成 ・実習連絡（報告）会のマニュアル（予算要求・執行等の申し合わせ、施設への依頼文様式等）を作成 ・その他、他委員会との連絡・調整
来年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・5 医療センターに係る事項（臨地実習連絡会や学生控室管理方法等）を本委員会の所管事項から除外するか否かを検討する。 ・所管事項のスケジュールと事項毎のマニュアルの見直し ・感染対策や情報管理・教育等についての実習施設との情報交換 ・実習に関連する他の委員会や事務室との連携強化

委員会名	紀要委員会
目的	本委員会は、紀要に関することについて審議する。
構成員	杉本教授(委員長), 堀井教授, 山中教授, 鎌田准教授, 牧野准教授, 山本講師
活動概要	<p>1. 委員会開催数 8回</p> <p>2. 紀要第16巻第1号(報告2編, 資料2編, その他1編)の発行:(2010.3) 羽曳野キャンパス教員, 看護学研究科院生, 近隣施設および全国約220施設に配布</p>
来年度の課題	<p>1. 紀要への掲載論文を5編以上確保する</p> <p>2. 現在, 「大阪府立大学学術情報リポジトリ OPERA」に本学部の紀要を掲載しているため, インターネット環境さえあれば本学部の紀要を読むことができる。紀要は, 実習施設関連および全国の看護系大学などに配付しているがその必要性を検討する必要がある。</p>

委員会名	教育展開委員会
目的	次に掲げる事項について審議する。 (1) 公開講座の企画立案及び実施に関すること (2) 地域交流に関して必要なこと
構成員	星教授（委員長）、桑名教授、中山教授、池田准教授、林田准教授、西頭助教、前川助教、山内助教、（森助教）
活動概要	（全学的活動） 1. 全学の教育展開専門委員会に出席（年4回：5月、6月、10月、2月） 2. 府大講座担当依頼（講師：井端准教授、依頼：6月・講義：9月） （羽曳野キャンパスおよび看護学部の活動） 3. 看護学部教育展開委員会開催（年2回：5月、7月） 4. 羽曳野キャンパス（看護学部・総合リハビリテーション学部）合同教育展開委員会開催（年3回：5月持ち回り、9月、3月予定） 5. 羽曳野キャンパス公開講座の企画・運営 実施：10月20日、10月27日、11月10日、11月17日の計4回 6. はびきの市民大学の府大担当枠の講師推薦と調整 府大担当枠：11月25日～1月27日の計8回 <羽曳野キャンパス公開講座> ・平成21年度の主担当は看護学部 ・テーマ：快適な人生（QOL）をめざして～生活を活性化しよう～ ・受講者：94人、延べ：309人
来年度の課題	・府大講座について 次年度の日程がすでに決められており、看護学部担当日が編入学試験（9/4）に当たっているため、日時変更を交渉している。 早期に講師の推薦者を出し依頼を行うことが必要である。 ・公開講座・羽曳野市民大学について 来年度は、総合リハビリテーション学部が主担当になる。 看護学部からは公開講座1名、市民大学2名の講師を出す。 早期に依頼し、テーマと日程の調整を行うことが必要である。

委員会名	国際交流委員会
目的	(職務) 第2条 委員会は次に掲げる事項について審議する。 (1) 国際交流に関する企画立案及び実施に関すること (2) その他、国際交流に関して必要なこと
構成員	松尾教授(委員長), 中山教授, 町浦教授, 小笠講師, 大川講師, 山本講師, 来栖助教, 根来助教, 森木助教
活動概要	1) マヒドン大学との学術交流 平成20年4月に結ばれたマヒドン大学との学術交流協定に基づき, 本年度10月18日から11月1日の2週間, マヒドン大学看護学部(シリラート)とマヒドン大学医学部看護学科(ラマティボディ)の大学院修士課程学生をそれぞれ2名ずつ, 計4名受入れ, 看護学修士課程での教育, 研究について研修してもらった。特に, 急性看護学分野, 慢性看護学分野, 小児看護学分野, 在宅看護学分野では, 医療施設, 訪問看護施設, 障害児施設での実地研修の機会を提供した。他にも, 地域保健活動に参加, 看護協会活動には現地での説明を受けるなど日本の保健, 医療, 福祉における看護の機能を習得する支援をした。学生より, 今後の修士論文研究に新たな視点が加わったとの報告を得た。 2) 国際セミナー開催 講演者: Leah S. Berbano, RN, BSN, MPA 開催日: 平成21年7月24日 タイトル: Nursig Process at Mary Greeley Medical Center, A city owned hospital in Ames, Iowa, USA 講演内容: 病院でHouse Managerとして医療物品, 看護職などの管理を行っている講演者が, 200床の病院でどのように役割を実践しているか, また保険非加入者の多い米国での医療費を誰が負担するかといった医療のsafety net, 米国の医療政策の問題について 3) 海外からの訪問者 訪問者: Rebecca Sinha (Lalitpur Nursing Campus, Institute of Medicine, TribhuvanUniversityの看護学科長) 大学所在: ネパール国カトマンズ市 訪問日: 平成22年1月19日 本学看護学部と看護学研究科のカリキュラム, 教員組織, 学生入学定員, 実習授業などについて説明を求められ, 大学広報誌・シラバスの提示, 実習室案内によって説明した。
来年度の課題	1. マヒドン大学との交換プログラムにおける変更点の確認 1) マヒドン学生の宿泊費と交通費: 公費負担(休日を除く) 2) マヒドン学生の食費: 学生負担 2. 委員会に総務課事務からの出席を得る。 中百舌鳥の国際交流センターは羽曳野キャンパスでの国際交流について距離的に管理, 助言することが困難。昨年度は事務の関与がなかったため, 公費運用に困難をきたした。

委員会名	ファカルティ・ディベロップメント委員会
目的(職務)	委員会は、教員および学生を対象として、①教育内容・教育方法の改善、②教育・研究能力の控除に関する事、③教育・研究活動の評価の実施に関する事、について審議する。
構成員	楢木野教授(委員長)、桑名教授、細田准教授、稲垣講師、小笠講師、太田講師、石橋助教、古山助教
活動概要	<p>委員会の開催回数：6回</p> <p>委員が「授業評価担当」「授業アンケート担当」「学部セミナー担当」に分かれそれぞれで検討したものを、委員会で決定し教授会に諮った。</p> <p>授業評価について：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評価担当委員として、事後評価を含めた計画と実施。 ・授業評価のあり方を検討し、平成22年度からピア授業参観を導入することを決定した。実施要項・実施手順・関連の用紙(様式1～4)を作成した。 ・大学院科目についてピア授業評価のあり方を検討し、学部科目と同様に扱うことになった。 <p>授業アンケートについて：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前期および後期の授業アンケートの回答率を上げるため、アンケートへの回答啓発ポスターを作成し呼びかけを行う。 <p>学部セミナー：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「講義にいかす！魅力あるプレゼンテーション」をテーマに、大島武先生(東京工芸大学)を講師に、セミナーを企画、運営する。 ・在学研究報告会を運営する。 ・次年度開催セミナーのテーマについて検討する。 ・当初3月開催を予定のセミナーは、入試追試実施予定のため中止にする。 <p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学外セミナー等への参加はなかった。
来年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ピア授業参観の導入にあたり、円滑な運営を行う。 ・参観状況の分析を行い、実施要項・実施手順を見直す。 ・学部セミナーとして取り上げるテーマ、特に統計学を取り上げるかどうか、を含めて検討する。

委員会名	情報システム委員会
目的	第2条 委員会は、次に掲げる事項について審議する。 (1) 情報システムに関すること (2) Web ページのコンテンツの管理運用に関すること (3) その他情報システムの運営に関すること
構成員	階堂教授（委員長），大谷教授（システム管理担当者）， 勝山准教授（システム管理担当者），中嶋准教授（システム管理担当者）， 別宮講師（システム管理担当者），橋弥助教（システム管理担当者）
活動概要	1) 学術情報センター情報システム委員会開催後に、必要に応じてメールによる連絡や委員会会議を開催している。 (1) 第1回学術情報センター情報システム委員会の報告（2009年6月開催，情報セキュリティアンケートの結果，講義支援システムの活用促進，次世代情報システム全学推進体制の更新と当面のスケジュールほか） (2) 学術情報課より，ゲートウェイ・アドレスと同じIPアドレスを入力したユーザーが見られ，ネットワーク不通の原因にもなりかねないので注意して欲しいという連絡が委員長に入り，領域会議等で注意するように依頼した（2009年7月各領域委員宛に依頼）。 (3) 学術情報課より依頼のあった調査「キャンパスネットワーク接続する機器の全学調査について」に対する未回答の教員が多いため，未回答者に対する協力依頼を行った（2009年12月各領域の委員宛に依頼）。 (4) 第6回学術情報センター情報システム委員会の報告（次世代情報システムについて，学内PCの全学調査，情報セキュリティアンケートほか）と，2010年3月退職者・4月新任教員に対する情報セキュリティ関連対策について審議（2010年2月開催）。 2) 情報セキュリティ研修会 平成21年9月14日（月）13:30-15:00 羽曳野キャンパス L403 教室（遠隔中継） 講演：「情報漏洩の現状と対策」 講師：深瀬 知寛氏（情報システム監査株式会社）
来年度の課題	「教員の情報セキュリティに関するアンケート」結果から，看護学部として達成率の悪い項目を改善するように重点的に取り組む。

委員会名	部局評価・企画実施委員会
目的（職務）	自己点検・評価の実施に関し必要なこと
構成員	青山学部長，中山教授(委員長)，大谷教授，白井教授，池田准教授，細田准教授，来栖助教，通山助教，長谷川助教，新瀬助教（9月まで）
活動概要	<p>1. 全学の取り組み</p> <p>4～5月：大学機関別認証評価を受けるために自己評価書の作成</p> <p>6月末：自己評価報告書を大学機関別認証評価機構に提出</p> <p>7～8月：教員活動データベース，改善を要する事項取組み内容についての検討</p> <p>10月：改善を要する事項取組みのスケジュール</p> <p>11月：大学機関別認証評価機構による訪問調査に向けての準備（想定質問への対応）</p> <p>12月：大学機関別認証評価機構による訪問調査</p> <p>1月：評価結果提示</p> <p>2. 部局における取り組み</p> <p>委員会の開催状況：不定期開催 6回開催</p> <p>1) 平成20年度年報の作成</p> <p>年報の校正作業</p> <p>教員活動自己点検のまとめ</p> <p>ポータルデータの確認作業</p> <p>年報200部の印刷を10月上旬に納品，看護学部教員に配布</p> <p>2) 平成21年度年報準備</p> <p>9～10月：年報の構成を改編するためにワーキングを実施</p> <p>11～1月：年報構成案検討し作成→教授会にて承認</p> <p>2月：年報の作成の依頼</p> <p>3月：年報の校正開始</p>
来年度の課題	<p>1. 平成22年度の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成21年度，平成22年度年報の作成 ・教員活動自己評価のまとめ ・看護系大学への年報の配布 <p>2. 課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評価に必要な資料の保管 ・各委員会の議事録の保管など ・改編した年報の評価

委員会名	人権問題委員会
目的	人権問題の啓発に関し必要な事項の審議
構成員	高見沢教育研究会議委員，堀井教授(委員長)，大谷教授，山中教授 山本・羽曳野キャンパス事務所長
活動概要	<p>委員会活動の一環として、「府立大学の教職員並びに学生として身につけておかなければならない人権意識等を学び，多様な人権の視点をもって行動できるようになること」を目的に，下記の講演会を実施し，看護学部教員5名が参加した。</p> <p style="text-align: center;">記</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 日時：平成21年11月20日（金） 午後2時35分～4時05分（IVコマ：90分） 2. 場所：大阪府立大学 学術交流会館 多目的ホール ※遠隔中継：羽曳野キャンパス（L403 講義室） 3. 講師：大阪府立大学人間社会学部 細見 和之 教授 4. テーマ：私たちとホロコースト—映画『ショアー』の視点から—
来年度の課題	

委員会名	広報委員会
目的	<p>委員会は、次に掲げる事項について審議する。</p> <p>(1) パンフレット等の作成に関すること</p> <p>(2) ホームページ等の広報に関すること</p> <p>(3) 各号の掲げるものの他、広報活動に関すること</p> <p>(広報委員会規程第1条より)</p>
構成員	田中(京)教授(委員長), 大谷教授(副委員長), 杉本教授, 堀井教授, 井端准教授, 松田講師, 吉川講師, 和田講師, 小山助教, 大森助教
活動概要	<p>広報委員会では、原則として月1回の会議開催をおこない、必要時臨時会議およびメール会議を行った。主な活動内容は以下の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 看護学研究科専門看護師(CNS)コース紹介パンフレットの作成 <p>本学のCNSコースの存在および意義を府民に伝えるための広報活動として、CNSの活動紹介とCNS養成に携わる看護学研究科の教育内容を紹介するパンフレットを作成した。パンフレットは、近畿圏内の病院および看護師養成施設、実習先病院、看護協会、府内情報プラザ等に配付した。</p> モバイルサイトの立ち上げ <p>高校生や受験生が気軽に携帯電話から本学看護学部のページにアクセスできるように、HPのページ構成に準じた内容でモバイルサイトを立ち上げた。</p> 教員個人ページの刷新 <p>教員の業績が中百舌鳥本部のHPから閲覧可能となったため、看護学部の教員紹介では、教育活動・研究活動を中心に、学生・受験生へのメッセージ欄を設け、教員個々の個性が伝わる内容にした。</p> 学部紹介パンフレットの作成 <p>一部デザインの変更および内容更新を行い、5月に発刊した。</p> 大学院紹介パンフレットの作成 <p>一部構成の変更と内容更新を行い、4月末に発刊した。</p> HP(学部・大学院)の内容更新(随時2回/月) <p>オープンキャンパス・入試ガイダンスをはじめとする学内行事・イベントの広報活動を行った。今年度はインフルエンザに伴うオープンキャンパスの中止があり、その後の情報提供も併せて行った。</p> Webサイトアクセスレポートの導入 <p>看護学部HP訪問者数の動向を知るために、月ごとのWebサイトアクセス状況について9月から情報を得るようにした。現状では、訪問者数は月3,500前後のアクセスが行われている。</p> 英語版HP(学部・大学院)の内容更新 <p>中百舌鳥本部のHPおよび看護学部のHPについて更新した。</p> キャンパスガイド2010の内容(学部・大学院)更新 <p>在校生の声・卒業生の声、学部長挨拶の原稿について更新手続き中である。</p>

<p>来年度の課題</p>	<p>原則的には平成 21 年度の活動を踏襲する。</p> <p>○HP(PC サイト, モバイルサイト)については, 引き続き定期的な更新を継続する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・適切な内容が適切な時期にアップできるように, 学内からの情報提供を募っていく。特に各委員会活動のキャッチが課題である。 <p>○大学院紹介パンフレットについては, 引き続き 4 月末完成を目指す。</p> <p>○学部紹介パンフレットについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラム改正に合わせて, 内容をリニューアルする。 ・現行 7 学部のままで作成するか, 学域・学類で新たに作成するかについては, 本部の方針に沿う。 <p>○看護学研究科 CNS コース紹介パンフレット (第 2 版) の作成</p>
---------------	--

委員会名	看護学部研究倫理委員会
目的	教職員及び看護学研究科学生が行う人間を対象とする研究の倫理審査に関する審議を行う。
構成員	看護学部： 青山学部長，高見沢教育研究会議委員，山中教授（委員長）， 榎木野教授（副委員長），勝山准教授，長畑准教授， 事務所：山本事務所長 外部委員：楠洋子，山田泰子，北村愛子
活動概要	1)6回の委員会を開催し，95件の研究の審査を行った。 2)委員会規定の改訂，指針の作成等，委員会活動のための整備を行った。
来年度の課題	申請数が多く，委員会への負担が増えてきていることへの対策

委員会名	年次計画達成戦略委員会 (公立大学法人大阪府立大学計画策定ワーキンググループ)
目的	公立大学法人大阪府立大学の中期計画及び年度計画の策定・ 管理について検討を行う。(部局・学部において検討)
構成員	青山学部長, 高見沢教育研究会議委員, 町浦教授(委員長), 中村教授, 荒木准教授, 池田准教授, 鎌田准教授, 田中(結)准教授, 松田講師, 竹下助教, 山居助教,
活動概要	○中期計画の策定及び変更に関する検討 ○年度計画の策定 ○年度計画の進捗管理及び実績の作成 平成 21 年度は第 1 回～3 回の会議にむけて, その 1 ヶ月前に看護学部でワーキング会 議を行い, 新規取組事業や重点取組事業については教授会に諮った。 ・第 1 回会議 (21 年 5 月 26 日) ; 平成 20 年度計画実績の策定 ・第 2 回会議 (21 年 12 月 11 日) ; 平成 21 年度計画の実施状況 (上半期 ; 10 月 1 日 現在) ・第 3 回会議 (22 年 2 月 9 日) ; 平成 22 年度計画素案の検討 第 2 期中期計画について ・第 4 回会議 (22 年 3 月 2 日) ; 平成 22 年度計画の策定
来年度の課題	第 1 期中期計画の最終年度であるため, 6 年間を通しての進捗状況の評価が必要と なる。平成 23 年度からは第 2 期中期計画に入るが, 大学改革, 新大学設置にともなっ た中期計画年度を策定する。

委員会名	大学院看護学研究科附置研究所 療養学習支援センター運営委員会
目的	<p>第1条 この規程は、大阪府立大学大学院看護学研究科規程(平成17年公立大学法人大阪府立大学規程第61号)第6条第2項の規定に基づき、療養学習支援に関する研究・教育・実践を推進するとともに、その成果を地域に還元し看護の質の向上に寄与するため、大阪府立大学大学院看護学研究科療養学習支援センター(以下「センター」という。)の組織及び運営に関し必要な事項を定める。</p> <p>(業務)</p> <p>第2条 センターは、次の各号に掲げる業務を行う。</p> <p>(1) 療養学習支援の研究・教育に関すること</p> <p>(2) 療養学習支援の実践に関すること</p> <p>(3) 療養学習支援に関する情報の提供に関すること</p> <p>(4) 療養学習支援に関する学術交流に関すること</p> <p>(5) その他センターに関し必要なこと</p>
構成員	青山学部長(所長), 中村教授(主任), 松尾教授(副主任), 階堂教授, 田中(京)教授, 中山教授, 町浦教授
活動概要	<p>1. プロジェクト活動</p> <p>療養学習支援センターを活動の基盤として10のプロジェクトが活動を行った。電話や来所相談として「手術についてのお悩み相談」「長期療養が必要な病気の相談」「患者アドボカシー相談」を行っている。センターに来所する教室として「脳いきいき教室」、新規に「前向き子育てプログラム」「感染予防のための手洗い講習会」を開催した。また、当事者やご家族の集まりとして「肺がん患者さんのご家族のためのサロン」「快適に過ごそう更年期」が開催された。参加人数は、取り組みにより数名から80名と差がみられるが、地域での活動が定着し、拡大してきている。</p> <p>2. 研究助成・活動助成</p> <p>研究助成では3件、活動助成では3件の申請が認められ、総額1,653,000円の助成を行った。平成22年2月5日には報告会を開催し、助成を受けたプロジェクトの活発な活動状況が報告された。</p> <p>3. 健康フェア</p> <p>療養学習支援センターの地域貢献活動として、平成21年10月25日(日)に羽曳野キャンパス祭(杏樹祭)に合わせて、健康フェアを開催した。参加者は周辺地域から52名あり、健康に関する身体測定(体組成、骨密度など)、体操、健康相談が盛況であった。</p> <p>4. 広報活動</p> <p>療養学習支援センターの活動を地域に発信するために、ホームページの掲載とプロジェクト活動の案内を羽曳野市市報に掲載した。また、パンフレットを作成し、関係部署に配布した。</p>

	<p>5. 闘病記文庫活動 闘病記文庫は、羽曳野図書センター内に開架している。新刊図書の購入を行い、パンフレットを作成し、活動の広報に努めた。また、学生とともに「闘病記を読む会」にも取り組み、学習を深めることができた。</p> <p>6. 教育研究に使用する機材の管理 平成21年度教育研究高度化支援事業の元気はつらつプロジェクトの一環として、学部が所有している機材（備品）を利用しやすくするために、マニュアルなどの整備を行った。</p> <p>7. 運営委員会活動 運営委員会を7名で組織し、円滑な運営ができるように年間10回の委員会を開催し、活動の検討や推進のための調整活動を行った。</p>
来年度の課題	①プロジェクト活動，研究の活性化を図る。新規取り組みの増加対策を打つ。とくに、機材（備品）の有効活用を図る必要がある。 ②闘病記文庫担当者の退職により，新任の担当者の検討。 ③運営委員の交代を行い，学部教員間での療養学習支援センターの認識を広める。

委員会名	領域主任教授会
目的	次の事項について検討を行う <ul style="list-style-type: none"> ・教員の教育, 研究, 社会貢献, 学部運営における活動に関すること。 ・予算の管理に関すること。 ・各領域間の調整に関すること。 ・その他領域の運営に関すること。
構成員	青山学部長(委員長), 高見沢教育研究会議委員(療養領域代表と兼任), 桑名教授, 高辻教授, 星教授, 町浦教授, 上野教授(学生委員長), 榎木野教授(教務副委員長),
活動概要	開催状況: 毎月2回のペースで開催した。定例18回 検討事項: <ul style="list-style-type: none"> ・主任教授会規定に基づき, 教授会, 研究科会議の検討事項のうち, 事前検討の調整が必要なものについて検討した。 (役割の担当) 人事: 青山, 高見沢 予算: 星, 町浦, 榎木野, 桑名 施設・設備: 高辻, 桑名 学生: 上野 <ul style="list-style-type: none"> ・平成21年度は通常の人事管理, 予算管理以外に, 大阪府立大学再編「府立大学のあり方」案, 大阪府病院機構との連携強化策, 看護学研究科における学生からの訴えの対応, 研究室の使用に関する将来計画などを検討した。
来年度の課題	府立大学全体の方針に基づきながら, 看護学部の特徴のある将来像(第2次中期目標計画素案)を策定する。

委員会名	羽曳野図書館センター運営委員会
目的	大阪府立大学羽曳野図書館センターの運営に関する必要な事項を審議する
構成員	桑名教授(委員長), 林田准教授, 佐々木講師, 北村助教 総合リハビリテーション学部教員4名
活動概要	<p>1. 月に一度の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学術情報図書館センター図書委員会における審議事項等の報告及び羽曳野図書館センターとして対応すべき検討事項の審議 ○ 羽曳野図書館センターの運営にかかる事項の検討 <p>主な活動内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 図書館カレンダー 開館時間, 休館日の承認 2) 貸し出し冊数, 期間の検討 3) 電子ジャーナルの検討 4) 図書館利用に関するアンケート 5) 選書会議 6) 学生選書委員の選出 7) 購入雑誌の重複整理 8) 羽曳野図書館センター主催の催事に関する事項 キャラクター, 貸し出しバッグ, Tシャツ作成 図書館グッズ, お弁当コンテスト 闘病記文庫にかかる広報としてシンポジウム開催 9) 文献複写サービスの施行 10) 広報誌図書館センターNews 11) その他
来年度の課題	<p>1. 文献複写サービス</p> <p>図書館センターで所有していない文献に関しての補完的サービス 学部長裁量経費の継続</p>

委員会名	羽曳野キャンパス感染対策委員会
目的	大阪府立大学羽曳野キャンパスにおける感染対策を適切に実施する。
構成員	山中教授（委員長）， 植木野教授， 堀井教授， 佐藤准教授， 田中（結）准教授， 総合リハビリテーション学部教員 4 名 田中看護師（保健室）
活動概要	3 回の委員会を開催し， また羽曳野キャンパス危機管理対策本部とも連携して活動を行った。主な活動内容を以下に示す。 1) 新型インフルエンザ対策 ・ 学生・教職員の発生状況の把握 ・ 予防および発症時の対応の啓発 →学生・教職員を対象としたミニレクチャーを 2 回開催した（講師：佐伯副委員長） →掲示物による周知 →看護学部実習における対策指針の作成（教務委員会）への助言 2) その他の感染症に関する掲示物等による啓発 3) 委員会規定および指針の改訂
来年度の課題	新たに発生が予測される感染症への対策。 中百舌鳥キャンパスに設置された健康管理センター及び危機管理対策本部との連携を深める。

第4章 学生の受け入れ

1. 看護学部

1) 入学者受け入れの方針

(1) アドミッション・ポリシーとその周知方法

「看護学部入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）」を平成16年度に制定した（資料4-1-1-1）。

資料4-1-1-1

看護学部入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）

少子化、高齢化、国際化など社会構造の変化と国民のニーズの多様化、医療の高度化、専門化を背景に、わが国の看護・医療は大きく変わりつつあります。その中で看護職の占める役割はますます重要になってきています。看護学部では生命の尊重と個人の尊厳を基盤とし豊かな人間性を形成するとともに、看護の専門的知識・技術をもって社会ニーズに応えて、幅広い分野で活躍できる看護専門職者を育成し、人々の健康の維持・増進に寄与するとともに国際社会に貢献できる人材の育成を目指しています。

したがって、看護学部では次のような学生を求めています。

- ①人間の喜び、苦しみ、痛みを分かち合え、生命の尊厳について理解しようとする姿勢をもった人
- ②幅広い学問分野に支えられた専門的な看護に必要な知識・技術を主体的、積極的に修得できる高い基礎学力をもった人
- ③保健・医療・福祉などの場において他のヒューマンサービスを提供する人々と連携することのできる柔軟性を有しリーダーシップのとれる人

看護学部の入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）については、下記の通り、選抜要項や募集要項に掲載したほか、Web ページや携帯サイト上にも掲載して公表に努めた。

- ① 「平成22年度入学者選抜要項（p.4）」
- ② 「平成22年度学生募集要項（一般入試）（p.4）」
- ③ 「平成22年度学生募集要項（2年次編入学試験）（p.1）」
- ④ 「平成22年度（2010年度）推薦入学学生募集要項（p.1）」
- ⑤ 「平成22年度（2010年度）外国人留学生特別選抜学生募集要項（p.4）」
- ⑥ Web ページ（URL: http://www.nursing.osakafu-u.ac.jp/kango_rinen.html）
- ⑦ 携帯サイト（URL: <http://osakafu-u.ac.jp/osakafu-u/>）

「平成22年度学生募集要項（2年次編入学試験）」は近畿圏の243の大学・学部へ送付し、「平成22年度（2010年度）推薦入学学生募集要項」は、大阪府内の高等学校267校に送付した（出願の多い学校へは3部送付）。オープンキャンパス（平成21年8月8日・9日開催予定）は新型インフルエンザによる感染予防のため中止となったが（中止を知らずに来訪した参加者には個別に対応）、平成21年10月24日に開催した入試ガイダンス（高校生他の学生271名、保護者他132名参加）では、学部説明の中でアドミッション・ポリシーについて説明し、募集要項等の資料の配布を通して周知の機会とした。

(2) 一般選抜入試

大学入試センター試験については、前期日程、後期日程ともに、平成17年度より5教科6科目としてセンター試験の配点を800点とした。アドミッション・ポリシーの「国際社会に貢献できる人材の育成」の観点から、センター試験では外国語（英語）のリスニングテストを課している。

個別学力検査については、同じくアドミッション・ポリシーの「国際社会に貢献できる人材の育成」の観点から、平成20年度入学者選抜より前期日程試験において新たに外国語（英語）を加え、試験時間60分、配点100点とした。前期日程の小論文試験では試験時間を90分、配点200点とし、アドミッション・ポリシーの「幅広い学問分野に支えられた(中略)高い基礎学力を持った人」の選抜に努めた。後期日程の小論文試験では試験時間120分、配点300点とし、「人間の喜び、苦しみ、痛みを分かち合え、生命の尊厳について理解しようとする姿勢をもった人」を選抜するために、人間理解に絞った問題とした。

前期日程試験はセンター試験800点、小論文200点、外国語(英語)100点の計1100点で、また後期日程試験はセンター試験800点、小論文300点の計1100点で判定を行った。

(3) 特別選抜入試

①外国人特別選抜（留学生）

平成17年度から新たにTOEFLを課した。選抜方法は小論文試験、面接試験、日本留学試験の成績、TOEFL、成績証明書で総合的に判定する。募集人員は若干名である。また、平成19年度から出願資格に次の3点を付加している。

- 1)日本留学試験の「日本語」の得点が220点以上
- 2)日本留学試験の「理科」と「数学(コース1またはコース2)」の合計得点が200点以上
- 3)TOEFLの得点がPBT：450点，CBT：133点，IBT：45点以上。

②2年次編入学試験

看護師・保健師・助産師を志す多様な人材を受け入れるために2年次編入学試験を実施している。出願資格としては、学校教育法第83条に定める大学を卒業した者及び平成22年3月に卒業見込みの者等を条件としている。小論文試験と面接試験についてはアドミッション・ポリシーを反映した内容としている。入学者の選抜は、筆記試験、面接試験の結果及び出願書類を総合的に判定して行っている。

③推薦入学試験

出願できるのは、「調査書の全体の評定平均値4.0（5点満点）以上である者」、「看護学に関する知識と技術の修得に熱意をもち、学力、人物ともに優れ、出身学校長が責任をもって推薦する者」等の条件に該当する者である。1高等学校等で推薦できる人数は、大阪府内の高等学校等は3名以内、その他の高等学校等は1名としている。入学者の選抜は、小論文試験（英文資料の読解を含む）、面接試験の成績、調査書及び推薦書等を総合的に判定して行っている。

2) 入学者選抜の実施体制

入学試験に関する企画と適性かつ円滑な実施を図ることを目的として看護学部入学試験委員会が設けられている。委員会は学部長を委員長とし、教育研究会議委員、教授会が選出した教授5名、教授会が選出した教員2名、羽田野キャンパス事務所長、その他委員会が必要と認める者から構成され（第3条）、平成21年度は13名で運営された。さらに、入学試験に関して、大学全体の全学入試運営委員会、入学試験あり方部会、出題採点部会、入試広報部会にも学部の入試委員が参加することで、大学全体との調整を図った。

試験実施は入試委員を中心とする教員が試験監督、面接試験委員を務め、事務担当者が試験会場の設営、入試事務に関する業務を行った。試験当日の実施について、担当者に対しては必ず実施に関するオリエンテーションを行い、担当業務が責任を持って正確に行われるよう確認した。試験実施に関して、受験生からの試験に関するクレーム等は全くなかった。

合格者の決定については、試験の種類により決められた選抜基準に基づき、入学試験委員会において合否判定資料案を作成した後、教授会の審議により合格者を決定した。

3) 入学者受け入れの現状

平成22年4月入学者の現状を次に示す。ほぼ募集人員通りである。

	選抜方法等	募集人員(名)	入学者数(名)
一般選抜	前期日程	50	45
	後期日程	12	20
特別選抜	外国人特別選抜	若干名	0
	2年次編入学	10	10
	推薦入学	55	55

2. 看護学研究科

1) 入学者受け入れの方針

(1) アドミッション・ポリシーとその周知方法

「看護学研究科入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）」（資料4-2-1-1）を平成16年度に制定した。

資料4-2-1-1

看護学研究科入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）

看護学研究科は、多様化、複雑化、高度化する社会環境の中で、生命と人権の尊重を基盤として、看護に求められる社会的使命を遂行し、看護学を実践的・創造的に発展させ、地域社会および国際社会のあらゆる健康レベルの人々に貢献できる高度な看護分野の実践者、管理者、教育者、研究者を育成することを目指しています。

●前期課程

博士前期課程では、人間の存在と生命の尊厳について深く理解し、広い視野に立って清深なる学識を修め、専門分野における教育研究能力、あるいは高度に専門的な実践能力を有する人材を育成することを目標にしています。このような目標を達成するため、博士前期課程では入学者に次の3点を求めます。

- ①看護倫理に基づく看護・看護学へのコミットメントを有していること
- ②論理的思考力や課題探求力と併せて、専攻する学問分野の専門的基礎および応用能力と国際的関心を有していること
- ③高度専門職業人として、看護実践ならびに看護学の発展に貢献する意欲を有していること

●後期課程

博士後期課程では、豊かな学識を有し、看護学分野において学術研究を推進しその深奥を究め、自立して研究活動を行うことができる能力を有する人材を育成することを目標にしています。このような目標を達成するため、博士後期課程では入学者に次の3点を求めます。

- ① 探求心旺盛で創造的に看護の視点から自立して研究に取り組む姿勢を有していること
- ② 専門分野について深い基礎および応用能力を有し、多様な学問分野への高い関心と国際的な視野を備えていること
- ③ 豊かな人間性ととも、看護の社会的認知を高め看護学ならびに看護実践・教育の発展に貢献する熱意を有していること

看護学研究科の入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）については、下記の通り、募集要項に掲載したほか、Web ページ上にも掲載して公表に努めた。看護学研究科の学生募集要項は看護系の大学(106件)や病院(226)に対して送付している。

- ① 「大阪府立大学大学院看護学研究科学生募集要項 (p. 1)」
- ② Web ページ (URL: http://www.nursing.osakafu-u.ac.jp/gra_top.html)

(2) 入学試験

博士前期課程では外国語（英語）、専攻科目、面接試験を実施し、専攻科目試験はきめ細かく適性を判断するために各領域・分野ごとの出題としている。博士後期課程では外国語（英語）、専門科目（全分野共通）、口述試験を行っている。いずれもアドミッション・ポリシーに見合う専攻科目・専門科目と面接試験・口述試験を実施している。

2) 入学者選抜の実施体制

研究科の入学試験についても、看護学部入試委員会において企画とその実施が適性かつ円滑に行われるような体制が整っている。平成 21 年度は前期課程で第 2 次募集が行われたが、問題なく入学試験は実施された。

3) 入学者受け入れの現状

平成 22 年 4 月入学者の現状を次に示す。ほぼ募集人員通りである。

		募集人員（名）	入学者（名）
看護学研究科	博士前期課程	26	27
	博士後期課程	5	5

3. 科目等履修生制度、研究生の受け入れについて

看護学部では、高等学校を卒業した者またはそれと同等以上の学力があると認めた者が看護学部の授業科目を履修することのできる科目等履修生を毎年度、前期・後期の計 2 回募集している。平成 21 年度は科目等履修生の応募はなかった。

看護学研究科では、看護系大学院修士課程又は博士前期課程を修了した者が、看護学研究科の講義科目を履修することのできる科目等履修生を毎年度、前期・後期の計 2 回募集している。また大学卒業見込み又はこれと同等以上の学力があると認められた者が研究について指導を受けることのできる大学院研究生を毎年度、前期・後期の計 2 回募集している。平成 21 年度は 1 名の科目等履修生と 2 名の大学院研究生を受け入れ専門的学術を教授し、健康と福祉の向上に寄与する研究を指導した。

第5章 教育内容及び方法

1. 教育課程の編成・授業科目の内容

1) 看護学部

看護学部では、生命の尊重と個人の尊厳を基盤とし、豊かな人間性を形成するとともに、科学的専門知識・技術を教授し、看護を総合的な視野で捉えられる人材を育成することを教育目的とし、これを達成するために教育課程が編成されている。その編成は、幅広い教養を身につける「教養科目・基盤科目」、看護学の基盤教育としての「専門支持科目」、看護学の「専門科目」からなる。教養教育は、大阪府立大学全体の教養教育と基礎教育を任う総合教育研究機構が実施している。看護学の「専門科目」は、「人・環境支援看護学」「療養支援看護学」「生活支援看護学」「家族支援看護学」「総合」(平成21年度入学生からは「人・環境支援看護学」「療養支援看護学」「生活支援看護学」「家族支援看護学」「看護の統合と実践」)から構成している。

「教養科目・基盤科目」、「専門支持科目」、「専門科目」は、学習の順序性を考えて体系的に配置している(資料5-1-1)。「教養科目・基盤科目」は主に1年次に配置し、国際的な視野で貢献できる能力を養う実用英語習得のための英語教育は1年次、2年次に配置している。「専門支持科目」は、主に1年次、2年次に配置し、からだの構造や機能、病態や疾病、チーム医療に関連する知識や能力等を理解するための科目等を開設している。「専門科目」は、1年次から4年次に配置し、「人・環境支援看護学」「療養支援看護学」「生活支援看護学」「家族支援看護学」の専門領域別の科目では、看護に必要な知識と技術および科学的根拠に基づく問題解決能力を養う内容が含まれている。さらに、専門領域別の実習を1年次から4年次に配置し、保健・医療・福祉などの分野において、看護の実践能力および調整的能力を養う内容となっている。「総合」(平成21年度入学生からは「看護の統合と実践」)では、看護学への関心を深め、総合的な視野と看護学研究の基礎能力を養うための科目等を開設している。

また、平成18年度より転学部制度を導入し、南大阪地域の大学と南大阪コンソーシアムとして協定を結び、互換可能な開講科目について単位認定を可能にしている。

資料 5-1-1 看護学部 卒業要件, 授業科目一覧

卒業要件単位	科 目			計	
	教養科目・基盤科目	10	20		30
	専門支持科目	24	4		28
	専門科目	59	11		70
計	93	35	128		

区分	授 業 科 目		授 業 時 間 数			卒 業 要 件	単 位	授 業 時 間 数			卒 業 要 件 単 位			
	授 業 科 目 名	必 修	選 択	講 義	演 習			実 習	必 修	選 択		講 義	演 習	実 習
共 通	教養科目	2		30			30 単位以上 (必修科目 10単位+ 選択科目 20単位以上)	専 門 支 持 科 目	形態機能学 I	2		60		28 単位以上 (必修科目 24単位+ 選択科目 4単位以上)
	生命倫理学			30					形態機能学 II	2		45		
	音楽と生活	2		30					運動生理学	1		30		
	造形と生活	2		30					生化学 I	1		30		
	家族社会学	2		30					病理学	1	15			
	心理学	2		30					疾病・治療 I	2		60		
	医療と社会	2		30					疾病・治療 II	1		30		
	医療と法	2		30					疾病・治療 III	1		30		
	人間発達学	2		30					医療遺伝学	1		30		
	化学	2		30					微生物学	1		30		
生物学	2		30			薬理学	1		30					
共 通	基盤科目						10 単位+ 選択科目 20単位以上)	専 門 支 持 科 目	臨床心理学	1	1	30		70 単位以上 (必修科目 59単位+ 選択科目 11単位以上)
	健康スポーツ科学科目								健康と社会・環境 I	1		30		
	健康・スポーツ科学演習 I	2		30					栄養学総論	1		30		
	健康・スポーツ科学演習 II	2		30					疫学	2		30		
	・外国語科目(英語を除く)								保健情報学	1		30		
	中国語基礎 I	2		30					医療と社会福祉学	2		45		
	中国語基礎 II	2		30					行動科学	2	2	30		
	朝鮮語基礎 I	2		30					人間工学	2	30			
	朝鮮語基礎 II	2		30					コミュニケーション論	1		30		
	・一般情報科目(選択)								チーム力動論	1	1	15		
情報基礎 A I (情報社会と情報倫理を含む)	2		30			チーム医療論	1		15					
情報基礎 A II	2		30			総合リハビリテーション論	1		15					
・外国語科目(英語)						カウセンリング	1	1	15					
英語 A I	2		30			人・環境 支 援 支 持 科 目	看護学概論	2		30		70 単位以上 (必修科目 59単位+ 選択科目 11単位以上)		
英語 A II	2		30				人・環境支援技術論	1		30				
英語 D I	2		30				人・環境支援技術 I	1			45			
英語 D II	2		30				人・環境支援技術 II	1			45			
(1年次中百舌鳥開講科目・水曜日分)							人・環境支援論	1		30				
教養科目							人・環境支援論：対人関係技法	1	15					
哲学と思考	2		30				人・環境支援論：管理/教育	1	30					
現代の歴史	2		30				医療環境と看護 △	1	15					
生物と人間社会	2		30				人・環境支援看護学実習 I	1		45				
哲学と人生	2		30				人・環境支援看護学実習 II	2		90				
都市と環境	2		30			療 養 支 援 支 持 科 目	療養支援看護学概論	3		45				
自然科学の歴史	2		30				病態看護支援論	2		60				
数理学のトピックス	2		30				療養支援論	2		60				
比較文学の世界	2		30				療養支援論：急性	2		60				
文学と社会	2		30				療養支援論：慢性	2		60				
現代社会と倫理	2		30				感染看護論 △	1	15					
自然科学への招待	2		30				療養支援看護学基本実習	5		225				
現代日本経済入門	2		30				療養支援看護学応用実習 ※	4		180				
自然における右と左の関係	2		30				生 活 支 援 支 持 科 目	生活支援看護学概論	3		45			
憲法	2		30					生活支援論	2		60			
歴史学の現在	2		30			生活支援論：老年 I		1		30				
世界の文学	2		30			生活支援論：精神 I		1		30				
社会と思想	2		30			生活支援論：地域 I		1		30				
ジェンダー論への招待	2		30			生活支援論：地域 II		2		60				
数学の手法	2		30			生活支援論：在宅		1		30				
現代社会と障害 A	2		30			生活支援論：老年 II		1		30				
人間学入門	2		30			生活支援論：精神 II		1		30				
アイデンティティと文化	2		30			災害支援看護論 △		1	15					
教 育 科 目	現代文化論	2		30			生活支援看護学基本実習	5		225				
	法と社会	2		30			生活支援看護学応用実習 I ◎	4		180				
	現代社会と障害 B	2		30			生活支援看護学応用実習 II ◎	4		180				
	文学の基礎	2		30			家 族 支 援 支 持 科 目	家族支援看護学概論	3		45			
	現代の地域を考える	2		30				家族看護論	1		30			
	暮らしと法律	2		30				家族支援論：母性	2		60			
	人権問題論 A	2		30				家族支援論：小児	2		60			
	変容する社会と社会学	2		30				セクシュアリティと看護 △	1	15				
	情報とは何か	2		30				家族支援看護学基本実習	3		135			
	国際文化の視点	2		30				家族支援看護学応用実習 ※	4		180			
総合教養科目「環境と人間」	2		30			基礎助産学		1	15					
宗教の諸相	2		30			助産診断技術学 I		1		30				
現代のドイツ	2		30			助産診断技術学 II		3		90				
暮らしと経済	2		30			助産管理	1	15						
美術史入門	2		30			助産学実習	7		315					
物質と人間	2		30			総 合	研究方法論	1		30				
スポーツと臨床心理	2		30				国際保健 △	1	15					
からだの科学	2		30				ターミナルケア △	1	15					
問題群としての社会	2		30				人権と医療 △	1	15					
ゼミナール問題群としての社会	2		30				出産・子育てと文化 △	1	30					
ゼミナール日本文学の世界	2		30				看護援助論(eラーニング科目)	1		15				
ゼミナール現代文化論	2		30				総合研究	2		90				
ゼミナールアイデンティティと文化	2		30											
ゼミナール哲学と思考	2		30											
ゼミナール数理学	2		30											
ゼミナール鑑賞と研究	2		30											
基盤科目	・外国語科目(英語を除く)													
	ドイツ語基礎 I	2		30										
	ドイツ語基礎 II	2		30										
	フランス語基礎 I	2		30										
	フランス語基礎 II	2		30										

1年次中百舌鳥開講科目・水曜日分以外にも他の科目を修得すれば単位認定できる。

[専門科目の選択科目]
 ※印から4単位を修得すること。
 ◎印から4単位を修得すること。
 △印から3単位以上を修得すること。

資料 5-1-1 看護学部 卒業要件, 授業科目一覧 (平成 21 年度入学生)

卒業要件単位	科 目			計		
	教養科目・基盤科目		12		18	30
	専門支持科目		23		1	24
	専門科目		72		2	74
計		107	21	128		

区分	授 業 科 目 名		授 業 時 間 数			卒 業 要 件	区 分	領 域	授 業 科 目 名		授 業 時 間 数			卒 業 要 件
	必修	選択	講義	演習	実習				必修	選択	講義	演習	実習	
共 同 教 育 科 目	教養科目		2	30		30 単位以上 (必修科目 12 単位 + 選択科目 18 単位以上)	専 門 支 持 科 目		解剖生理学 I		2		60	24 単位以上 (必修科目 23 単位 + 選択科目 1 単位以上)
	生命倫理学								解剖生理学 II		2		60	
	基盤科目								生化学		1		30	
	・健康・スポーツ科学科目								病理学		1	30		
	健康・スポーツ科学演習 I		2		30				疾病論 I		1		30	
	健康・スポーツ科学演習 II		2		30				疾病論 II		1		30	
	・外国語科目 (英語を除く)								疾病論 III		1		30	
	中国語初級 A I (基礎)		2		30				疾病論 IV		1		30	
	中国語初級 A II (基礎)		2		30				医療遺伝学		1		30	
	朝鮮語初級 A I (基礎)		2		30				微生物学		1		30	
朝鮮語初級 A II (基礎)		2		30	薬理学		1		30					
・一般情報科目					栄養学総論		1		30					
情報基礎 A I		2	2	30	疫学		2		30					
情報基礎 A II				30	保健統計学		1		30					
・外国語科目 (英語)					医療と社会福祉学		1		30					
英語 A I		2		30	コミュニケーション論		1		30					
英語 A II		2		30	医療と法		2	30						
英語 D I		2		30	チーム医療論		1		30					
英語 D II		2		30	公衆衛生学		1		30					
(1 年次中百舌鳥開講科目・水曜日分)					カウンセリング論		1	15	30					
教養科目					臨床心理学		1		30					
哲学と思考		2		30	家族社会学		1		30					
現代の歴史		2		30	看護学概論		2	30						
生物と人間		2		30	人・環境支援技術 I		2		60					
科学と文化		2		30	人・環境支援技術 II		2		60					
哲学と人生		2		30	人・環境支援論		1		30					
都市と環境		2		30	人・環境支援論・対人関係技法		1	15						
科学の歴史		2		30	人・環境支援論・管理/教育		2	30						
数理解科学のトピックス		2		30	人・環境支援看護学実習 I		1		45					
ゼミナール科学と文化		2		30	人・環境支援看護学実習 II		2		90					
比較文学の世界		2		30	療養支援看護学概論		2	30						
文学と社会		2		30	病態看護支援論		2		60					
現代社会と倫理		2		30	療養支援論・急性 I		1		30					
自然科学への招待		2		30	療養支援論・急性 II		1		30					
現代日本の政治と経済		2		30	療養支援論・慢性 I		1		30					
医療と社会		2		30	療養支援論・慢性 II		1		30					
医療と心理学		2		30	療養支援論・がん		1		30					
自然における右と左の関係		2		30	療養支援論・感染		1		30					
歴史学の現在		2		30	療養支援看護学実習：急性		3		135					
世界の文学		2		30	療養支援看護学実習：慢性		3		135					
生命環境科学研究の最前線		2		30	生活支援看護学概論・老年		1	15						
造形と生活		2		30	生活支援看護学概論・在宅		1	15						
総合教養科目「近代を問う」		2		30	生活支援看護学概論・精神		1	15						
ジェンダー論への招待		2		30	生活支援看護学概論・地域		2	30						
数学の手法		2		30	生活支援論・老年 I		1		30					
現代社会と障害		2		30	生活支援論・老年 II		1		30					
現代文化論		2		30	生活支援論・在宅 I		1		30					
「大学」を学ぶ-大阪府立大学史への誘い-		2		30	生活支援論・在宅 II		1		30					
人間学入門		2		30	生活支援論・精神 I		1		30					
法と社会		2		30	生活支援論・精神 II		1		30					
問題群としての社会		2		30	生活支援論・地域 I		1		30					
文学の基礎		2		30	生活支援論・地域 II		1		30					
障がい者と心理		2		30	生活支援論・地域 III		1		30					
ゼミナール日本文学の世界		2		30	生活支援看護学実習：老年		4		180					
ゼミナール現代文化論		2		30	生活支援看護学実習：在宅		2		90					
憲法		2		30	生活支援看護学実習：精神		2		90					
暮らしと法律		2		30	生活支援看護学実習：地域		4		180					
人権問題論 A		2		30	家族支援看護学概論・母性		1	15						
美術史学入門		2		30	家族支援看護学概論・小児		1	15						
変容する社会と社会学		2		30	家族看護論		2		30					
科学の歴史		2		30	家族支援論・母性 I		1		30					
情報とは何か		2		30	家族支援論・母性 II		1		30					
国際文化の視点		2		30	家族支援論・小児 I		1		30					
ゼミナール教養のための読書サロ		2		30	家族支援論・小児 II		1		30					
宗教の諸相		2		30	家族支援看護学実習：母性		2		90					
現代のドイツ		2		30	家族支援看護学実習：小児		2		90					
暮らしと経済		2		30	基礎助産学		1	15						
ゼミナール鑑賞と研究		2		30	助産科		3		30					
音楽と生活		2		30	助産診断技術学 I		1		90					
物質と人間		2		30	助産診断技術学 II		3		90					
コミュニケーションの諸相と文化		2		30	助産管理		1	15						
比較文化社会論		2		30	助産学実習		8		360					
スポーツと臨床心理		2		30	研究方法论		1		30					
企業における研究・開発・企画		2		30	総合研究		2		90					
からだの科学		2		30	国際保健		1	15						
ゼミナール哲学と思考		2		30	人権と医療		1	15						
ゼミナール現代思想入門		2		30	出産・子育てと文化		1	15						
ゼミナール変容する社会と社会学		2		30	災害支援看護論		1	15						
ゼミナール数理解科学		2		30	セクシュアリティと看護		1	15						
基盤科目					医療環境と看護		1	15						
・外国語科目 (英語を除く)					看護援助論 (eラーニング科目)		1		15					
ドイツ語初級 A I (基礎)		2		30	総合実習		2		90					
ドイツ語初級 A II (基礎)		2		30										
フランス語初級 A I (基礎)<B組>		2		30										
フランス語初級 A II (基礎)<B組>		2		30										

1 年次中百舌鳥開講科目・水曜日分以外にも他の科目を修得すれば単位認定できる。(自由選択枠等)

2) 看護学研究科

看護学研究科では、大阪府立大学大学院看護学研究科規程(規定第61号第3条)に基づき、専攻領域及び分野を定めている。

博士前期課程は、人間の存在と生命の尊厳について深く理解し、広い視野に立って精深なる学識を修め、専門分野における教育研究能力、あるいは高度に専門的な実践能力を有する人材を育成することを目的とし、「人・環境支援看護学」「家族支援看護学」「生活支援看護学」「療養支援看護学」の4つの専門領域に修士論文コース、「家族支援看護学」「生活支援看護学」「療養支援看護学」の3つの専門領域にわたる11の分野に専門看護師(CNS)コースを設置している。さらに、職業を有している等の事情により、標準修学年限(博士前期課程2年)では大学院の教育課程の履修が困難な学生を対象に、標準修業年限を超えて計画的に教育課程を履修できる長期履修制度を設置している。教育課程の編成は、教育研究能力を修める「基盤教育科目」と専門的な実践能力を習得する「専門教育科目」からなる(資料5-1-2-①)。「基盤教育科目」は、「理論看護学」、「看護学研究法」等の必修科目、「調査研究処理法」「医療社会福祉学」等の選択科目、「専門教育科目」は、専攻領域ごとの特論・演習・実習・研究で構成している。

博士後期課程は、豊かな学識を有し、看護学分野において学術研究を推進しその深奥を極め、自立して研究活動を行うことができる能力を有する人材を育成することを目的とし、「生活支援看護学」「療養支援看護学」の2つの専門領域を設置している。教育課程の編成は、「基盤教育科目」と「専門教育科目」からなり(資料5-1-2-②)、「基盤教育科目」は「看護学研究方法論」の必修科目、「生体科学研究方法論」「健康科学研究方法論」「看護理論開発方法論」等の選択科目、「専門教育科目」は専攻領域ごとの特論・演習で構成している。

資料 5-1-2-② 看護学研究科 博士後期課程 標準履修課程表

区分	領域	授業科目	単位数		授業時間数		1年次		2年次		3年次	
			必修	選択	講義	演習	前期	後期	前期	後期	前期	後期
基盤教育		看護学研究方法論	2		30		○					
		看護学研究方法論演習		1	30		○					
		生体科学研究方法論		1	15		○					
		健康科学研究方法論Ⅰ		1	15		○					
		健康科学研究方法論Ⅱ		1	15		○					
		健康科学研究方法論Ⅲ		1	15		○					
		健康科学研究方法論Ⅳ		1	15		○					
		看護理論開発方法論		1	15			○				
専門教育	生活支援看護学	看護技術・情報学特論		2	30		○					
		看護技術・情報学演習		2	60			○				
		看護管理・教育学特論		2	30		○					
		看護管理・教育学演習		2	60			○				
		母子健康看護学特論		2	30		○					
		母子健康看護学演習		2	60			○				
		家族健康看護学特論		2	30		○					
		家族健康看護学演習		2	60			○				
	地域・精神看護学特論		2	30		○						
	地域・精神看護学演習		2	60			○					
	在宅・老年看護学特論		2	30		○						
	在宅・老年看護学演習		2	60			○					
		生活支援看護学特別研究		6		270			○	○	○	
	療養支援看護学	急性療養看護学特論		2	30		○					
急性療養看護学演習			2	60			○					
慢性療養看護学特論			2	30		○						
慢性療養看護学演習			2	60			○					
がん療養看護学特論			2	30		○						
がん療養看護学演習			2	60			○					
感染療養看護学特論			2	30		○						
感染療養看護学演習			2	60			○					
	療養支援看護学特別研究		6		270			○	○	○		

2. 教育方法

1) 看護学部

授業形態は、学習効果を上げるために、「教養科目・基盤科目」「専門支持科目」は講義・演習、「専門科目」は講義・演習・実習で構成しており、授業時間の内訳は、講義 40.2%、演習 27.0%、実習 32.8%（平成 21 年度入学生からは講義 28.1%、演習 40.6%、実習 31.3%）としている。具体的な授業形態および指導形態の例として、「保健情報学」ではコンピュータを使用して情報処理の演習を行い、「形態機能学Ⅰ，Ⅱ」（平成 21 年度入学生からは「解剖生理学Ⅰ，Ⅱ」）では教員が作成したビジュランを活用して授業を行っている。各領域の「支援論」などにおいては、少人数による対話・討論型授業を行っている。臨地実習では、病院、老人保健施設、保健所などの様々なフィールド型実習を行っている。さらに平成 17 年度に採択された文部科学省による現代的教育ニーズ取り組み支援プログラム「看護実践能力の獲得を支援する e-Learning」の教材を授業や実習に活用し、学習指導法を工夫している。

教育の目的に応じた成績評価基準は、大阪府立大学履修規程（規程第 78 号第 12 条 http://www.osakafu-u.ac.jp/info/about/kitei/reiki_honbun/x9400148001.html）、各科目の成績評価基準は、学生必携の授業科目概要に記載している。授業科目および臨地実習の成績評価および単位認定は、各科目の単位認定者が基準に従って実施している。成績評価に関する学生からの異議申し立ては、学生個人から学生グループ学部教務担当または当該科目担当教員に、口頭もしくは書面で行われている。卒業要件基準は、大阪府立大学看護学部規程に則り（規程第 54 号第 8 条）、卒業要件 128 単位、必修単位 93 単位（平成 21 年度入学生からは卒業要件 128 単位、必修単位 107 単位）としている。これは、学士課程の卒業者に、看護師および保健師の国家試験受験資格を与えるためである。その他に、助産師国家試験受験資格の取得を希望する学生に対しては、13 単位（平成 21 年度入学生からは 14 単位）の助産科目を開設している。入学前の既修得単位の認定は、大阪府立大学学則（規定第 47 号第 16 条）に則り、新入学者に対しては、本学入学前に他大学等で修得した科目は個別に審査し、卒業要件単位に認定している。編入学生に対しては、2 年次編入の教養科目は生命倫理学以外の教養科目 28 単位、3 年次編入は、専門支持科目 17 単位、専門科目 51 単位を上限として個別に審査し、卒業要件単位に認定している。卒業認定は、卒業要件に照らし合わせて教授会でを行っている。

2) 看護学研究科

博士前期課程の授業形態および指導形態は、修士論文コースは講義・演習、専門看護師(CNS)コースは講義・演習・実習で構成し、少人数教育を基本としている。講義では質疑応答を含めた対話・討論型授業、演習では情報機器の活用や実験、演習及び実習ではフィールド型授業などを行っている。さらに、学部の授業における Teaching Assistant (TA) としての活動を通して、教育能力を高められるようにしている。

研究指導は、博士前期課程、博士後期課程ともに複数指導教員体制のもとで行い、主査はテーマの選定及び研究方法の検討から論文作成までのすべてのプロセスを直接指導している。副査は主査と緊密な連携をとりつつ、指導にあたっている。論文審査のプロセスとして、博士前期課程では、研究テーマおよび研究計画書を研究科会議で審査し、研究倫理委員会の審査を経て、再度、研究科会議で最終承認する。修士論文・課題研究論文の審査は、研究科会議で選出された主査 1 名と副査 2 名以上で行い、研究科会議で最終承認を行う。博士後期課程では、研究テーマおよび研究計画書を研究科会議で審査し、研究倫理委員会の審査を経て、再度、研究科会議で最終承認する。2 年次には中間報告を行い、教員および他の大学院生の意見を広く求め、研究能力を育成する場としている。博士論文の審査は、研究科会議の全教員で指導する予備審査、研究科会議で選出された主査 1 名と副査 2 名以上で行う本審査を経て、研究科会議で最終承認を行う。

修了要件及び成績評価基準は、大阪府立大学大学院看護学研究科規程(規定第61号第10条,第15条)に則り、成績評価及び単位認定は、各科目の単位認定者が基準に従って実施し、修了認定は、研究科会議の議を経て学長が行っている。成績評価に関する学生からの申し立ては、学生個人から当該科目担当教員または学生グループ教務担当へ行われている。

3. その他

1) 6大学連携オンコロジーチーム養成プラン—近畿圏のがん医療水準の向上と均てん化を目指した国・公・私立大学連携プロジェクト

大阪府立大学看護学研究科は、近畿大学、大阪市立大学、神戸大学、兵庫医科大学、神戸市看護大学の医学・看護学・薬学系大学院研究科とともに、平成19年度に文部科学省に「6大学連携オンコロジーチーム養成プラン—近畿圏のがん医療水準の向上と均てん化を目指した国・公・私立大学連携プロジェクト」を共同申請し、採択された。本プロジェクトでは、6大学連携オンコロジーチーム養成プランに参画する看護学研究科・医学研究科・薬学研究科に属する看護師・医師・薬剤師などを対象に、共通特論Ⅰ「腫瘍病態生物学」、共通特論Ⅱ「臨床腫瘍学総論」、共通特論Ⅲ「臨床腫瘍学各論」等を開講している。場所は、受講者が一堂に集まりやすいナンバプラザビル及び大阪市立大学医学部を使用している。

がんプロフェッショナル養成プランの一貫企画として、事例検討会を開催している。大学院専門看護師コース修了生の実践事例、コンサルテーション事例、コーディネーション事例、倫理調整事例などを検討することで、専門看護師認定審査に向けて適切な実践成果を導き出せる能力の発展、および実践報告書の作成ができることを目的としたものである。大学院を修了後、がん看護専門看護師として活動を行うにあたり、キャリア開発や専門的な看護実践の遂行、専門看護師としての役割開発について講演を行い、実践の場でがん看護専門看護師として役割遂行するための能力の発展が必要となる。開催は月一回程度で、一回約2時間半、参加者は教員(教授、准教授、講師、助教)、大学院後期課程学生、大学院前期課程がん看護専門看護師コース修了生および在学生である。

2) 元気はつらつプロジェクト

本プロジェクトでは、教育研究高度化支援事業の一環として取り組まれた。主な事業は、学生と教員向けの講義、研修会、シンポジウムの開催、教育、研究に活用できる備品の購入と使用環境の整備、大学院パンフレットおよび履修要項の英文翻訳であった。

具体的な取り組み内容として、フィジカルアセスメントの特別講義を、外部講師を招いて3日間開催した。参加者は学部学生、院生、教員と病院看護師で112名であった。また、教員対象に統計処理に関する研修会も開催した。地域の医療従事者と市民、院生を対象に、がん医療に関連する分野で働く専門看護師4名によるシンポジウムとがん看護専門看護師である本学教員による講演会を開催した。専門看護師活動を地域に啓発するとともに、院生が専門看護師の実際の活動に触れる機会となった。

教材の開発や機器の充実に関して、看護eラーニング教材を4事例制作した。とくに大学院教育や療養学習支援センターの地域貢献活動で活用できる教材を制作したことから、看護学部のeラーニングシステムの内容を充実することができた。共同利用可能な備品について、使用マニュアル等の整備を行った。機材のセットアップマニュアルの作成、取り扱い説明書の増し刷り、資料、ケーブル類の整理を行い、研究や教育での利用の利便性を高めることができた。新規購入した備品(サーモグラフィ検査装置、筋電・脳波測定システム、フィジカルアセスメントモデル)の使用説明会を4回開催し、研究活動に有効に利用できるように整備した。学生の看護学習

サポートシステム（e ラーニング）やインターネット利用環境を充実させるために、羽曳野図書センターと視聴覚教室にPCを増設した。

大学院看護学研究科の国際化に対応するためにパンフレットと履修要項の英文翻訳を行った。海外からの視察や交流学生、留学生へ看護学研究科の情報を伝える手段を整備した。

これらの取り組みによって学生・院生の看護技術の向上と教員の教育研究能力の向上が図られた。

第6章 学生支援

1. 学習支援

1) 看護学部

看護学部では、「教養科目・基盤科目」、「専門支持科目」、「専門科目」に属する科目群を有機的に連携させて教育することにより、学習効果をあげることを目指した授業科目概要を作成している。授業科目概要の構成は、担当者や配当年次、開講時期などの基本的な情報と、授業目標、授業の概要、試験・成績評価等の項目からなり、これらの定型化された書式に従って各教員が作成している。学習支援として、入学時および年度当初には履修ガイダンスを行い、成績評価基準、卒業認定基準、授業科目概要等を記載した学生必携を学生全員に配布し、履修指導を行っている。また、選考に基づき助産科目を履修することができ、その説明は入学時と3年次に実施している。さらに、学生が学習相談のために来室或いはメールによる質問・相談ができるよう、授業科目概要には、授業科目ごとに、オフィスアワーおよび教員のメールアドレスを記載している。国家試験対策としては、教員のアドバイスのもと4年次の学生の代表が中心となって、国家試験の模擬試験を年6回（保健師2回、助産師2回、看護師2回）実施している。

学生の自主的学習を支援する環境は、羽曳野図書センター、情報科学演習室・視聴覚室、自習室等の施設整備に加え、携帯型のマルチメディア端末を用いたデジタル教材などを整備している。羽曳野図書センターは、平日9時～20時、土曜日10時30分～19時に開館し、AVブース・AVルーム等を使用することができる。さらに、看護に関する蔵書は日本でもトップクラスであり、他大学図書館との相互利用サービス、データベース・サービス等も充実している。図書館のガイダンスは、新入生および新採用教員へ年度当初に行うとともに、利用についても案内・周知している。情報科学演習室・視聴覚室は、基本的には授業時間を除く平日9時～20時に開放し、パソコンは情報科学演習室50台、視聴覚室34台を整備している。看護技術習得のためには、学内での各専門分野に応じた実習室を整備している。

学生相談を含む学生生活全般への支援は、1～3年次生10～12名に1～2名の教員、4年次生には総合研究科目担当教員が、アドバイザーとして履修上・生活上の問題について継続的に支援を行うアドバイザー制度がある。アドバイザーは、交流会・ミーティングの開催、メール配信や電話による状況把握、面接・個人指導の他、単位の実質化を推進するための指導等を行っている（資料6-1-1）。

資料6-1-1 アドバイザーグループ活動の状況

項目	平成19年度	平成20年度	平成21年度
交流会・ミーティングの開催	20G (のべ44回)	21G (のべ32回)	19G (のべ31回)
メール配信による状況把握	17G	28G	28G
電話による状況把握	—	3G	4G
面接・個人指導	29G	27G	24G
名簿・連絡先等の配布	6G (記載有のみ)	18G	18G
期末試験結果の把握	1G	19G	22G
家族への連絡・家族との相談	—	3G	1G
その他	— —	・入院中の学生への見舞い 1G ・同級生逝去による同学年生への対応 (実習状況把握含む) 3G	・グループ写真配布 1G ・バイク通学申請の承認 1G ・学外での娯楽活動 4G ・推薦状の記載 1G ・実習担当教員との情報交換 2G
活動なし(4月当初のオリエンテーション期間の活動のみ)	3G	0G	6G

はびきのキャンパス学内団体・サークルとしては、体育系11、文化系12、の計23団体が活動している。学内団体・サークルは、自治会が交付する活動資金により活動し、教員が必ず顧問として関わるほか、教授会がサークルの新規申請を承認する前に、学生委員会で活動内容の妥当性について検討している。平成21年度は、文科系1団体、体育系2団体の新規登録が承認されている。サークル室は、図書厚生棟3階に整備しており、学内で施設を利用する場合は所定の書式で申請することにより、ほぼ全面的な施設利用が認められている。自治会活動に対する支援としては、集会室を図書厚生棟3階に整備し、活動資金は入学時に徴収される自治会費に加えて、後援会が交付金として支援している。

また、学習支援に関する学生のニーズをより詳細に把握するために、学生提案箱・BOX21を学生の目につきやすい事務所入口に設置し、投函された意見は、月1回学生グループ長が開封している。さらに、WEB学生サービスセンター(WEBSC)では、WEBSCサイトに「Web提案箱」を設置し、提案した学生に当日中に返信するとともに、寄せられた意見・提案および対応内容をWEBSCサイトで紹介している。平成21年度の学生提案箱の意見とWeb提案箱の意見は3件である。その他、学生委員長、教務委員長、学部長等へ、随時アドバイザーから学生のニーズに関する情報を報告している。

2) 看護学研究科

看護学研究科では「基盤教育科目」と「専門教育科目」に属する科目群を有機的に連携させて教育することにより、学習効果を挙げることを目指した授業科目概要を作成している。授業科目概要の構成は、担当者や配当年次、開講時期などの基本的な情報と、授業目標、授業の概要、試験・成績評価等の項目からなり、これらの定型化された書式に従って各教員が作成している。学習支援として、入学時および年度当初には履修ガイダンスを行い、

成績評価基準, 修了認定基準, 授業科目概要等を記載した学生必携を学生全員に配布し, 履修指導を行っている。さらに, 学生が学習相談のために来室或いはメールによる質問・相談ができるよう, 授業科目概要には, 授業科目ごとに, オフィスアワーおよび教員のメールアドレスを記載している。

学生の自主的学習を支援する環境は, 羽曳野図書センター, 情報科学演習室・視聴覚室の他, 看護学研究科大学院自習室, 17 台のパソコンを設置した大学院棟内情報処理室を整備している。

なお, 学習支援に関する学生のニーズをより詳細に把握するための方法は, 看護学部同様である。

2. 生活支援

看護学部および看護学研究科では, 学生の生活や就職, 経済面での援助に関する支援のほか, 特別な配慮が必要な学生への支援やハラスメントに関する支援を行っている。

学生の健康相談は, 保健室に配置された看護師 1 名が常勤で対応している。さらに, 外科, 産婦人科, 精神科心療内科の 3 名の学校医, 内科の産業医 1 名との契約を結び, 学生の健康管理と受診対応の体制をとっている。心理的問題に対応できる体制として羽曳野キャンパスカウンセリングルームでは, 学外の専門のカウンセラーによる対面相談の他, WEB 学生サービスセンター (WEBSC) 所属の専門カウンセラーによるテレビ電話を用いた電話相談で対応している。平成 21 年度の年間相談件数は, 対面相談 8 件, 電話相談 0 件である。

学士課程の進路相談に関しては, 年間 5 回の就職ガイダンスを計画的に実施している。さらに, 合同病院説明会の開催, 4 年次の希望学生を対象にした就職の模擬面接等を実施している。平成 21 年度の合同病院説明会の参加施設は 45 施設, 模擬面接の参加者は 41 名である。

奨学金制度および授業料減免は, 学生ガイダンス, 学生生活の手引, 掲示板やパンフレットにおいて周知し, より詳細な情報を必要とする学生からの問い合わせや相談は, 学生グループにおいて対応している。平成 21 年度の奨学金の応募は, 学部 46 名, 大学院 13 の合計 59 名であり, 日本学生支援機構奨学金では, 第一種 (無利子), 第二種 (有利子) 合わせて 41 名 (看護学部生 31 名, 大学院生 10 名) が採用された。

外国人留学生には, 奨学金制度や授業料減免制度が外国人留学生枠で設けられている。アドバイザー制度により, 外国人留学生寮の紹介・調整, アルバイトや書類手続き時のアドバイスなど生活の支援が行われている。さらに, 教員, 先輩学生各 1 名で構成するチューター制度を導入し, 外国人留学生に対して学習支援を行っている。担当する先輩学生 (チューター) は, 学生委員会により選出された 2 名であり, 一定の費用が支払われる。平成 21 年度の外国人留学生数は 2 名である。その他, 特別な支援を行うことが必要と考えられる者は, 現在のところ不在学していない。

各種ハラスメントに関する支援は, 公立大学法人大阪府立大学ハラスメントの防止等に関する規程 (規定第 29 号 http://www.osakafu-u.ac.jp/info/about/kitei/reiki_honbun/x9400060001.html) に則り, 相談・助言体制を整備し, 機能している。

なお, 生活支援に関する学生のニーズをより詳細に把握するための方法は, 学習支援同様であり, 学生の実情とニーズを把握したうえで, 対処方法を回答している。

第7章 教育の成果と教育の質の向上及び改善のためのシステム

1. 評価

1) 学生による評価

(1) 授業評価アンケートによる学生の評価

学生による授業評価および学習環境や履修指導についての意見聴取および同データは、Web によるポータルを用いて年2回定期的に実施している。授業評価や意見聴取した内容は、今後の授業法の検討に活用されることを意図して担当科目の教員にフィードバックされている。平成21年度、看護学部の授業評価アンケート実施科目のリストを作成した。

授業評価アンケートの学生への周知においては、回答期間に学生に対して講義時間に回答を呼びかけたり、アンケートへの回答啓発ポスターを作成し掲示を増やした。前期では紙媒体によるアンケートを4科目において実施した。前期アンケートのWebと紙の回答率は17.96%であった。後期では、携帯電話によるアンケートが試行され、1科目において実施した。後期アンケートのWebと携帯電話の回答率は3.43%であった。

このように授業評価アンケートの回答率は低かった。回答方法について、ポータル入力と、試行的に携帯電話を使用したアンケートが実施されている。今後は、全学的な検討に従って進めていく必要がある。看護学部では、学生がポータル入力をしやすい環境整備を行うこと、また自由記載欄への記入を勧めると共に、それに対するコメントを教員が回答していくことで、学生のアンケート回答率をあげていくことが必要である。

(2) 学生による臨地実習評価

臨地実習については、実習科目毎に学生による評価を実施しており、その結果は担当教員はもとより、臨地実習連絡会などの機会に実習指導者にもフィードバックすることで、実習内容や実習環境の改善に役立っている。

評価項目毎に評価結果(平均)をみると、「授業で学んだ内容が実習を通してより深く理解できた。」と回答した者は96.8%、「対象者への理解を深め、その対象者に合う看護が展開できた。」と回答した者は82.6%であった。臨地実習の総合目的である「さまざまな健康レベル・健康障害にある人々に対して、既習の知識・技術・態度を実際の場面に適用し、理論と実践を統合して看護活動が展開できる能力を養う。」が概ね達成できていると考えられる。また、「教員は学生の必要に応じたアドバイス、指導、説明を行った」と回答した者は95.4%、「指導者から適切な助言が得られた」と回答した者は97.3%で、概ね学生の学習ニーズに応えられる実習体制であったと考える。

2) 教員間による評価

(1) ピア評価の実施

本学部では、教員相互によるピア評価を実施している。教員間のピア評価において評価された教員は、改善シートに今後改善すべき内容を記載し、ファカルティ・ディベロップメント(FD)委員会に提出するとともに、教員は、視聴覚機器の活用、教材の工夫、授業のプリントの作成法、授業時の感想カードの提出法など、授業改善に努めている。

平成20年度において、ピア評価の対象を教授から講師に加え、助教を含めることを決定した。今年度は、平成

20 年度に採用された講師以上の教員と、助教のピア評価の要領に基づいて助教のピア評価を実施した。平成 20 年度の新採用教員の 3 名、助教 14 名が対象であった。FD 委員がピア評価担当委員として、ピア評価の実施、フィードバック日の設定、授業評価改善票の回収を行った。従来、教員相互によるピア評価では、学部における開講科目を対象に実施してきた。学部同様に看護学研究科の授業評価について検討し、平成 22 年度から、学部と看護学研究科の講義および演習科目を対象にすることを決定した。

今年度のピア評価で、教授から助教までのピア評価が一通り終了することから、今後の授業評価のあり方を検討した。現行のピア評価では、4～5 年に 1 回、ピア評価を受けることになる。そこで、毎年、何らかの形で授業評価に関われるようにするため、ピア評価は、新採用教員と希望者を対象にすること、ピア授業参観を併用することを決定した。具体的なピア授業参観の方法として、ピア参観実施要項、ピア授業参観実施手順を作成した。

3) 教員による自己点検評価

本学では、平成 19 年度から教員による教員活動自己点検報告を毎年実施している。本学部独自の評価項目として、教育活動、研究活動、社会貢献活動、大学運営に関して、「非常に積極的に行ったか」から「行わなかった」まで 4 段階で自己評価している。

平成 21 年度在籍の教員のうち、平成 20 年度末退職教員、育児休業中等を除いた教員 49 名が教員活動自己点検評価を提出した。

昨年度の自己点検評価と比較すると、教育活動の授業活動、教育改善活動、研究指導活動のすべてにおいて、非常に積極的または積極的に活動しているものが増加していた。研究活動において、学術論文等質の高い研究活動は昨年度より積極的に活動しているものが増加した。競争的資金に関しては、申請数は平成 20 年度ほぼ同等であるが、獲得数は多い。

社会貢献活動の府等の委員会・看護協会等の職能団体への参画においては、非常に積極的または積極的に活動しているものは増加しており、大学、運営活動では、積極的に携わっているものが全体の 96% であり、ほとんどの教員が大学運営に対して積極的である。

看護学部教員は、教育、研究、社会貢献活動全てにおいて、積極的に活動しているものが多いといえる。

4) 卒業生の評価

本学部では、本学卒業生を対象としたアンケート調査を実施し、主として卒業学年を対象とした就職ガイダンスと合同病院説明会時には、保健師、助産師、看護師として就職している卒業生から、教育に関する意見を聴取している。

看護学部卒業生からは、看護研究や理論などの豊富な内容の学習ができたことが良かった点として、一方、看護技術・実技演習時間の増加、実習時間の充実に関して改善すべき点として、卒業後の継続教育が要望として意見が出された。また看護学研究科修了生からは、専門性の追求・分析力の向上が良かった点として、フィジカルアセスメントおよびコンサルテーション教育の充実、実践実習の期間について要望として意見が出された。

2. 教育の質の向上及び改善のためのシステム

看護学部におけるファカルティ・ディベロップメント(FD)は、ファカルティ・ディベロップメント(FD)委員会を設置し取り組んでいる。ファカルティ・ディベロップメント(FD)委員会の主な活動としては、学生や教員のニーズや、社会の変化に対応した内容を検討して取り上げている。平成21年度の実施日及びテーマ、参加人数は、資料7-2に示した。

ファカルティ・ディベロップメント(FD)によるセミナーは、平成21年度大阪府立大学として3回、看護学部独自のものとして1回開催された。その内容は資料に示されているように教育改善に関するものであった。

資料7-2

府大セミナー	<p>① 第1回大阪府立大学FDセミナー テーマ： 「大学生の学びの実像－全国学生調査から大学教育を考える」遠隔講義 プログラム1「大阪府立大学におけるJCS調査結果の概要」 保田 卓准教授（総合教育研究機構） プログラム2 「学生調査とIR」 山田 礼子教授（同志社大学） 日 時：平成21年10月16日 出席人数：10名出席</p> <p>② 第1回大阪府立大学SD・FDセミナー テーマ：「ただの『事務』から一歩踏み出すには」遠隔講義 里見朋香先生（京都大学総長室副室長） 日 時：平成21年7月13日 出席人数：10名</p> <p>③ 第2回大阪府立大学FDセミナー テーマ：「授業事例講演」遠隔講義 講演者：松坂 裕之先生（理学系研究科） 佐橋 義直先生（経済学部） 車 美愛先生（総合教育研究機構） 日 時：平成22年3月5日 出席人数：10名</p> <p>④ 新任教員FDセミナー 日時：平成21年8月22日 講師：高等教育開発センター 高橋 哲也先生 他</p>
--------	---

<p>看護学部セミナー</p>	<p>①第1回大阪府立大学看護学部FDセミナー テーマ：講義に活かす！ ― 魅力あるプレゼンテーション ― 日 時：平成21年8月28日 講 師：大島 武先生（東京工芸大学 芸術学部基礎教育） 57名（看護学部教員32名，総リハ学部教員1名，大学院生21名，学部生1名，職員2名）</p> <p>② 第2回大阪府立大学看護学部FDセミナー テーマ：在外研究研修報告 報告者：吉川 彰二先生 日 時：平成22年2月10日 出席人数：28名</p>
-----------------	--

8章 研究活動

1. 研究体制及び支援

研究の実施体制は、健康科学と看護学4領域の計5領域から構成されている。同組織への研究支援組織としては、羽曳野キャンパスの場合、総務課を中心とした事務職員および文献等の検索や収集のために羽曳野図書センターの司書などから、総合的・機能的に支援を受けている。

研究推進については、産学官連携機構から研究助成の広報・申請手続き・予算執行等、療養学習支援センターにおける地域社会との連携等が、組織的に行われている。コーディネーターが定期的に羽曳野キャンパスに来学し、研究助成に関する情報提供など支援を行っている。外部研究資金獲得に関して、文部科学省の科学研究費補助金の場合には経営企画課経理グループによる申請方法の説明会を行っているとともに、外部資金獲得に関するセミナーの開催なども実施している。このように研究が推進できるような施策が図られている。

研究資金の配分は、主任教授会において原案を作成し、教授会および研究科会議で決定する施策が実施されている。その他の支援としては、看護学部長研究助成、文部科学省の研究助成補助金が採択されなかった演題の評価がAランクに対する学長補助、療養学習支援センターによる研究プロジェクトに対する研究助成（資料C）、研究者の育成に関する施策（新人教員に0.5～1.5倍の研究費が上乘せ）、共同研究の奨励研究の推進、などがある。

看護学部および看護学研究科における独自の研究成果の発信や刊行のための組織として、広報委員会および紀要委員会があり、各教員の研究成果の概略をホームページおよび年1回発行する紀要で公開している。研究活動の状況を把握する取組として、各教員は毎年度末に教員活動情報データベースに自己の研究活動の申告を実施している。教員活動情報データベースは1部教員の個人情報に関する部分を除いて公開を原則としている。さらに、各教員は、教員活動自己点検・評価報告書を提出し、自己評価を行っている。これらは、部局評価・企画実施委員会が、看護学部教員全体の評価をまとめて報告している。

看護学部における研究活動の質の向上に関する取組としては、研究倫理委員会および動物実験委員会がある。研究倫理委員会では、教員および大学院生・学部学生の研究のうち、人を対象とした場合には学外の有識者を含む委員会において、研究倫理の審査で承認したものが研究を実施できるようになっている。実験動物を用いた研究については、動物実験ガイドラインが定められ、研究計画書を動物実験委員会に提出し、その審査を経たもののみが実施可能となる。このように倫理的に配慮した研究を支援するための研究倫理委員会、動物実験に関する委員会等が整備され機能している。

2. 研究実績

看護学部および看護学研究科の研究活動の実施状況と研究成果は、大阪府立大学教員業績一覧(資料)に示した。重複した論文・発表を除くと、学術論文の発表は50件、学会発表件数は128件であった。

競争的研究資金の申請・採択状況を資料8-2-①に示した。科学研究費補助金の新規申請は、34件であった。看護学部が独自に実施している研究助成として、療養学習支援センター研究・活動助成（資料8-2-②）、共同研究助成（資料8-2-③）がある。

特に療養学習支援センターでの研究活動状況は、療養学習支援センター年報第6巻に記述し、公表している。

資料8-2-① 平成21年度 看護学部の補助金の申請・採択状況

研究活動		新規申請件数	採択件数	継続件数	合計金額(円)	
文部科学省科学研究費補助金	基盤研究(A)	代表	0	0	1	14,170,000
	基盤研究(B)	代表	3	1	2	9,100,000
	基盤研究(C)	代表	18	6	7	16,510,000
		分担	-	5	2	546,000
	萌芽的研究	代表	1	0	1	1,200,000
		分担	-	0	1	70,000
	奨励研究	代表	0	0	0	0
その他(若手研究スタートアップ含む)	代表	12	3	7	9,854,000	
厚生科学研究費補助金	代表	-	0	1	10,080,000	
財団等の研究助成による研究	代表	-	3	0	1,700,000	
企業等による教育研究奨励費	代表	-	0	0	0	
企業等による受託研究費	代表	-	1	0	3,200,000	
大学独自の助成による研究	代表	4	1	0	650,000	
その他	代表	-	1	0	96,250	

資料8-2-② 療養学習支援センター研究・活動助成一覧

No	区分	代表者	研究課題・活動名	助成額(円)
1	研究助成	池田由紀	慢性呼吸器疾患患者の日常生活動作時の呼吸と活動量のモニタリング	250,000
2		牧野裕子	高齢者のための認知機能低下予防教室「脳いきいき教室」の評価	600,000
3		植木野裕美	前向き子育てプログラムの実践とその評価	310,000
1	活動助成	古山美穂	府下高等学校における生と性教育プログラムの実践	133,000
2		町浦美智子	更年期を快適に過ごすための更年期女性サロン	123,000
3		斎野貴史	地域住民への感染予防策の普及	237,000
合計				1,653,000

資料8-2-③ 共同研究助成

代表者	研究課題・活動名	助成額
和泉京子	孤立死防止に向けた地域による高齢者見守りネットワークの見守りの実態に関する研究	350,000円

競争的資金の獲得状況として、科学研究費補助金については、採択件数は37件(61,530,000円)となっている。科学研究費補助金交付者一覧を資料8-2-④に示した。その他、財団による助成などがある。競争的資金の獲得状況に関して、採択件数は2006年以降漸増しており、それに伴い金額も増加している。特に2007年度に急増し、その後の獲得件数は維持している。

資料8-2-④ 平成21年度科学研究費補助金交付者一覧

(研究代表者)

研究種目 審査区分	氏名	獲得金額(円)	研究課題名
基盤A	中村 裕美子	14,170,000	Eラーニングによる看護職の再就職支援研修プログラムの開発と評価
基盤B	松尾 ミヨ子	4,030,000	少子高齢社会におけるディジーズ・マネージメントの国際比較研究
基盤B	中山 美由紀	2,860,000	新生児集中治療を受けている子どもの家族に対する早期介入モデルの開発と評価
基盤B	白井 みどり	2,210,000	障害高齢者の自立支援に向けた「看護・介護のシーティング・ガイドライン」の開発
基盤C	榎木野 裕美	2,080,000	親の主體的な医療参画をめざした親・医療者協働プレパレーションシステムの開発と実践
基盤C	山本 裕子	2,080,000	糖尿病診断後早期の患者のための学習支援教材の開発
基盤C	上野 昌江	1,950,000	児童虐待発生予防における養育支援が必要な子どもと家族の見極め指標と支援方略の開発
基盤C	長畑 多代	1,560,000	生活の場としての看取りを支える特別養護老人ホーム看護職への教育プログラムの開発
基盤C	稲垣 美紀	1,430,000	心臓血管外科手術を受ける患者及び家族の手術意思決定サポートシステムの開発
基盤C	星 和美	1,300,000	中堅期・新人期の看護師における看護コンピテンス連鎖モデルの構築
基盤C	桑名 行雄	1,040,000	精神障害者の recovery を促進する看護師の態度に関する研究
基盤C	細田 泰子	1,040,000	メタ認知の発達を支援する臨床学習環境のデザインに関する研究
基盤C	青山 ヒフミ	910,000	安全性からみたナースステーションの標準化
基盤C	杉本 吉恵	910,000	キネステティクスを用いた介助法の効果と臨床への導入に関する研究
基盤C	鎌田 佳奈美	780,000	潜在的なリスクをもつ家族の虐待予防に向けた看護職共有のアセスメントツールの開発
基盤C	佐藤 淑子	780,000	ITベースに基づいた感染管理システムの構築と職員の感染予防行動に関する研究
基盤C	中嶋 有加里	650,000	妊婦と胎児・乳幼児の命を守るシートベルト着用推進教育プログラムの開発と評価
若手B	北村 有香	2,340,000	施設入所高齢者の下肢浮腫の定量的評価に基づく看護ケアの検討
若手B	大川 聡子	1,300,000	10代で出産した母親の発達過程—グループアプローチを通じた経年的変化の分析
若手B	前川 泰子	1,040,000	三次元動画画像解析による看護技術時の腰部「ひねり」の負荷に関する研究
若手B	和田 恵美子	1,040,000	がん対策に特化した患者図書室における闘病記を用いた患者支援の実証的研究
若手B	西頭 知子	910,000	山村過疎地に住む中学生の“親元離れて元気に生きるプログラム”の考案
若手B	岡本 双美子	650,000	在宅における終末期がん患者を看取る家族への「リファーマ」プログラムの臨床導入と評価
若手B	通山 由美子	650,000	日本の小児医療における看護師とCLS、HPSの連携モデルの構築
若手B	橋本 あかね	650,000	消化器系ストーマ造設患者のセルフケア情報提供システムの開発
若手B	別宮 直子	390,000	自閉症児の行動評価尺度を用いた療育効果と自閉症児の行動変容が与える母親への影響
若手 スタートアップ	長谷川 智子	884,000	インターフェロン療法が終了したC型慢性肝炎患者が抱く不確かさ
挑戦的 萌芽研究	佐々木 くみ子	1,200,000	前期破水時の陣痛発来時間は予測できるのか？
厚生科研	和田 恵美子	10,080,000	がん患者の意向による治療方法等の選択を可能とする支援体制整備を目的とした、がん体験をめぐる「患者の語り」のデータベース
合計		60,914,000	

(研究分担者)

研究種目 審査区分	氏名	獲得金額(円)	研究課題名
基盤C	榎木野 裕美	130,000	不任治療による産褥期の母親の育児状況アセスメントツールの開発と実践普及
基盤C	松尾 ミヨ子	130,000	慢性呼吸不全患者の急性悪化に関する関連性評価に基づく質的分析
基盤C	田中 結華	91,000	慢性の病における他者への「言いづらさ」と看護のあり方についての研究
基盤C	青山 ヒフミ	65,000	新人看護師のキャリア発達を促す教育支援プログラムの開発
基盤C	勝山 貴美子	65,000	新人看護師のキャリア発達を促す教育支援プログラムの開発
基盤C	山居 輝美	39,000	脳卒中後遺症としての痛みや痺れに対する代替療法に関する研究
基盤C	上野 昌江	26,000	自閉症巣ベクトラム障害に対するペアレンティング・プログラムの確立に関する研究
萌芽研究	来栖 清美	70,000	生活病理・生活臨床に関する臨床教育学的調査研究
合計		616,000	

第9章 社会貢献と国際交流

1. 地域社会への貢献

1) 公開講座

大阪府立大学羽曳野キャンパス公開講座は、看護学部と総合リハビリテーション学部の合同で開催している。また羽曳野市の事業である「はびきの市民大学」と連携することで、より地域社会に密着したサービスを展開している。平成21年度は看護学部が主担当であり、その概要は資料9-1-1の通りであった。募集人員100名（内50名は「はびきの市民大学」と同時に募集）に対し、申込者103名、受講者94名で、延べ参加者は309名であった。受講者に対するアンケートの結果、受講者の男女比率は4:6、年代は60歳代49.3%、70歳代40.8%でほとんどが50歳以上であった。また市の広報誌で知った受講者が一番多く（40.5%）、受講者の70.4%が羽曳野市民であった。全体の印象として80.3%がとても良かった・良かったとし、役立つ知識が得られた（85.9%）、来年もまた参加したい（82.8%）と回答していた。

府大講座は府立大学全学部の分担により開催されている。平成21年度は9月5日から10月3日の日程で、看護学部は9講座のうち9月26日の1講座を担当した。担当講師は井端美奈子准教授、講義題名は「ヒューマン・セクシュアリティ」であった。

出前講義は「教員データベース」に出前可能項目を記載することで公表され、地域社会からのニーズに対応している。平成21年度において看護学部からは古山美穂助教（実施：5月22日、申込者：開智中学校・高等学校、タイトル：生と性の授業）と長畑多代准教授（実施：6月10日、申込者：河内長野市立高向公民館、タイトル：認知症とその対応）の2教員が対応した。

資料9-1-1 平成21年度公開講座

テーマ 「快適な人生（QOL）をめざして～生活を活性化しよう～」

第1日目：10月20日（火）13：00～14：30

《開講式》	あいさつ	看護学部長	青山 ヒフミ
《題 目》	脳いきいき—認知症を保つ秘訣		
○講義		看護学部 教授	中村 裕美子

第2日目：10月27日（火）13：00～14：30

《題 目》	元気の秘訣—自分の体のことをもっとよく知りましょう		
○講義		看護学部 教授	上野 昌江

第3日目：11月10日（火）13：00～14：30

《題 目》	中高年齢者に不足しがちなビタミン	総合リハビリテーション学部	
○講義		栄養療法学専攻 教授	宮谷 秀一

第4日目：11月17日（火）13：00～14：30

《題 目》	今から学ぼう楽々生活動作のコツ！		
○講義		看護学部 教授	杉本 吉恵
《閉講式》	修了証書授与	総合リハビリテーション学部長	林 義孝

2) 地域サービス：療養学習支援センター活動

療養学習支援センターは、大学院看護学研究科の附置研究所として位置付けられ、療養学習支援に関する研究・教育、実践、情報提供、学術交流を図ることを目的としている。地域貢献活動として、プロジェクト活動、闘病記文庫、健康フェアの開催を行った。

プロジェクト活動では、電話や来所相談として「手術についてのお悩み相談」「長期療養が必要な病気の相談」「患者アドボカシー相談」を行っている。センターに来所する教室として「脳いきいき教室」、新規に「前向き子育てプログラム」「感染予防のための手洗い講習会」を開催した。また、当事者やご家族の集まりとして「肺がん患者さんのご家族のためのサロン」「快適に過ごそう更年期」を開催した。1回の参加人数は、プロジェクトにより数名から40名と差がみられるが、年間通じてのべ500名程度の参加があり、地域での活動が定着し、拡大してきている。

健康フェアは、羽曳野キャンパス祭時に、健康に関する身体測定（体組成、骨密度など）、体操、健康相談を内容として開催したところ、52名の市民参加があり、地域の健康づくりに貢献することができている。

闘病記文庫は、羽曳野図書センター内に開架し、学生や市民に利用されている。新刊図書の購入やパンフレットを作成し、活動の充実と広報に努め、学生とともに「闘病記を読む会」を開催し、学習を深めることができた。

療養学習支援センターの活動に関する報告は、年報として刊行し、看護系大学に配布している。

以上のことから、療養学習支援センターにおける地域への教育サービス活動の成果は上がっている。

3) 高大連携

青少年の学習意欲に応えた教育サービスの提供については、高大連携推進委員会や療養学習支援センターのプロジェクト活動によって実施されている。平成21年度には、高大連携推進委員会を通して、高校生が受講できる科目として看護学部で開講している授業科目「セクシュアリティと看護」（1単位15時間）を提供した。講義日程は以下に示すとおりである（資料9-1-3参照）。受講者は女子生徒6名であり、受講終了後に修了証が交付された。

資料9-1-3 「セクシュアリティと看護」の講義日程

- | | |
|-----------|--|
| 1. 開講日時 | 平成21年11月16日(火)～平成22年2月1日(火)までの8回
5限目(16:05～17:45) |
| 場 所 | 羽曳野キャンパス L棟402 |
| 2. 対 象 | 高校2年生(看護学部1年次生と一緒に講義を受ける) |
| 3. 最少開講人数 | 看護学部1年次生と一緒に講義を受けるため特になし |
| 4. 講義内容 | ヒューマン・セクシュアリティについて理解を深め、人間の性、生き方を洞察しながら、自己のセクシュアリティ観を育むことを目指しています。
・ヒューマン・セクシュアリティの概念を学ぶ
・自己のセクシュアリティ観について考える
・現代社会におけるセクシュアリティの問題・課題を認識できる |

また、療養学習支援センターのプロジェクト活動の一環である「学校等における出張セクシュアリティ教育」の中で出張講義を行っている。平成21年度は大阪府立系(府外や市立系も含む)の高等学校において総計2,000名の高校生にデートバイオレンス予防や避妊・性感染症予防、命の大切さ、多様な性などをテーマに出張講義を行った。

青少年の学習意欲に応えた教育サービスの提供については、高校生と看護学部生と一緒に受講できる科目の開講や高校生を対象とした出張講義を実施しており、適切に行われている。

4) 教員の社会貢献

看護学部にも所属する教員は、保健、医療、福祉などの分野と関連を保ち、専門看護や専門基盤についての研究・教育に携わりながら、審議会等に積極的な参画が行われている。参画する審議会等の公的団体としては、厚生労働省、独立行政法人国立病院機構、地方独立行政法人大阪府立病院機構、大阪府または府下市町村、看護協会、各教員が所属する学会等である。社会貢献は、資料 大阪府立大学看護学部教員業績一覧に示すとおりである。

2. 国際交流

1) マヒドン大学との学術交流

平成20年4月に結ばれたマヒドン大学との学術交流協定に基づき、本年度10月18日から11月1日の2週間、マヒドン大学看護学部(シリラート)とマヒドン大学医学部看護学科(ラマティボディ)の大学院修士課程学生をそれぞれ2名ずつ、計4名受入れ、看護学修士課程での教育、研究について研修してもらった。研修の日程は資料に示した通りであった。特に、急性看護学分野、慢性看護学分野、小児看護学分野、在宅看護学分野では、医療施設、訪問看護施設、障害児施設での実地研修の機会を提供した。他にも、地域保健活動に参加、看護協会活動には現地での説明を受けるなど日本の保健、医療、福祉における看護の機能を習得する支援をした。研修日程を資料9-2-1に示す。

マヒドン大学との学術交流の2年目が終了したことにより、前期課程修了生から評価のためにアンケートを実施した。29名中21名から回答を得られた。マヒドン大学の研修プログラムに参加した学生からは、研修の目的は明確で合致した内容であったと評価された。また、研修プログラムに参加しなかったが、本年度のマヒドン大学の研修生との交流に関しては、今後の修士論文研究に新たな視点が加わった、継続してほしいとの回答や、事前に国際看護に関する講義が必要、講義・演習等で交流がほとんどできない学生がいた等、それらの意見を踏まえて今後のプログラムを改善していく必要が示唆された。次年度にプログラムに反映していくことを課題とした。



資料9-2-1 マヒドン大学学生研修概要

月日	内容
平成21年10月18日	日本到着
10月19日	大学紹介と歓迎会
10月20日	地域保健活動に関する研修
10月21日～23日	学生の受入分野での研修
10月24日	異文化交流
10月25日	杏樹祭（大学祭）参加，健康フェア参加（地域住民との交流）
10月26日	休み
10月27日	看護協会訪問
10月28日～29日	学生の受入分野での研修
10月30日	学生の研究計画，進行計画の検討会 修了式
10月31日	学生間交流
11月1日	帰国

2) 国際セミナー開催

講演者：Leah S. Berbano, RN, BSN, MPA 開催日：平成21年7月24日

タイトル：Nursing Process at Mary Greeley Medical Center, A city owned hospital in Ames, Iowa, USA

講演内容：病院でHouse Managerとして医療物品，看護職などの管理を行っている講演者が，200床の病院でどのように役割を実践しているか，また保険非加入者の多い米国での医療費を誰が負担するかといった医療の safety net，米国の医療政策の問題についてであった。

3) 海外からの訪問者

訪問者：Rebecca Sinha (Lalitpur Nursing Campus, Institute of Medicine, Tribhuvan University の看護学科長) 大学所在：ネパール国カトマンズ市

訪問日：平成22年1月19日

本学看護学部と看護学研究科のカリキュラム，教員組織，学生入学定員，実習授業などについて説明を求められ，大学広報誌・シラバスの提示，実習室案内によって説明した。

資料 大阪府立大学看護学部教員業績一覧

1). 著書

氏名	出版年月	分担題名	著者名	書名	出版社名	巻	号	掲載頁
高辻 功一	200910	10.生命活動	高辻功一	看護師国家試験必修問題オール予想	医学芸術社	13	12	86-95
	201002	生命とは、生活行動を支える運動器系	高辻功一,その他	人体の解剖生理学	金芳堂			1-46 205-230
植木野 裕美	200904	児童虐待	著者多数	小児看護学概論	南江堂			354-359
町浦 美智子	200912	第1章 助産師が行う分娩期のケア	町浦美智子,大橋一友,中嶋有加里,佐々木みみ子,村上明美,田村正徳,中野美佳	助産師基礎教育テキスト 第5巻 分娩期の診断とケア	日本看護協会出版会			1-11
	200912	第4章 分娩経過に伴う診断・アセスメントとケア	町浦美智子,大橋一友,中嶋有加里,佐々木みみ子,村上明美,田村正徳,中野美佳	助産師基礎教育テキスト 第5巻 分娩期の診断とケア	日本看護協会出版会			104-116, 123-146
	200912	第4章 分娩経過に伴う診断・アセスメントとケア	町浦美智子,大橋一友,中嶋有加里,佐々木みみ子,村上明美,田村正徳,中野美佳	助産師基礎教育テキスト 第5巻 分娩期の診断とケア	日本看護協会出版会			117-122
白井 みどり	201001	日常生活を支える基本動作と看護ケア		系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学	医学書院			124-147
高見沢 恵美子	200912	快適に暮らす人工肛門のケア	高見沢恵美子	きょうの健康	NHK出版	261		82-85
杉本 吉恵	200912	研究するための基礎的な知識 研究の用語, 研究計画書の書き方 量的研究, 看護研究の具体例 量的研究(ノンパラメトリック)	松田光信, 當目雅代, 杉本吉恵, 河野あゆみ	実践能力を磨く, 看護研究 精神看護学対心	金芳堂			17-21, 126-132, 144-151
星 和美	201001	第1章 臨地実習の基本的考え方, 第2章 臨地実習のすすめ方, 第3章 基礎看護学	宮地緑, 星和美, 中田智子, 藤原千恵子, 田中恵子, 今阪洋子, 細田泰子, 牧野裕子, 河上智香	看護学臨地実習ハンドブック-基本的考え方とすすめ方-改訂4版	金芳堂			1-67
鎌田 佳奈美	200904	小児看護学	鎌田佳奈美ほか	ラ・スバ過去問対策	医学評論社			75,115- 117, 196-197
中嶋 有加里	200912	第3章分娩経過の診断・アセスメントの視点, 第4章分娩経過に伴う診断・アセスメントとケア, 第6章分娩進行に伴う正常経過逸脱の予測と予防	町浦美智子,大橋一友,中嶋有加里,佐々木みみ子,村上明美,田村正徳,中野美佳	助産師基礎教育テキスト第5巻 分娩期の診断とケア	日本看護協会出版会			50-61 117-122 212,223
長畑 多代	201001	高齢者の生活機能を支える看護の展開	北川公子, 井出訓, 長畑多代他	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学	医学書院			136-143
牧野 裕子	201001	第4章在宅看護と家族Ⅱ 看護の継続性	波川京子, 三徳和子, 吉田礼子, 守田孝恵, 牧野裕子, 水馬朋子, 鈴木みずえ, 新井善奈子他	在宅看護学	クオリティケア			114-131
	201001	第9章 統合分野Ⅰ 在宅看護論	松木光子, 宮地緑, 星和美, 中田智子, 藤原千恵子, 田中恵子, 今阪洋子, 細田泰子, 牧野裕子, 河上智香	看護学臨地実習ハンドブック改訂4版	金芳堂			187-203
石澤 美保子	200904	第7章 看護師に必要なドレッシング法	石澤美保子他8名	褥瘡治療・ケア-ータルガイド	照林社			182-184
	200912	スキケンケア	田中マキ子, 大泉麻由, 相父江正代, 岡田晋吾, 日高正巳, 木之瀬隆, 石澤美保子, 貝谷敬子, 門野岳史	褥瘡予防・管理ガイドラインと臨床実践	へるず出版			2160- 2168
勝山 貴美子	201003	医療情報に関する用語を担当した。「グリーンジャーナル」「デジタルバイインド」「ネチケット」「ユビキタス」「コンピュータリテラシー」	南裕子, 山内一信, 水野智, 勝山貴美子他	看護学大事典第二版	医学書院			
細田 泰子	200904	患者の権利・健康に対する意識, 計画立案, 生活習慣病予防の食事	著者多数	第99回看護師国家試験合格チャレンジテスト(第1回)解答・解説	学研メディカル秀潤社			45,48, 50,155
	200905	ベッド上排泄, 体位変換, 移動・移送	大津廣子, 岩崎陽子, 滝下幸栄, 山本容子, 西田直子, 足立みゆき, 細田泰子, 森木ゆう子, 小松万喜子, 佐藤美紀, 田代ひろみ, 曾田陽子	コミュニケーションと共に学ぶ基礎看護技術	メディカルレビュー社			88-93, 106-117
	200908	ライフスタイル, 情報収集, ノーマライゼーション, QOL, 隔壁聴音聴取の方法と評価	著者多数	第99回看護師国家試験合格チャレンジテスト(第2回)解答・解説	学研メディカル秀潤社			
	200911	国民生活基礎調査, 看護過程における評価, じん肺法, 看護者の倫理綱領, 人間の欲求, 胸節の聴診	著者多数	第99回看護師国家試験合格チャレンジテスト(第3回)解答・解説	学研メディカル秀潤社			43,59, 155,156, 157,170
	201001	第2章 臨地実習のすすめ方, 第3章 専門分野Ⅰ 基礎看護学	宮地緑, 星和美, 中田智子, 藤原千恵子, 田中恵子, 今阪洋子, 細田泰子, 牧野裕子, 河上智香	看護学臨地実習ハンドブック-基本的考え方とすすめ方-改訂4版	金芳堂			38-42,48
別宮 直子	201003	雌性動物の抑うつ状態を指標とした向精神薬の評価法	吉村裕之, 別宮直子	実践行動薬理学	金芳堂			61-70
福垣 美紀	200908	心疾患患者のクオリティ・オブ・ライフに影響する要因-自己効力感とソーシャル・サポートとの関連	福垣美紀, 土居洋子, 西上あゆみ	ハートナーシング	メディカ出版	22	6	99-106
田中 登美	200912	V. 日常臨床での実践, 1.心のケアの展開例, 2)がん看護専門看護師・がん性疼痛看護認定看護師の役割	監修:日本サイコロロジ学会教育委員会, 編集:小川朝生, 内富庸介	緩和ケアチームのための精神腫瘍学入門	医薬ジャーナル社			367-393
山本 裕子	200904	チアノーゼ、下痢、貧血		第99回看護師国試合格チャレンジテスト(第1回)解答・解説	学習研究社			53-55
	200908	発熱、嘔吐、運動麻痺		第99回看護師国試合格チャレンジテスト(第2回)解答・解説	学習研究社			52-54
	200911	ショック、喀痰、胸痛、腹部膨満		第99回看護師国試合格チャレンジテスト(第3回)解答・解説	学習研究社			85-88
北村 有香	201001	高齢者の生活機能を支える看護の展開	北川公子, 井出訓, 北村有香ほか	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 『老年看護学』	医学書院			143-147
前川 泰子	201003	看護動作における腰痛に関する実験的研究	著者多数	大阪府立大学における分野横断型研究の展開-21世紀科学研究所の挑戦-	大阪公立大学共同出版会			157-161
森木 ゆう子	200904	誤嚥の予防, 洗滌, 失禁のケア, 洗髪, 整容, 皮膚症候群の予防	著者多数	第99回看護師国家試験合格チャレンジテスト(第1回)解答・解説書	学研メディカル秀潤社			60-62 171-173
	200905	第4章排泄援助技術(グリセリン洗滌, 導尿)	滝下幸栄, 山本容子, 西田直子, 足立みゆき, 細田泰子, 森木ゆう子, 小松万喜子, 佐藤美紀, 田代ひろみ, 曾田陽子	コミュニケーションと共に学ぶ基礎看護技術	メディカルレビュー社			94-99 100-106
	200908	食事介助の方法, 床上排泄, 排便, 清拭, 部分浴, 体位	著者多数	第99回看護師国家試験合格チャレンジテスト(第2回)解答・解説書	学研メディカル秀潤社			59-61 170-172
	200911	食事の環境, ドレーンの管理, 入浴, 口腔ケア, 移動介助での基本	著者多数	第99回看護師国家試験合格チャレンジテスト(第3回)解答・解説書	学研メディカル秀潤社			60-61 171-173

2). 学会誌・発表論文

氏名	出版年月	著書または発表論文の標題、発表テーマ	著者名	掲載誌名	主催団体名	巻	号	掲載頁
榎木 裕美	200907	小児看護学実習において看護学生がこどもの人間関係の形成に向けて一歩を踏み出すために影響する要因	小代仁美、榎木裕美	日本小児看護学会誌	日本小児看護学会	18	2	9-15
町浦 美智子	200909	青年期男女の親性を育てる乳幼児との継続接触体験の内容分析による評価(第1報)	佐々木綾子、末原紀美代、町浦美智子	思春期学	日本思春期学会	27	3	270-282
上野 昌江	200904	児童虐待予防のための地域ペアレンティング・プログラムの評価に関する研究「前向き子育てプログラム(トリプルP)」の有用性の検討	柳川敏彦、平尾恭子、加藤則子、北野尚美、上野昌江、白山真知子、山田和子、塚本めぐみ、包丁高子、志村光一、梅野裕子	子ども虐待とネグレクト	日本子ども虐待防止学会	11	1	54-68
	200905	児童虐待予防における保健師の役割と医療・地域との連携	上野昌江	小児看護	へるす出版	32	5	576-584
	201003	自宅で生活する高齢者の転倒の実態と住環境の関連	土井有羽子、上野昌江、和泉京子	大阪府立大学看護学部紀要	大阪府立大学看護学部	16	1	1-8
中村 裕美子	201003	高齢者のための認知機能低下予防教室「脳いきいき教室」の評価	牧野裕子、中村裕美子、太田暁子、岡本双美子、平松瑞子、二階堂奈美	療養学習支援センター年報	大阪府立大学大学院看護学研究科	6		25-33
	201003	療養者とその家族の退院に関連する療養生活への不安	平松瑞子、中村裕美子	大阪府立大学看護学部紀要	大阪府立大学看護学部	16	1	9-19
杉本 吉恵	200912	衣服の厚さが血圧測定値に与える影響 一オシロメトリック式自動血圧計を使って一	高美沙、杉本吉恵、中西亜留務	日本看護学会論文集・看護総合	日本看護協会	40		141-143
	200912	洗面台における頭部支持機能の有無による頭部負担の比較検討	中西亜留務、杉本吉恵、高美沙	日本看護学会論文集・看護総合	日本看護協会	40		144-146
	200912	上方移動介助時における介助者の身体的負担	青井聡美、広兼さくら、杉本吉恵、寺西由記、田村翼、池田ひろみ、三宅由希子、塩川満久、吉田彰	日本看護学会論文集・看護総合	日本看護協会	40		111-113
	201003	ドイツ、オーストラリアにおける臨床へのkinesiotherapeuticsの導入と効果に関する視察報告	杉本吉恵、青井聡美、池田ひろみ、三宅由希子、伊藤亮子	大阪府立大学看護学部紀要	大阪府立大学看護学部	16	1	33-40
星 和美	200908	eラーニング導入による看護学生の学習支援ニーズと情報活用の実践力、及び看護実践力への影響	古山美穂、細田泰子、吉川彰二、森一恵、星和美、荒木孝治、真嶋由貴恵、中村裕美子	日本医学看護学教育学会誌	日本医学看護学教育学会	18		45-51
	201002	過去5年間の倫理に関する研究の特徴と今後の課題	勝山貴美子、勝原裕美子、星和美、鎌田佳奈美、ウィリアムソン彰子	日本看護倫理学会誌	日本看護倫理学会	2	1	77-86
井端 美奈子	200904	高校生の性の現状を踏まえた性教育のあり方	檜垣奈未、工原あゆみ、国本由美子、井端美奈子	大阪母性衛生学会雑誌	大阪母性衛生学会			
	200907	総排泄腔造瘻症による體形成術後のダイレーションの検討	井端美奈子、島田憲次	日本小児泌尿器科雑誌		18	1	56-59
	201002	人との違いに悩むあなたに ～人間って、誰もがみんな違うんだから……～	井端美奈子	現代性教育研究月報	財団法人日本性教育協会	28	2	7-10
鎌田 佳奈美	201002	過去5年間の倫理に関する研究の特徴と今後の課題	勝山貴美子、勝原裕美子、星和美、鎌田佳奈美、ウィリアムソン彰子	日本看護倫理学会誌	日本看護倫理学会	2	1	77-86
和泉 京子	201003	自宅で生活する高齢者の転倒の実態と住環境の関連	土井有羽子、上野昌江、和泉京子	大阪府立大学看護学部紀要	大阪府立大学看護学部	16	1	1-8
池田 由紀	2010320	慢性呼吸器疾患患者の呼吸器感染予防の認識についての検討	池田由紀	日本感染看護学会誌	日本感染看護学会	6	1	27-36
	2010323	慢性呼吸器疾患患者における呼吸困難のマネジメント方略とADLの関連	今戸美奈子、池田由紀、松尾ミヨ子	日本看護科学学会誌	日本看護科学学会	30	1	14-24
石澤 美保子	200910	仙骨部褥瘡における創改善と周囲皮膚の水分バリア機能変化との関連	石澤美保子、阿曾洋子、濱元佳江、伊部亜希、小川雅昭	日本褥瘡学会誌	日本褥瘡学会	11	4	533-538
	200912	社会復帰ケアにおけるストーマ装具選択基準の一提案	大村裕子、秋山結美子、石澤美保子、後藤真由美、他13名	日本排泄・ストーマリハビリテーション学会誌	日本排泄・ストーマリハビリテーション学会	25	3	133-146
	200912	適正なストーマ装具選択のためのストーマフィジカルアセスメントツール作成の試み	山田陽子、松浦信子、末永きよみ、秋山結美子、渡邊百合枝、堀友子、丸山弘美、後藤真由美、熊谷英子、山本由利子、三宮陽子、品田ひとみ、石澤美保子、他4名	日本排泄・ストーマリハビリテーション学会誌	日本排泄・ストーマリハビリテーション学会	25	3	113-123
	200912	ストーマ装具選択に必要な装具分類	熊谷英子、大村裕子、山本由利子、秋山結美子、後藤真由美、品田ひとみ、堀友子、石澤美保子、他9名	日本排泄・ストーマリハビリテーション学会誌	日本排泄・ストーマリハビリテーション学会	25	3	103-112
	200912	ストーマ装具の選択基準に関する文献レビュー	品田ひとみ、大村裕子、五十嵐弘美、石澤美保子、他13名	日本排泄・ストーマリハビリテーション学会誌	日本排泄・ストーマリハビリテーション学会	25	3	91-102
勝山 貴美子	200904	診療録開示における倫理的側面を含む意識調査～主として医療職者の側、患者の側、一般企業人の側との比較分析～	天野寛、勝山貴美子、宮治真、加藤憲、藤原奈佳子、小林三太郎	医療情報学	医療情報学会	28	4	197-211
	200904	病院看護職員離職率と地域特性としての医療環境および社会的背景との関連	藤原奈佳子、勝山貴美子、宮治真、加藤憲、天野寛、小林三太郎	社会医学研究	社会医学学会	26	1	87-96
	200907	急性期病院に勤務する中堅看護師の職務満足に関連する要因の分析	榎美真紀子、勝山貴美子、青山ヒフミ	日本看護管理学会誌	日本看護管理学会	13	1	14-23
	201001	過去5年間の倫理に関する研究の特徴と今後の課題	勝山貴美子、勝原裕美子、星和美、鎌田佳奈美、ウィリアムソン彰子	日本看護倫理学会誌	日本看護倫理学会	2	1	77-86
	201003	モチーフ抽出によるマルチモーダルインタラクション解釈手法の提案と医師-患者対話要約への応用	澤本祐一、神山祐一、平野靖、梶田将司、間瀬健二、鈴木富雄、勝山貴美子、山内一信	情報処理学会論文誌	情報処理学会	51	2	1-13
	201003	日本における次世代の看護管理者教育とは何か? アメリカのプログラムの学びを通して	勝山貴美子	大阪府立大学看護学部紀要	大阪府立大学看護学部	16	1	21-32
田中 結華	201001	回帰ストーマ造設者の適応に関連する要因	田中結華、高見沢恵美子	日本創傷・オストミー・失禁管理学会誌	日本創傷・オストミー・失禁管理学会	13	2	26-33
細田 泰子	200908	eラーニング導入による看護学生の学習支援ニーズと情報活用の実践力、及び看護実践力への影響	古山美穂、細田泰子、吉川彰二、森一恵、星和美、荒木孝治、真嶋由貴恵、中村裕美子	日本医学看護学教育学会誌	日本医学看護学教育学会	18		45-51
吉川 彰二	200908	eラーニング導入による看護学生の学習支援ニーズと情報活用の実践力、及び看護実践力への影響	古山美穂、細田泰子、吉川彰二、森一恵、星和美、荒木孝治、真嶋由貴恵、中村裕美子	日本医学看護学教育学会雑誌	日本医学看護学教育学会	18		45-51

氏名	出版年月	著書または発表論文の標題、発表テーマ	著者名	掲載誌名	主催団体名	巻	号	掲載頁
大川 聡子	200906	10代の出産をめぐる家族の調整-アメリカ、イギリス、日本の社会構造の比較を通して	大川聡子	立命館大学産業社会論集	立命館大学産業社会学会	45	1	207-228
松田 千登勢	201003	The Development and Evaluation of a Tool for Communicating Information Regarding Elderly with Dementia at Short-Stay Services	Chitose Matsuda, Nobuko Matsuda, Shoichi Hasegawa	Bulletin Of Health Science Kobe	Kobe University Graduate School of Health sciences kobe	25		37-50
山本 裕子	200907	アメリカの看護教員の視点から見た良い看護教育ストラテジー	山本裕子	日本看護学教育学会誌	日本看護学教育学会	19	1	61-70
小笠 幸子	200910	患者と医療・看護職者のエンパワメント形成を支援する教育プログラムの評価-参加前後での認識変化の過程とその特徴-	小笠幸子, 竹村節子, 大西香代子	第40回日本看護学会論文集 看護管理	日本看護協会			222-224
古山 美穂	200908	eラーニング導入による看護学生の学習支援ニーズと情報活用の実践力、及び看護実践力への影響	古山美穂, 細田泰子, 吉川彰二, 森一恵, 星和美, 荒木孝治, 真嶋由貴恵, 中村裕美子	日本医学看護学教育学会雑誌	日本医学看護学教育学会	16		45-51
来栖 清美	201003	小学生の病理現象に関する生活臨床の可能性-保護者・教師への生活実態調査の結果をもとに-	小谷正登, 来栖清美, 岩崎久志他	臨床教育学研究	武庫川女子大学大学院	16		39-63
平松 瑞子	201001	退院調整看護師のがん終末期患者への退院支援のプロセスとその役割に関する研究	三輪恭子, 岩瀬嘉壽子, 宇都宮宏子, 大杉花, 行田葉穂美, 杉内陽子, 高田久美, 原田かおる, 平松瑞子, 藤本未央	平成20年度地域保健福祉研究助成金活動報告集	財団法人大同生命厚生事業団			198-202
	201003	療養者とその家族の退院に関連する療養生活への不安	平松瑞子, 中村裕美子	大阪府立大学看護学部紀要	大阪府立大学看護学部	16	1	9-19
梶村 郁子	200906	看護必要度を活用した看護支援システムの開発と今後の課題	梶村郁子, 石垣恭子, 原由行, 押山伸次郎, 中根浩二	医療情報学	医療情報学会	28	3	147-153
竹下 裕子	201003	手術待機中にある患者用心配事尺度の開発	竹下裕子	香川大学看護学雑誌	香川大学			
前川 奏子	200905	映像を手がかりとしたSNSにみるナレッジ表出の状況-臨床看護師による活用から-	真嶋由貴恵, 前川奏子, 東正造, 寺中晶部, 嵩田聡, 小島明	教育システム情報学会誌	教育システム情報学会	24	1	8-11
	200906	病棟別ナースコール呼出理由の実態調査	真嶋由貴恵, 前川奏子, 田村陽子, 有本美紀, 大平雅雄, 池川充洋	第13回日本医療情報学会春季学術大会抄録集	日本医療情報学会			61-62
	200907	Investigation of the Load on the Lumbar Region in Nursing Technique's Movements -Relation between Twist and Surface Electromyogram-	Y. Maekawa, A. Shiozaki, Y. Majima	The 10th International Congress on Nursing Informatics	Connecting Health and Humans			460-464
	200907	Survey of Actual Conditions of Reasons for Nurse Calls, Comparing a Surgical Ward and a Medical Ward	Y. Majima, Y. Tamura, Y. Maekawa, M. Ohira, M. Ikegawa	The 10th International Congress on Nursing Informatics	Connecting Health and Humans			419-423
	200907	Relation between Lumbar Twist Angle and Surface Electromyogram (EMG)	Y. Maekawa, A. Shiozaki, Y. Majima	International Technical Conference on Circuits/System/Computers and Communications	International Technical Conference on Circuits/System/Computers and Communications			1304-1307
	200908	看護師のナレッジ表出を支援するための映像活用型eラーニングシステムの有用性	真嶋由貴恵, 前川奏子	日本看護研究学会雑誌	日本看護研究学会	32	3	169
	200909	映像共有システムによる看護技術映像を媒介としたコミュニケーションの成立状況	真嶋由貴恵, 前川奏子, 東正造, 寺中晶部, 嵩田聡, 小島明	教育システム情報学会 第34回全国大会講演論文集	教育システム情報学会			468-469
	200909	看護師と看護学生の静脈スキルの比較-視線と看護技術手順に焦点を当てて	真嶋由貴恵, 前川奏子	教育システム情報学会 第34回全国大会講演論文集	教育システム情報学会			28-29
	200911	看護技術における腰部のひねり動作とその負荷の関係	前川奏子, 汐崎陽, 真嶋由貴恵	日本医療情報学会 第29回医療情報学連合大会論文集	日本医療情報学会			1072-1073
	200911	ナースコールデータにおけるベイジアンネットワークを使用したデータマイニング方法の検討	福井竜也, 真嶋由貴恵, 青木真吾, 辻洋, 前川奏子	日本医療情報学会 第29回医療情報学連合大会論文集	日本医療情報学会			985-988
200911	静脈注射実施時のコン(暗黙知)に対する熟練看護師と看護学生の意識の比較-インタビュー調査より-	前川奏子, 真嶋由貴恵	日本看護科学学会 第29回日本看護科学学会学術集会講演集	日本看護科学学会			315	
200911	静脈注射技術における暗黙知の形式化化-看護師の視線の動きに着目して-	真嶋由貴恵, 前川奏子	日本看護科学学会 第29回日本看護科学学会学術集会講演集	日本看護科学学会			228	

3). 学術講演・学会発表

氏名	発表年月	発表課題名	会議・学会名	発表者名	
中山 美由紀	200906	Family-centered Nursing Practice in NICU: An Analysis of Interviews of 11 Japanese Nurses	9th International Family Nursing Conference	Miyuki Nakayama, Yuri Fujino	
	200909	NICU看護師の家族看護観と家族看護の実践～家族のニーズ把握を中心に	第50回日本母性衛生学会学術集会	藤野百合, 中山美由紀	
	201003	子どもの誕生と家族の発達 第5報(1)	日本発達心理学会第21回大会	中山美由紀, 福丸由佳, 小泉智恵, 無藤隆	
	201003	子どもの誕生と家族の発達 第5報(2)	日本発達心理学会第21回大会	福丸由佳, 中山美由紀, 小泉智恵, 無藤隆	
町浦 美智子	200907	Collaborative sexuality education to improve self-affirmation and sexual decision making intention of Japanese high-school students	International Council of Nurses 24th Quadrennial Congress	Michiko Machiura, Minako Kikuchi, Mayumi Yamazaki, Hiroko Mine	
	200907	Development and evaluation of nursing care program for improving the atopic dermatitis infants' skin condition	International Council of Nurses 24th Quadrennial Congress	Cardenas.X., Machiura, M., Suehara, S., Naragino, H	
	200908	アトピー性皮膚炎乳幼児をもつ母親のスキンケア能力の向上につながるスキンケア日記の効果	日中韓看護学会	カルデナス暁東, 町浦美智子, 末原紀美代	
	200909	Development of parenthood for adolescent males and females: Psychological, physiological, and brain science evaluation of first-hand learning about infants	The 1st International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science	Ayako Sasaki, Kimiyo Suehara, Michiko Machiura, Akio Nakai, Yumiko Nakazaki, Kenichi Matsuki, Michiko Tanabe	
	200909	未婚就労女性の性感染症予防的保健行動プログラムの検討 フォーカスインタビューを用いて	第50回日本母性衛生学会総会 学術集会	斉藤早苗, 町浦美智子, 末原紀美代	
	200909	未婚就労女性の性感染症予防的保健行動プログラムの効果検証	第50回日本母性衛生学会総会 学術集会	斉藤早苗, 町浦美智子, 末原紀美代	
	201002	無介助分娩に関する情報源の実態とその問題点	第48回大阪母性衛生学会学術集会	奥野春奈, 中嶋有加里, 町浦美智子	
上野 昌江	200908	乳児早期の家庭訪問による支援が必要な子どもと家族の見極め方略の検討	第12回日本地域看護学会	上野昌江, 和泉京子, 大川聡子, 根来佐由美	
	200908	大学の地域看護学実習における学生の家庭訪問での学び	第12回日本地域看護学会	大川聡子, 根来佐由美, 上野昌江, 和泉京子, 平尾恭子	
	200908	大卒新任保健師が個別支援において感じている困難	第12回日本地域看護学会	松尾理恵, 上野昌江, 和泉京子, 大川聡子	
	200910	地域住民活動に大学が参画する意義と効果～住民が主催するフェスタに参加して～	第68回日本公衆衛生学会	根来佐由美, 大川聡子, 和泉京子, 上野昌江, 杉本麻衣, 尾崎倫子	
	200910	禁煙教育における学生ボランティア育成の取組み(1報)実践と学生の意識変化	第68回日本公衆衛生学会	山口世志子, 山本佳美, 原典子, 大川聡子, 根来佐由美, 和泉京子, 上野昌江	
	200910	禁煙教育における学生ボランティア育成の取組み(2報)小学生への禁煙教育前後調査	第68回日本公衆衛生学会	上野昌江, 野中梓, 山口世志子, 和泉京子, 大川聡子, 根来佐由美	
	200910	親子教室での発達障害のリスクをもつ児と母親を支援する上での困難の実態	第68回日本公衆衛生学会	平尾恭子, 上野昌江	
	200910	羽曳野市における乳児早期からの家庭訪問による子育て支援 その1	第68回日本公衆衛生学会	中村幸子, 河内敬子, 上野昌江, 和泉京子, 大川聡子, 根来佐由美, 尾崎倫子	
	200910	羽曳野市における乳児早期からの家庭訪問による子育て支援 その2	第68回日本公衆衛生学会	河内敬子, 中村幸子, 上野昌江, 和泉京子, 大川聡子, 根来佐由美, 尾崎倫子	
	200910	羽曳野市における乳児早期からの家庭訪問による子育て支援 その3	第68回日本公衆衛生学会	尾崎倫子, 上野昌江, 和泉京子, 大川聡子, 根来佐由美, 中村幸子, 河内敬子	
	200910	育児不安に関する実態と関連要因の都市部と郡部の比較	第68回日本公衆衛生学会	山田和子, 上野昌江, 前馬理恵	
	200910	医療機関から保健センターに連絡があった養育支援家庭訪問事例の検討	第68回日本公衆衛生学会	下園好, 上野昌江, 和泉京子, 堀田邦子, 川西清美	
	200910	老人教養講座を受講する地域女性高齢者の転倒の実態	第68回日本公衆衛生学会	土井有羽子, 上野昌江, 和泉京子	
	200910	孤立死防止に向けた見守りネットワークに関する研究-ケアマネジャーとヘルパーの役割	第68回日本公衆衛生学会	渡辺浩一, 尾久聖子, 浦田洋子, 和泉京子, 大川聡子, 上野昌江	
	200910	大学の地域看護学実習における家庭訪問での学び-保健師同伴訪問と学生単独訪問の比較	第68回日本公衆衛生学会	大川聡子, 根来佐由美, 上野昌江, 和泉京子, 平尾恭子	
	200910	環境と福祉が連携した自治型福祉NPO E&Lと大学との協働による健康支援活動	第13回日本健康福祉政策学会	西田政弘, 原田恵美子, 宮本文恵, 上野昌江, 根来佐由美, 和泉京子, 大川聡子	
	200912	児童虐待発生予防をめざす乳児早期からの看護職による家庭訪問の評価	第15回日本子ども虐待防止学会	上野昌江, 和泉京子, 大川聡子, 根来佐由美, 中村幸子, 河内敬子, 大西洋子	
	200912	地域における虐待発生予防への支援-地域の第一線の保健師の取り組み	第15回子ども虐待防止学会分科会	上野昌江, 山田和子, 酒井昌子, 堀田邦子, 村田浩子, 山本裕美子, 工藤充子	
	桑名 行雄	200906	触法精神障がい者に対する看護師の態度における認知面	第19回日本精神保健看護学会学術集会	松井達也, 桑名行雄
		200906	ライフワーク活動をしている統合失調症者J氏の人生の足跡	第19回日本精神保健看護学会学術集会	山元恵子, 桑名行雄
200906		精神科病棟において患者が立てる音の意味を読みとる看護師の能力	第19回日本精神保健看護学会学術集会	北村雄児, 桑名行雄	
200906		救命救急センターで勤務する看護師の自殺未遂患者に対する態度	第19回日本精神保健看護学会学術集会	瓜崎貴雄, 桑名行雄	
桑名 行雄	200906	長期入院統合失調症患者の退院後の生活の場への意向に対する精神科看護師の態度	第19回日本精神保健看護学会学術集会	吉村公一, 桑名行雄	

氏名	発表年月	発表課題名	会議・学会名	発表者名
白井 みどり	200910	車いすから椅子への変更による認知症高齢者の座位保持・修正に関連する行動の変化	第10回日本認知症ケア学会	白井みどり,北村有香,長畑多代,山内加絵,佐々木八千代,荻野朋子,今川真治,臼井キミカ
	200911	表情の解析による疼痛評価	第33回人間-環境系シンポジウム	阿部武志,秋山庸子,三島史人,白井みどり
中村 裕美子	200907	Development of Ubiquitous On-Demand Study Support Environment for Nursing Students	13th International Conference on Human-Computer Interaction	Yukie Majima,Yumiko Nakamura,Yasuko Maekawa
	200907	Efficiency of Blended E-Learning Classes using Nursing Practice Examples	10th International Congress on Nursing Informatics	Nakamura Yumiko,Majima Yukie,So yoichiro,Horii Satoshi,Izumi kyoko,Kurusu Kiyomi
	200907	未就労看護職の再就職支援に関する医療機関の取組と研修コース	第35回日本看護研究学会学術集会	細田泰子,星和美,中村裕美子,真嶋由貴恵
	200911	地域高齢者に対する認知症予防教室の試みとその効果—低栄養リスクとの関連—	第29回日本看護科学学会学術集会	太田暁子,牧野裕子,中村裕美子,林園子,水野智美,平松瑞子
	200911	地域高齢者に対する認知症予防教室の試みとその効果	第29回日本看護科学学会学術集会	牧野裕子,中村裕美子,林園子,水野智美,太田暁子,平松瑞子
高見沢 恵美子	200911	三次救急における看護師が認識する看護師・医師の協働関係の内容	第11回日本救急看護学会学術集会	本田可奈子,高見沢恵美子
	200908	Critical care nurses' perceptions of end-of-life care and their nursing practice in Japan	6th Annual Congress of World Federation of Critical CareNurses(WFCCN)	A Yamada, E Takamizawa, K Mori
	200907	集中治療中の術後患者の疼痛管理への影響要因に対する看護師の認識	第35回日本看護研究学会学術集会	榎村桜,森一恵,高見沢恵美子
田中 京子	200906	がん医療における倫理的問題への対処を行う際に看護師が経験する困難への取り組み	日本看護倫理学会 第2回年次大会	山内洋子,吉田智美,田中京子
	200906	壮年期再発がん患者のトータルペインに対する対処	第14回日本緩和医療学会学術大会	平野照子,田中京子
	200908	再発期にある肝臓がん患者の不確かさ	第35回一般社団法人日本看護研究学会学術集会	江上雅代,田中京子
	200910	がん看護専門看護師の養成—6大学連携オンコロジーチーム養成プランにおける試み—	第47回日本癌治療学会学術集会	田中京子
	200911	文献から見たがん患者の在宅ホスピスケアへの移行を妨げる要因	第40回日本看護学会抄録集	久保沙織,田中京子
	200911	老年期にがんと診断された患者の病気体験	第29回日本看護科学学会学術集会	伊豆原知恵,林田裕美,田中京子
	200911	成熟期の乳がん患者の担っている役割	第29回日本看護科学学会学術集会	喜多下真里,田中京子
	201002	再発期にある肝臓がん患者の不確かさへの対処	第24回日本がん看護学会学術集会	江上雅代,田中京子
	201002	成熟期の乳がん患者が役割を担う上で経験している困難	第24回日本がん看護学会学術集会	喜多下真里,田中京子
	201002	老年期にがんと診断された患者の病気体験への取り組み	第24回日本がん看護学会学術集会	伊豆原知恵,林田裕美,田中京子
	201002	進行肺がん患者の病気の意味とその影響要因	第24回日本がん看護学会学術集会	庄司麻美,田中京子
青山 ヒフミ	200911	病院トップマネジメントにおける看護管理者の実践モデルの検証	第29回日本看護科学学会学術集会	朝倉京子,青山ヒフミ,山田佐登美,永池京子,高橋素子他3名
	200911	死を看取り続ける看護師のジレンマへの対応とその変化	第29回日本看護科学学会学術集会	近藤真紀子,青山ヒフミ,町浦美智子
杉本 吉恵	200907	衣服の厚さが血圧測定値に与える影響—オシロメトリック式自動血圧計を使って—	第40回日本看護学会 看護総合	高美沙,杉本吉恵,中西亜留務
	200907	洗髪台における頭部支持機能の有無による頭部負担の比較検討	第40回日本看護学会 看護総合	中西亜留務,杉本吉恵,高美沙
	200907	上方移動介助時における介助者の身体的負担	第40回日本看護学会 看護総合	青井聡美,広兼さくら,杉本吉恵,寺西由記,田村翼,池田ひろみ,三宅由希子,塩川満久,吉田彰
星 和美	200908	未就労看護職の再就職支援に関する医療機関の取組と研修コース—雇用状況に着目して	第35回一般社団法人日本看護研究学会学術集会	細田泰子,星和美,中村裕美子,真嶋由貴恵
井端 美奈子	200910	思春期における嚥下形成術の時期の検討	第18回日本小児泌尿器科学会総会	井端美奈子,島田憲次
鎌田 佳奈美	200906	日本における看護倫理関連研究の動向と今後の課題	第2回日本看護倫理学会	勝原裕美子,星和美,勝山貴美子,鎌田佳奈美,ウイリアムソン彰子
中嶋 有加里	200909	妊娠糖尿病女性の妊娠期の至適体重に関する看護援助	第50回日本母性衛生学会学術集会	永田貴子,末原紀美代,中嶋有加里
	200911	妊娠糖尿病女性の母乳栄養確立に向けての看護援助	第25回日本糖尿病・妊娠学会年次学術集会	永田貴子,末原紀美代,中嶋有加里
	201002	無介助分娩に関する情報源の実態とその問題点	第48回大阪母性衛生学会学術集会	奥野春奈,中嶋有加里,町浦美智子
牧野 裕子	200911	地域高齢者に対する認知症予防教室の試みとその効果—歩行および課題の継続実施状況から—	第29回日本看護科学学会学術集会	牧野裕子,中村裕美子,太田暁子,林園子,水野智美,平松瑞子
牧野 裕子	200911	地域高齢者に対する認知症予防教室の試みとその効果—低栄養リスクとの関連—	第29回日本看護科学学会学術集会	太田暁子,牧野裕子,中村裕美子,林園子,水野智美,平松瑞子

氏名	発表年月	発表課題名	会議・学会名	発表者名
和泉 京子	200906	「軽度要介護認定」高齢者の3年後の要介護度の推移の状況とその要因	第51回日本老年社会科学学会大会	和泉京子, 阿曾洋子, 山本美輪
	200907	「軽度要介護認定」高齢者の特性別にみた介護予防サービス内容への参加希望状況	第12回日本地域看護学会学術集会	和泉京子, 阿曾洋子
	200907	乳児早期の家庭訪問による支援が必要な子どもと家族の見極め方略の検討	第12回日本地域看護学会学術集会	上野昌江, 和泉京子, 大川聡子他
	200907	大学の地域看護実習における学生の家庭訪問での学び	第12回日本地域看護学会学術集会	大川聡子, 根来佐由美, 上野昌江, 和泉京子, 他
	200907	大卒新任保健師が個別支援において感じている困難	第12回日本地域看護学会学術集会	松尾理恵, 上野昌江, 和泉京子, 大川聡子
	200910	環境と福祉が連携した自治型福祉NPO E&Lと大学との協働による健康支援活動	日本健康福祉政策学会	岡橋長兵衛, 根来佐由美, 上野昌江, 和泉京子, 他
	200911	羽曳野市における乳児早期からの家庭訪問による子育て支援 その1	第67回日本公衆衛生学会総会	中村幸子, 上野昌江, 和泉京子他
	200911	羽曳野市における乳児早期からの家庭訪問による子育て支援 その2	第67回日本公衆衛生学会総会	河内敬子, 上野昌江, 和泉京子他
	200911	羽曳野市における乳児早期からの家庭訪問による子育て支援 その3	第67回日本公衆衛生学会総会	尾崎倫子, 上野昌江, 和泉京子他
	200911	地域住民活動に大学が参画する意義と効果～住民が主催するフェスタに参加して～	第67回日本公衆衛生学会総会	根来佐由美, 大川聡子, 和泉京子, 上野昌江, 他
	200911	禁煙教育における学生ボランティア育成の取組み(1報)実践と学生の意識変化	第67回日本公衆衛生学会総会	山口世志子, 和泉京子, 上野昌江, 他
	200911	禁煙教育における学生ボランティア育成の取組み(2報)小学生への禁煙教育前後調査	第67回日本公衆衛生学会総会	上野昌江, 和泉京子, 大川聡子他
	200911	医療機関から保健センターに連絡があった養育支援家庭訪問事例の検討	第67回日本公衆衛生学会総会	下園好, 上野昌江, 和泉京子, 他
	200911	老人教養講座を受講する地域女性高齢者の転倒の実態	第67回日本公衆衛生学会総会	土井有羽子, 上野昌江, 和泉京子
	200911	孤立死防止に向けた見守りネットワークに関する研究－ケアマネジャーとヘルパーの役割	第67回日本公衆衛生学会総会	渡辺浩一, 和泉京子, 大川聡子, 上野昌江, 他
	200911	介護予防事業参加者の教室修了1年後の評価(1報)	第67回日本公衆衛生学会総会	杉本麻衣, 中島佐和子, 和泉京子
	200911	介護予防事業参加者の教室修了1年後の評価(2報)	第67回日本公衆衛生学会総会	中島佐和子, 杉本麻衣, 和泉京子
	200911	軽度要介護認定高齢者の再転倒の有無別にみた3年後の要介護度の推移と再転倒の要因	第67回日本公衆衛生学会総会	和泉京子, 阿曾洋子
	200911	大学の地域看護学実習における家庭訪問での学び－保健師同伴訪問と学生の単独訪問の比較	第67回日本公衆衛生学会総会	大川聡子, 根来佐由美, 上野昌江, 和泉京子, 他
	200911	児童虐待発生予防をめざす乳児早期からの看護職による家庭訪問の評価	日本子ども虐待防止学会第15回学術集会	上野昌江, 和泉京子, 大川聡子, 根来佐由美, 他
200911	「軽度要介護認定」高齢者の年齢区分別にみた身体・心理・社会的状況と3年後の要介護度の推移	第29回日本看護科学学会	和泉京子, 阿曾洋子, 山本美輪	
201001	地域見守り組織のあり方と見守り基準に関する検討専門職へのインタビュー結果から	第14回在宅ケア学会学術集会	藤田俱子, 津村智恵子, 河野あゆみ, 和泉京子, 大川聡子	
201002	Factors related to depression in elderly people with lower care levels in Japan	The 13th East Asian Forum of Nursing Scholars	Kyoko IZUMI, Yoko ASO	
長畑 多代	200909	施設入所高齢者の急変に関する対応において看護師が感じている困難	日本老年看護学会第14回学術集会	山内加絵, 長畑多代, 白井みどり
	200910	介護老人保健施設における看取りの取り組み	第40回日本看護学会(看護管理)学術集会	矢田みゆき, 香川玉恵, 長畑多代, 山内加絵, 白井みどり
	200910	介護老人保健施設の急変時の対応における介護職との連携	第40回日本看護学会(看護管理)学術集会	八尾英人, 長畑多代, 山内加絵, 白井みどり
	200910	車いすから椅子への変更による認知症高齢者の座位保持・修正に関連する行動の変化	日本認知症ケア学会第10回大会	白井みどり, 北村有香, 長畑多代, 山内加絵他4名
石澤 美保子	200912	社会復帰ケアにおけるストーマ装具選択基準の一提案	第27回日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会学術集会	大村裕子, 秋山結美子, 石澤美保子, 後藤真由美, 他13名
	200912	適正なストーマ装具選択のためのストーマフィジカルアセスメントツール作成の試み	第27回日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会学術集会	山田陽子, 松浦信子, 末永きよみ, 秋山結美子, 渡邊百合枝, 堀友子, 丸山弘美, 後藤真由美, 熊谷英子, 山本由利子, 三富陽子, 品田ひとみ, 石澤美保子, 他4名
	200912	ストーマ装具選択に必要な装具分類	第27回日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会学術集会	熊谷英子, 大村裕子, 山本由利子, 秋山結美子, 後藤真由美, 品田ひとみ, 堀友子, 石澤美保子, 他9名
	201003	褥瘡周囲の皮膚も見る	日本褥瘡学会近畿地方会	石澤美保子
佐藤 淑子	201001	感染対策チームとリンクナース会を有する病院における感染管理の組織活動の現状と課題	医療マネジメント学会大阪支部第3回学術集会	佐藤淑子, 齋野貴史, 城戸口親史, 平尾百合子
林田 裕美	200911	老年期にがんと診断された患者の病気体験	日本看護科学学会	伊豆原知恵, 林田裕美, 田中京子
林田 裕美	201002	老年期にがんと診断された患者の病気体験への取り組み	日本がん看護学会	伊豆原知恵, 林田裕美, 田中京子

氏名	発表年月	発表課題名	会議・学会名	発表者名
勝山 貴美子	200910	時間外受診患者における診療実態 愛知県内の救急外来の受診事例から	第47回日本医療・病院管理学会	勝山貴美子, 加藤憲, 宮治眞, 藤原奈佳子, 小林三太郎, 天野寛, 内藤道夫, 牧晴典, 川原弘久, 榎木充明, 妹尾淑郎
	200910	緊急性の高い病態への関連の強い複数診療科の関与についての試行的検討	第47回日本医療・病院管理学会	加藤憲, 宮治眞, 藤原奈佳子, 勝山貴美子, 小林三太郎, 天野寛, 内藤道夫, 牧晴典, 川原弘久, 榎木充明, 妹尾淑郎
	200910	愛知県内の病院における患者未払い金問題に関するアンケート調査結果	第47回日本医療・病院管理学会	藤原奈佳子, 加藤憲, 宮治眞, 勝山貴美子, 小林三太郎, 天野寛, 内藤道夫, 牧晴典, 川原弘久, 榎木充明, 妹尾淑郎
	200910	愛知県下全医師会長からの聴き取り調査 病診連携を中心に	第47回日本医療・病院管理学会	宮治眞, 加藤憲, 勝山貴美子, 藤原奈佳子, 天野寛, 小林三太郎, 内藤道夫, 川原弘久, 牧晴典, 榎木充明, 妹尾淑郎
	200910	行政・病院・教育研究機関・看護協会が連携して行った中小規模病院ネットワーク構築事業の意義	第40回日本看護学会・看護管理	宮本ありさ, 森迫京子, 高橋恵子, 牧野恵子, 田中睦子, 川本彰子, 今阪洋子, 鳥井元純子, 寺下久代, 青山ヒフミ, 勝山貴美子, 小笠幸子
	200910	中小規模病院のネットワーク継続と広がりを促進する要因	第40回日本看護学会・看護管理	勝山貴美子, 青山ヒフミ, 小笠幸子, 宮本ありさ, 森迫京子, 高橋恵子, 牧野恵子, 田中睦子, 川本彰子, 今阪洋子, 鳥井元純子, 寺下久代
	200910	中小規模病院看護管理者支援プログラムが受講生のリーダーとしての自信,エンパワメントに与えた影響	第40回日本看護学会・看護管理	勝山貴美子, 小野多美子, 平井和美, 橋本美山, 山田敬子, 宮本ありさ, 吉田博美, 山村壽美子, 牧野恵子, 山田静子, 豊田百合子
	200911	国家試験の倫理問題における職種間の比較検討 医師と言語聴覚士を事例として	第4回医療の質・安全学会	小林三太郎, 加藤憲, 宮治眞, 藤原奈佳子, 勝山貴美子, 天野寛, 内藤道夫, 川原弘久, 榎木充明, 妹尾淑郎
	200911	中小規模病院看護管理者教育プログラム構築とその評価	第29回日本看護科学学会学術集会	勝山貴美子, 青山ヒフミ, 小笠幸子
田中 結華	200906	慢性特発性偽性腸閉塞でストーマ造設した一症例のケア	第51回関西STOMA研究会	曾我智美, 松田常美, 田中結華, 井上透, 前田清
	200906	ストーマ外来への継続支援の検討	第51回関西STOMA研究会	松田常美, 曾我智美, 田中結華, 澤井智恵, 林純代, 野田英児, 井上透, 前田清
	200909	本院における褥瘡ハイリスク患者ケア加算算定の現状	第11回日本褥瘡学会学術集会	松田常美, 曾我智美, 田中結華, 中西健史, 石井正光
	200909	褥瘡対策電子化の問題点	第11回日本褥瘡学会学術集会	松田常美, 曾我智美, 田中結華, 中西健史, 石井正光
	201002	ストーマ周囲皮膚に腺癌皮膚転移を認めた2症例	第27回日本ストーマ・排便リハビリテーション学会総会	松田常美, 田中結華, 曾我智美, 永原央, 野田英児, 井上透, 前田清
細田 泰子	200908	未就労看護職の再就職支援に関する医療機関の取組と研修ニーズ-雇用状況に着目して	第35回一般社団法人日本看護研究学会学術集会	細田泰子, 星和美, 中村裕美子, 真崎由貴恵
	200911	新人期の看護師の自己効力とコンピテンスの関連	第29回日本看護科学学会学術集会	新瀬朋未, 細田泰子, 中岡亜希子, 片山由加里
大川 聡子	200907	乳児早期の家庭訪問による支援が必要な子どもと家族の見極め方略の検討	第12回日本地域看護学会学術集会	上野昌江, 和泉京子, 大川聡子他
	200907	大卒新任保健婦が個別支援において感じている困難	第13回日本地域看護学会学術集会	松尾理恵, 上野昌江, 和泉京子, 大川聡子
	200908	大学の地域看護学実習における学生の家庭訪問での学び	日本地域看護学会	大川聡子, 根来佐由美, 上野昌江, 和泉京子, 平尾恭子
	200910	羽曳野市における乳児早期からの家庭訪問による子育て支援 その1	第68回日本公衆衛生学会	中村幸子, 河内敬子, 上野昌江, 和泉京子, 大川聡子, 根来佐由美, 尾崎倫子
	200910	羽曳野市における乳児早期からの家庭訪問による子育て支援 その2	第68回日本公衆衛生学会	中村幸子, 河内敬子, 上野昌江, 和泉京子, 大川聡子, 根来佐由美, 尾崎倫子
	200910	大学の地域看護学実習における家庭訪問での学び	第68回日本公衆衛生学会	大川聡子, 根来佐由美, 上野昌江, 和泉京子, 平尾恭子
	200910	孤立死防止に向けた見守りネットワークに関する研究-ケアマネジャーとヘルパーの役割	第68回日本公衆衛生学会	渡辺浩一, 和泉京子, 大川聡子, 上野昌江他
	200910	禁煙教育における学生ボランティア育成の取り組み(1報)実践と学生の意識変化	第68回日本公衆衛生学会	山口世志子, 山本佳美, 原典子, 大川聡子, 根来佐由美, 和泉京子, 上野昌江
	200910	禁煙教育における学生ボランティア育成の取り組み(2報)小学生への禁煙教育前後調査	第68回日本公衆衛生学会	上野昌江, 野中祥, 山口世志子, 和泉京子, 大川聡子, 根来佐由美
	200910	環境と福祉が連携した自治型福祉NPO E&Lと大学との協働による健康支援活動	第13回日本健康福祉政策学会	西田政弘, 原田恵美子, 宮本文恵, 上野昌江, 根来佐由美, 和泉京子, 大川聡子
	200910	大学の地域看護学実習における家庭訪問での学び-保健師同伴訪問と学生単独訪問の比較	第68回日本公衆衛生学会	大川聡子, 根来佐由美, 上野昌江, 和泉京子, 平尾恭子
	200910	羽曳野市における乳児早期からの家庭訪問による子育て支援	第68回日本公衆衛生学会	尾崎倫子, 上野昌江, 和泉京子, 大川聡子, 根来佐由美, 中村幸子, 河内敬子
	200912	児童虐待発生予防をめざす乳児早期からの看護職による家庭訪問の評価	第15回日本子ども虐待防止学会	上野昌江, 和泉京子, 大川聡子, 根来佐由美, 中村幸子, 河内敬子, 大西洋子
	201001	地域見守り組織のあり方と見守り基準に関する検討 専門職へのインタビュー結果から	第14回在宅ケア学会学術集会	藤田俱子, 津村智恵子, 河野あゆみ, 和泉京子, 大川聡子
太田 暁子	200910	市町保健師の職業的アイデンティティの発達に関する研究	第68回日本公衆衛生学会総会	太田暁子, 儀志江
	200910	市町保健師の新任期における専門能力の発達に関連する要因の検討	第68回日本公衆衛生学会総会	儀志江, 太田暁子
	200911	地域高齢者に対する認知症予防教室の試みとその効果	第29回日本看護科学学会学術集会	牧野裕子, 中村裕美子, 太田暁子, 林園子, 水野智美, 平松瑞子
太田 暁子	200911	地域高齢者に対する認知症予防教室の試みとその効果-低栄養リスクとの関連-	第29回日本看護科学学会学術集会	太田暁子, 牧野裕子, 中村裕美子, 林園子, 水野智美, 平松瑞子

氏名	発表年月	発表課題名	会議・学会名	発表者名
別宮 直子	200909	自閉症児と健常児の識別に有用な行動要素と判別分析による検証	日本看護研究学会	中村美帆子,別宮直子,吉村裕之
	200911	Determinants for discriminating child with and without autism using multidimensional inventory and discriminant analysis	日本神経精神薬理学会	Mihoko Nakamura, Naoko Bekku, Hiroyuki Yoshimura
松田 千登勢	200909	短期入所を利用する認知症高齢者の家族とケア提供者が伝えあっている情報の実態	日本老年看護学会	松田千登勢,松田宣子
小笠 幸子	200908	The Security Environment of Medical Information in Nursing and the Transition of the Awareness of Information Security	日中看護学会	Hifumi Aoyama, Kimiko Katuyama, Sachiko Ozasa, Yuriko Toyoda, Chiaki Aoyama
	200910	患者と医療・看護職者のエンバウメント形成を支援する教育プログラムの評価-参加前後での認識変化の過程とその特徴-	第40回日本看護学会(看護管理)	小笠幸子,竹村節子,大西香代子
	200910	中小規模病院のネットワーク継続と協力を促進する要因	第40回日本看護学会(看護管理)	勝山貴美子,青山ヒフミ,小笠幸子 他
	200910	行政・病院・教育研究機関・看護協会が連携して行なった中小規模病院ネットワーク構築事業の意義	第40回日本看護学会(看護管理)	宮本ありさ,森迫京子,勝山貴美子,青山ヒフミ,小笠幸子 他
	200911	中小規模病院看護管理者教育プログラム構築とその評価	第29回日本看護科学学会学術集会	勝山貴美子,青山ヒフミ,小笠幸子
北村 有香	200911	車いすから椅子への変更による認知症高齢者の座位保持・修正関連する行動の変化	第10回日本認知症ケア学会	白井みどり,北村有香,長畑多代,山内加絵ほか
来栖 清美	200907	生活病理・生活臨床に関する臨床教育学的研究1 一乳幼児からみた睡眠の状況一	第4回武庫川臨床教育学会研究大会	三宅靖子,来栖清美他
	200907	生活病理・生活臨床に関する臨床教育学的研究2 一乳幼児調査の自由記述報告一	第4回武庫川臨床教育学会研究大会	来栖清美,藤村真理子他
根来 佐由美	200908	地域高齢者の皮膚ケアの実態(5月と12月を比較して)	第35回 日本看護研究学会学術集会	根来佐由美,葉山有香,井上智子
	200908	皮膚乾燥予防の視点からみた地域高齢者の入浴習慣に関する実態調査	日本地域看護学会 第12回学術集会	根来佐由美
	200908	乳児早期の家庭訪問による支援が必要な子どもと家族の見極め方略の検討	日本地域看護学会 第12回学術集会	上野昌江,和泉京子,大川聡子,根来佐由美
	200908	大学の地域看護学実習における学生の家庭訪問での学び	日本地域看護学会 第12回学術集会	大川聡子,根来佐由美,上野昌江,和泉京子,平尾恭子
	200909	呼吸介助とシルベスター法を用いた深呼吸法が高齢者の循環動態に及ぼす影響	日本看護技術学会第8回学術集会	葉山有香,根来佐由美,井上智子
	200910	地域住民活動に大学が参画する意義と効果~住民が主催するフェスタに参加して~	第68回日本公衆衛生学会	根来佐由美,大川聡子,和泉京子,上野昌江,杉本麻衣,尾崎倫子
	200910	羽曳野市における乳児早期からの家庭訪問による子育て支援 その1	第68回日本公衆衛生学会	河内敬子,中村幸子,上野昌江,和泉京子,大川聡子,根来佐由美,尾崎倫子
	200910	羽曳野市における乳児早期からの家庭訪問による子育て支援 その2	第68回日本公衆衛生学会	中村幸子,河内敬子,上野昌江,和泉京子,大川聡子,根来佐由美,尾崎倫子
	200910	羽曳野市における乳児早期からの家庭訪問による子育て支援 その3	第68回日本公衆衛生学会	尾崎倫子,上野昌江,和泉京子,大川聡子,根来佐由美,中村幸子,河内敬子
	200910	禁煙教育における学生ボランティア育成の取組み(1報)実践と学生の意識変化	第68回日本公衆衛生学会	山口世志子,山本佳美,原典子,大川聡子,根来佐由美,和泉京子,上野昌江
	200910	禁煙教育における学生ボランティア育成の取組み(2報)小学生への禁煙教育前後調査	第68回日本公衆衛生学会	上野昌江,野中梓,山口世志子,和泉京子,大川聡子,根来佐由美
	200910	大学の地域看護学実習における家庭訪問での学び-保健師同伴訪問と学生単独訪問の比較	第58回日本公衆衛生学会	大川聡子,根来佐由美,上野昌江,和泉京子,平尾恭子
	200910	環境と福祉が連携した自治型福祉NPOE&Lと大学との協働による健康支援活動	第13回日本健康福祉政策学会学術大会	岡橋長兵衛,西田政弘,原田恵美子,宮本文恵,根来佐由美,上野昌江,和泉京子,大川聡子
	平松 瑞子	200911	地域高齢者に対する認知症予防教室の試みとその効果-歩行および課題の継続実施状況から-	第29回日本看護科学学会学術集会
200911		地域高齢者に対する認知症予防教室の試みとその効果-低栄養リスクとの関連-	第29回日本看護科学学会学術集会	太田暁子,牧野裕子,中村裕美子,林園子,水野智美,平松瑞子
201002		悪急性期病床における退院支援プロセスに関する研究-在宅療養移行が困難なケースに対する病棟看護師の支援-	第12回日本在宅医学会大会	平松瑞子,田中圭子,高瀬悦子,片岡彰子
山内 加絵	200909	施設入所高齢者の急変に関する対応において看護師が感じている困難	第14回日本老年看護学会	山内加絵,長畑多代,白井みどり
	200910	介護老人保健施設における看取りの取り組み	第40回日本看護学会(看護管理)学術集会	矢田みゆき,香川玉恵,長畑多代,山内加絵,白井みどり
	200910	介護老人保健施設の急変時の対応における介護職との連携	第40回日本看護学会(看護管理)学術集会	八尾英人,長畑多代,山内加絵,白井みどり
	200910	車いすから椅子への変更による認知症高齢者の座位保持・修正に関連する行動の変化	日本認知症ケア学会第10回大会	白井みどり,北村有香,長畑多代,山内加絵,佐々木八千代,萩野朋子,今川真治,白井キミカ
山口 知代	200909	闘病記をともに読む会における看護学生の個人的体験とその相互作用	日本看護学教育学会 第19回学術集会	山口知代,和田恵美子,新瀬朋未
	200906	統合失調症を持つ長期入院患者の首尾一貫感覚・精神健康・主観的健康統制感の調査	第24回 日本保健医療行動科学学会学術大会	山口知代,元村直晴
梶村 郁子	200911	看護学生を対象にした学習支援システムの検討	第29回医療情報学連合大会	梶村郁子
齋野 貴史	201001	感染対策チームとリンクナース会を有する病院における感染管理の組織活動の現状と課題	日本医療マネジメント学会大阪支部 第3回学術集会	佐藤淑子

氏名	発表年月	発表課題名	会議・学会名	発表者名
橋 弥 あかね	200911	消化器系ストーマ造設患者のセルフケア情報データベースの構築	第29回医療情報学連合大会	橋 弥あかね
長谷川 智子	200906	インターフェロン療法中にあるC型肝炎患者の不確かさ	第3回 日本慢性看護学会学術集会	長谷川智子, 平林佐代子, 勝浦照美, 松尾ミヨ子
	200909	Uncertainty and Its Related Factors in Patients with Chronic Hepatitis C.	the World Academy of Nursing Science (WANS)	Satoko Hasegawa, Miyoko Matuo
前川 泰子	200906	病棟別ナースコール呼出理由の実態調査	第13回日本医療情報学会春季学術大会	真嶋由貴恵, 前川泰子, 田村陽子, 有本美紀, 大平雅雄, 池川充洋
	200907	Investigation of the Load on the Lumbar Region in Nursing Technique's Movements -Relation between Twist and Surface Electromyogram-	Nursing Informatics 2009	Y. Maekawa, A. Shiozaki, Y. Majima
	200907	Survey of Actual Conditions of Reasons for Nurse Calls, Comparing a Surgical Ward and aMedical Ward	Nursing Informatics 2009	Y. Majima, Y. Tamura, Y. Maekawa, M. Ohira, M. Ikegawa
	200907	Relation between Lumbar Twist Angle and Surface Electromyogram (EMG)	ITC-CSCC2009	Y. Maekawa, A. Shiozaki, Y. Majima
	200907	Development of ubiquitous on demand study support environment for nursing students	13th International Conference on Human-Computer Interaction	Y. Majima, Y. Nakamura, Y. Maekawa, Y. So
	200908	看護師のナレッジ表出を支援するための映像活用型eラーニングシステムの有用性	第35回日本看護研究学会	真嶋由貴恵, 前川泰子
	200909	映像共有システムによる看護技術映像を媒介としたコミュニケーションの成立状況	教育システム情報学会第34回全国大会	真嶋由貴恵, 前川泰子, 東正造, 寺中晶都, 眞田聡, 小島明
	200909	看護師と看護学生の静脈スキルの比較—視線と看護技術手順に焦点を当てて	教育システム情報学会第34回全国大会	真嶋由貴恵, 前川泰子
	200911	看護技術における腰部のひねり動作とその負荷の関係	第29回医療情報学連合大会	前川泰子, 汐崎陽, 真嶋由貴恵
	200911	ナースコールデータにおけるベジアンネットワークを使用したデータマイニング方法の検討	第29回医療情報学連合大会	福井竜也, 真嶋由貴恵, 青木真吾, 辻洋, 前川泰子
	200911	静脈注射実施時のコツ(暗黙知)に対する熟練看護師と看護学生の意識の比較—インタビュー調査より—	第29回日本看護科学学会学術集会	前川泰子, 真嶋由貴恵
	200911	静脈注射技術における暗黙知の形式知化—看護師の視線の動きに着目して—	第29回日本看護科学学会学術集会	真嶋由貴恵, 前川泰子
森木 ゆう子	200911	救命救急センター熟練看護師の救急初療場面に關する看護実践の認識	第29回日本看護科学学会学術集会	森木ゆう子, 新開裕幸

4. 競争的資金

氏名	申請先	研究種目	研究課題名	獲得金額 (千円)	区分
榎木野 裕美	中山雄雄科学技術文化財団	子どもの遊びプロジェクト	入院児に対するエデュテインメント的視点による遊びの提供	700	代表
	朝日新聞厚生文化事業団	子どもへの暴力防止プロジェクト助成	支援者のための虐待を未然に防ぐ親支援プログラムの紹介冊子作成と冊子を使った研修会の開催	170	代表
上野 昌江	朝日新聞社	子どもへの暴力防止プロジェクト助成	支援者のための虐待を未然に防ぐ親支援プログラムの紹介	170	分担
和泉 京子	木村看護教育振興財団	木村看護教育振興財団看護研究助成	向老期世代の身体・心理・社会的状況をふまえた老いの認識および老いへの備えからみた介護予防のあり方に関する研究	700	代表
勝山 貴美子	ファイザーヘルスリサーチ振興財団	国内共同研究事業	看護専門外来を運営する専門(認定)看護師のコミュニケーションの特徴と患者のアウトカムに関連	1000	代表
大川 聡子	立命館大学大学院	博士後期課程研究奨励奨学金B	生殖のライフサイクル-若年出産した女性に着目して	250	代表

5. 共同研究・受託研究

氏名	種別	団体名	事業名称	受入金額 (千円)	区分
高見沢 恵美子	受託研究	日本学術振興会	医歯薬学分野に関する学術動向の調査・研究	3200	代表
和泉 京子	受託研究	箕面市	受託事業 アンケート入力・集計・分析作業の委託	96	代表
佐々木 くみ子	共同研究	鳥取県境港市	妊娠期からの育児支援への取り組み		分担
前川 泰子	受託研究	NTTソリューション	看護技術教育における映像活用がたナレッジ抽出・伝承方法	1690.5	分担

6. 「講演会」「学会」の開催

氏名	学会名	役割	日時	場所
勝山 貴美子	第6回「看護と社会」研究全国集会	実行委員		

7. 「講演会」「シンポジウム」「研修会」等の講演

氏名	「講演会」「シンポジウム」「研修会」等の講演	場所	題名	日時
榎木野 裕美	臨床指導者講習会	財団法人日本看護協会大阪支部	小児看護学実習指導のあり方	
	主任児童委員研修会	大阪府社会福祉協議会	虐待をさす保護者の心理的特徴と支援について	
町浦 美智子	看護教員養成講習会	大阪府看護協会	看護研究方法・質的な看護研究について	
上野 昌江	地域保健事業関連研修	神戸市勤労会館	児童虐待発生予防における乳児早期からの支援	2010年3月1日
	河内長野市要保護児童対策地域協議会研修会	河内長野市役所	こんには赤ちゃん事業と子ども虐待予防	2010年2月17日
	中核市保健師研修	東大阪市保健所	事例の見方、深め方、学び方	2010年1月29日
桑名 行雄	精神対話士養成講習会	メンタルケア協会	こころの科学	2009年7月4日
	精神対話士養成講習会	メンタルケア協会	こころの科学	2009年11月14日
	城山病院研修会	城山病院	ストレスとのつきあい	2010年2月19日
中村 裕美子	大阪府看護教員養成講習会	大阪府看護協会	看護教育課程	2009年8月8日,25日
	大阪府保健師2年目研修	大阪府看護協会	講師	2009年9月17日
	看護部研修会	大阪府立呼吸器・アレルギー医療センター	講師	2009年6月
	認定看護管理者制度教育課程ファーストレベル	大阪府看護協会	ヘルスケア提供システム論	2009年5月22日
高見沢 恵美子	大阪府立病院機構 マネジメントスキルアップ研修	大阪府立病院機構	看護と倫理	
青山 ヒフミ	日本精神看護技術協会 平成21年度看護管理学会研修会	日本精神科看護技術協会大阪支部	看護管理	2009年7月3日
	大阪府私立病院協会看護部会 月例勉強会	社団法人 大阪府私立病院協会	看護職のためのキャリア開発	2009年9月
	大阪府立病院機構 平成21年度マネジメント・スキルアップ研修	大阪府急性期・総合医療センター	看護管理概論	2009年10月2日
	認定看護師教育課程「共通科目」	日本看護協会	看護組織におけるリーダーシップ	2009年10月19日

氏名	「講演会」・「シンポジウム」・「研修会」等の講演	場所	題名	日時
青山 ヒフミ	中小規模病院看護管理者教育研修	大阪府看護協会	看護管理学概論・看護管理の基礎	2009年10月29日
	平成21年度認定看護管理者制度「サードレベル教育課程」	兵庫県看護協会	組織デザイン論	2009年11月15日
	大阪府看護協会南大阪支部研修	ベルランド看護助産専門学校	看護管理	2009年11月24日
	大阪府立病院機構「看護師長研修実践報告」	大阪府立病院機構	変革理論を用いて看護の質を評価し、部署の改善に取り組む	2009年12月11日
	平成21年度リフレッシュ研修会	大阪府看護協会		2010年2月1日
杉本 吉恵	大阪府看護教員養成講習会	大阪府看護協会	看護教育課程	2009年6月29日
星 和美	大阪府看護教員養成講習会	大阪府看護協会	看護論	2009年6月12日
井端 美奈子		羽曳野市立子育て支援センターふるいち	母親のためのリラゼーションと子育てアドバイス	
		大阪府立母子保健総合医療センター	移行期におけるケア ―セクシュアリティを中心として―	
鎌田 佳奈美	2009年度「子どもと家族シリーズ」病気をもちつ子どもの看護	大阪府看護協会ナースングアート	看護における子どもの権利と倫理	2009年10月13日
荒木 孝治	日本精神科看護技術協会主催精神科看護一般研修会	日本精神科看護技術協会	看護にいかす論理的思考	2009年4月1日
	福門会岩倉病院看護部主催・看護研究研修会	福門会岩倉病院看護部	看護研究の方法	2009年8月1日
	大阪府立精神医療センター看護部主催看護研究研修会	大阪府立精神医療センター	研究方法論	2009年2月1日
和泉 京子	保健師学生実習指導者研修	大阪府下の保健所・保健センター		2009年4月1日
牧野 裕子	奈良県実習指導者講習会	奈良県看護協会	看護師教育課程 総合分野	2009年10月
	大阪府看護教員養成講習会	大阪府看護協会	看護教育課程	2009年8月26日
石澤 美保子	兵庫県看護協会皮膚・排泄ケア認定看護師養成講座		アプライアンス(創傷被覆材)	2009年6月17日
	大阪府看護協会研修会		成人看護:ストーマケア、スキンケア、PEGケア講義と演習3日間コース	2009年12月14、15、16日
勝山 貴美子	臨床倫理研究委員会研修会	大阪厚生年金病院	看護専門職の倫理	2009年6月24日
	臨床倫理研究委員会研修会	大阪厚生年金病院	倫理的意思決定と看護1	2009年7月23日
	臨床倫理研究委員会研修会	大阪厚生年金病院	倫理的意思決定と看護2	2009年8月23日
	看護研究研修会	馬場記念病院	看護研究のプロセス～研究計画書の書き方	2010年1月27日
	北河内看護管理者会	関西看護専門学校講堂	看護とナラティブ	2009年7月16日
	南河内看護管理者会	リック羽曳野	リーダーとしての自分を知る～個人に焦点を当てて～	2009年6月4日
	南河内看護管理者会	リック羽曳野	リーダーとしての自分を知る～組織に焦点を当てて～	2009年9月9日
	南河内看護管理者会	リック羽曳野	リーダーとしての自分を磨く～事例を通して～	2009年12月10日
	認定看護管理者教育ファーストレベル	大阪府看護協会	看護専門職論:関連職種とその機能 専門職性	2009年4月24日
	認定看護管理者教育ファーストレベル	大阪府看護協会	看護専門職論:キャリア開発	2009年5月1日
	認定看護管理者教育ファーストレベル	大阪府看護協会	看護専門職論:関連職種とその機能 専門職性	2009年9月9日
	認定看護管理者教育ファーストレベル	大阪府看護協会	看護専門職論:キャリア開発	2009年9月25日
	認定看護管理者教育セカンドレベル	大阪府看護協会	看護管理実践計画書の書き方	2009年11月23日
	認定看護管理者教育セカンドレベル	大阪府看護協会	看護管理研究の活用方法	2009年12月5日
	中小規模病院管理者研修	大阪府看護協会	看護管理実践計画書の書き方	2009年10月29日
	中小規模病院管理者研修	大阪府看護協会	看護管理者と生涯教育	2009年12月21日
田中 結華	大阪府看護教員養成講習会	大阪府看護協会	看護教育課程について	2009年7月2日
	認定看護師教育課程	兵庫県看護協会	看護過程、文献検索・文献講読、情報処理論	2009年5月1日、14日、23日、28日、6月5日、8月6日
	関西STOMAケア講習会講師			2009年8月21日
細田 泰子	大阪府5医療センター職員研修会	大阪府立成人病センター	教育目標・教育方法・教育評価	2010年2月19日
	大阪府看護教員養成講習会		看護教育評価	2009年6月26日、7月6日、13日、24日、28日、8月21日、24日、28日
		大阪府立呼吸器・アレルギー医療センター	教育評価について	2009年7月9日

氏名	「講演会」・「シンポジウム」・「研修会」等の講演	場所	題名	日時
細田 泰子	臨地実習指導者研修会	大阪警察病院看護専門学校	臨地実習評価について	2009年10月19日
大川 聡子	堺市北保健センター研修会	堺市北保健センター	若年出産した母親の支援について	2009年9月24日
別宮 直子	日本精神科看護技術協会研修会	日本精神科看護技術協会	精神科看護の展開	2009年6月17日
松田 千登勢	大阪府教員養成講習会	大阪看護協会	老年看護学	2009年9月14日,15日
	保健師助産師看護師の実習指導者講習会	近畿厚生局	老年看護学	2009年10月31日
	高齢者の看護・支援	大阪看護協会	老年看護の役割課題	
田中 登美	第1回「がん支えあいの日」記念イベント 専門家向けセッション	笹川記念会館	症状アセスメントとケアー患者の主観的症狀である倦怠感をどうすくいあげ、マネジメントするかー	2009年6月20日
	長野県看護協会がん看護研修	社団法人長野県看護協会 看護総合センターながの	①化学療法を受ける患者への援助②放射線療法を受ける患者への援助③腫瘍外来での看護師の役割	2009年8月12日
	がんプロフェッショナル養成プラン がん看護インテンスコース(大阪府立大学)	難波御堂筋ホール	化学療法看護	2009年8月26日
	平成21年度近畿大学緩和ケア研修会	近畿大学医学部附属病院	緩和ケア研修	2009年8月29,30日
	日本看護協会神戸研修センター(がん化学療法と看護:衛星通信研修)	社団法人日本看護協会神戸研修センター	がん化学療法の看護の実際	2009年9月12日
	がん医療マネジメント研究会第7回シンポジウム	品川インターシティホール	Cancer Board	2009年9月19日
	第22回日本サイコoncology学会総会シンポジウム	メルパルク広島	緩和ケアチームにおけるサイコoncologistの役割, 精神腫瘍科医師に求めるものーがん看護専門看護師の立場から	2009年10月2日
	平成21年度第1回がん看護インテンスコース研修会	神戸大学医学部神緑会館	化学療法を受ける患者の特徴と有害作用に対する看護	2009年10月11日
	エキスパートナース・フォーラム2009 がん化学療法・実践セミナー	東京都市センターホテル	抗がん剤の有害反応とその管理	2009年10月12日
	エキスパートナース・フォーラム2009 がん化学療法・実践セミナー	京都国際会館アネックスホール	抗がん剤の有害反応とその管理	2009年11月23日
	第2回長崎県がん診療拠点病院研修会	長崎大学医学部良順会館	Cancer Board	2010年1月20日
	大阪府立大学大学院看護学研究科・6大学連携オンコロジー養成プラン講演会	大阪府立大学	がん医療に関わる専門看護師間の連携をめざしてー地域住民に貢献するために	2010年3月5日
	和泉市立病院研修会	和泉市立病院	がんチーム医療における看護師の役割	2010年3月10日
	「がん治療の未来を考える」実行委員会・産経新聞社主催 医療シンポジウム	りそな銀行大阪本店ビル	がん患者と家族のための「がんを知り、がんとともに生きる」	2010年3月28日
	小笠 幸子	奈良県看護協会認定看護管理者ファーストレベル	奈良県看護協会	看護専門職の機能と活動
平成21年度リーダーシップマネジメントⅡ研修		大阪府立母子保健総合医療センター		2009年7月3日,12月11日
平成21年度臨床指導者研修		大阪府立母子保健総合医療センター		2009年11月27日
前川 泰子	2009年度大阪府看護教員養成講習会	大阪府看護協会	情報科学	2009年6月5日,7月10日

8). 公開講座

氏名	公開講座名	題名
上野 昌江	平成21年度公開講座	元気の秘訣:自分のからだのこともっと知りましょう
中村 裕美子	公開講座	脳いきいき
杉本 吉恵	平成21年度公開講座	今から学ぼう 楽々生活動作のコツ!
井端 美奈子	府大講座	ヒューマン・セクシュアリティ
中嶋 有加里	はびきの市民大学	最近の妊娠・出産・授乳支援-世代間ギャップをうめよう-
長畑 多代	出前講義	認知症を地域で支える
佐藤 淑子	感染症予防のための手洗い講習会	
勝山 貴美子	日本看護倫理学会ワークショップ	倫理的問題を含む事例の分析 ～研究、教育における問題～
田中 結華	はびきの市民大学	いつまでも皮膚を大切に～スキンケア入門～
山本 裕子	はびきの市民大学	糖尿病を防いで万病予防
田中 登美	はびきの市民大学	がんの早期発見と予防
古山 美穂	療養学習支援センターセクシュアリティ	
	はびきの市民大学	性のイメージを揺らしてーこころ豊かにー
齋野 貴史	感染症予防のための手洗い講習会	

9). 出張講義・出前講義

氏名	出張・出前先	講義名	日時
町浦 美智子	大阪府立高等学校	いのちについて考える授業	
	羽曳野市中学校	性教育の一環としてのいのちを大切に授業	
井端 美奈子	大阪府立成美高等学校	デートバイオレンス予防について	
	大阪府立柏原高等学校	デートバイオレンス予防・おしゃれ障害	2009年7月17日
	大阪府立農芸高等学校	男女のおつきあいのマナーデートバイオレンスの予防	2009年7月15日
	大阪府立今宮高等学校	デートバイオレンス予防・おしゃれ障害	2010年1月14日
	堺市立堺高等学校	デートバイオレンス予防・おつきあいのマナー	2010年2月5日.9日
	堺市立商業高等学校	デートバイオレンス予防・おつきあいのマナー	2010年2月18日
鎌田 佳奈美	大阪府立狭山高校	子どもの人格発達へのケアについて	2009年11月12日
池田 由紀	府立岸和田高等学校	ストレス対処	2009年8月27日
古山 美穂	大阪府立大和川高等学校	これからの自分探し	2009年6月18日
	大阪府立農芸高等学校	男女のおつきあいのマナーデートバイオレンスの予防	2009年7月15日
	和歌山開智高等学校	セクシュアリティと向き合う看護ー性のイメージを揺らしてー	2009年7月18日
	大阪府立成美高等学校	デートバイオレンス予防・おつきあいのマナー	2010年1月28日.29日
	堺市立堺高等学校	デートバイオレンス予防・おつきあいのマナー	2010年2月5日.9日

10). 公的な委員会など

氏名	委嘱先もしくは参画委員会名	役職名	職務内容
楢木野 裕美	財団法人大阪府看護協会調査研究倫理審査会	委員長	2009年07月～2010年06月、大阪府看護協会が関与する調査研究に関する倫理審査を行う。
町浦 美智子	日本看護系大学協議会	委員	専門看護師教育課程認定委員会 母性看護専門分科会委員
	保健師助産師看護師国家試験委員会	委員	既存の助産師国家試験問題および公募にて提出された問題の見直し等を行い、問題の精選化を図る
上野 昌江	大阪府・市町村保健師の人材育成ガイドライン作成ワーキング	委員	大阪府・市町村保健師人材育成ガイドラインを作成するための会議
	児童虐待等要保護事例の検証に関する専門委員会	委員	児童虐待により死亡した事例の検証委員会第6次報告を作成する
	平成21年度保健師助産師看護師試験委員会	委員	保健師、看護師国家試験問題にかかるブラッシュアップ
	羽曳野市健康づくり推進協議会	委員	
	大阪府立羽曳野支援学校学校保健協議会	委員	
白井 みどり	大阪府看護協会高齢者施設看護支援委員会	副委員長	
	介護予防・地域リハビリテーション推進委員会認知症対策専門部会	委員	
	大阪府介護保険審査会	委員	
	藤井寺市地域包括支援センター運営協議会	委員	
	藤井寺市地域密着型サービス運営委員会	委員	
中村 裕美子	大阪府介護保険審査会	委員	大阪府に申請された不服等の申し立ての審議
高見沢 恵美子	文部科学省大学設置・学校法人審議会専門委員会	委員	保健衛生学分野の大学院・大学設置について審査した。
	日本学術振興会医歯薬学専門調査班	委員	日本学術振興会医歯薬学専門調査班で、看護学を含む医歯薬学系の審査員候補者の選考・審査結果の検証・学術振興会の事業に対する助言を行った。
	大学教育改革支援プログラム委員会医療系審査部会	委員	日本学術振興会大学教育改革支援プログラム委員会で医療系の審査を担当した。
	日本看護協会専門看護師認定委員会	委員	日本看護協会専門看護師の認定について審議した。
	日本看護協会専門看護師認定実行委員会	委員長	日本看護協会専門看護師(急性・重症患者看護)の認定審査を担当した。
	日本看護系大学協議会専門看護師教育課程認定委員会クリティカルケア	委員	日本看護系大学協議会専門看護師教育課程認定委員会クリティカルケア看護分科会で、申請のあった教育課程の内容を審議した。
	大阪府看護協会救急看護認定看護師教育課程教員会	委員	大阪府看護協会救急看護認定看護師教育課程の教育内容を審議した。
青山 ヒフミ	大阪府急性期・総合医療センター医療安全委員会	委員	
	大阪府看護協会事業運営委員会	委員	
星 和美	大阪府准看護師試験委員会	委員	大阪府准看護師の試験の実施および准看護師の行政処分に関する検討
	保健師助産師看護師国家試験委員会	委員	看護師国家試験問題の修正・選定(ブラッシュアップ)を担当
和泉 京子	摂津市介護認定審査会	委員	介護保険の要介護認定の二次判定
	茨木市介護認定審査会	委員	介護保険の要介護認定の二次判定
	羽曳野市介護認定審査会	委員	介護保険の要介護認定の二次判定
	堺市地域密着型サービス等事業者審査会	委員	地域密着型サービス事業者の検討
	高石市保健医療福祉審議会	委員	保健福祉医療計画の策定
	高石市地域包括支援センター運営協議会	委員	地域包括支援センター運営の検討
	高石市地域密着型サービス運営委員会	委員	地域密着型サービス検討
	藤井寺市健康づくり推進協議会	委員	健康づくり推進に関する協議・評価
	羽曳野市地域密着型サービス事業者選定委員会	委員	地域密着型サービス事業者の選定
	高石市庁舎等清掃管理業務委託総合評価指名競争入札評価委員会	委員	高石市庁舎等清掃管理業務委託総合評価指名競争入札の検討
	堺市健康福祉局福祉施設等施設整備審査会	委員	福祉施設等の施設整備の審査
	羽曳野市介護保険等推進協議会	委員	羽曳野市の介護保険等の推進
	羽曳野市地域包括ケア推進委員会	委員	羽曳野市の地域包括ケアの推進
	長畑 多代	大阪府看護協会高齢者施設ケア検討委員会	委員
大阪府堺市介護認定審査会		委員	介護認定2次審査
大阪府藤井寺市介護認定審査会		委員	介護認定2次審査
牧野 裕子	香芝市介護認定審査会	委員	介護保険 要介護認定の二次判定
	香芝市介護予防特定高齢者施設評価事業	委員	香芝市 介護予防特定高齢者施設事業評価
	大阪府看護協会保健師職能委員会	委員	
石澤 美保子	日本看護協会認定看護師制度委員会	委員	日本看護協会認定看護師制度についての審議
勝山 貴美子	大阪府看護協会認定看護管理者教育委員会	委員	大阪府看護協会認定看護管理セカンドレベル委員
勝山 貴美子	大阪府看護協会中小病院支援委員会	委員長	大阪府看護協会11支部における中小規模病院の看護部長を対象とした教育プログラムの構築と実施、評価に関するモデル事業を行う。そのほか、大阪府が中小規模病院を対象として行った事業を支援する。

氏名	委嘱先もしくは参画委員会名	役職名	職務内容
細田 奏子	社団法人大阪府看護協会看護臨床研修制度あり方検討会	委員	看護臨床研修制度あり方検討委員会の委員
	北野病院レジデントナース協議会	委員	
大川 聡子	羽曳野市介護認定審査会	委員	介護保険の認定審査を行う。
太田 暁子	羽曳野市介護保険認定審査会	委員	介護保険の認定審査を行う。
松田 千登勢	羽曳野市介護認定審査会	委員	
田中 登美	日本看護協会	副委員長	日本看護協会認定看護師の審査
	大阪府看護協会	委員	大阪府看護協会認定看護師課程の入試に関する業務
古山 美穂	大阪府看護協会助産師職能委員会	委員	府南地区における看護協会の活動を企画運営した
根来 佐由美	大阪府看護協会保健師職能委員会	委員	保健師職能委員会・支部役員会・職能集会への参加
山内 加絵	藤井寺市介護認定審査会	委員	介護認定にかかる審査を行う。
	高齢者施設看護支援委員会	委員	高齢者施設の看護職を支援するための活動を検討する。研修会の開催等

11). 国際交流活動

氏名	関係機関名	相手国	国際交流活動の概要
町浦 美智子	マヒドン大学看護学部シリラート校とラマティボディ校	タイ王国	2009年度 10月に2週間タイのマヒドン大学より4名の学生を看護学研究科で受け入れた。国際交流委員会委員として主にラマティボディ校との事前の打ち合わせや研究発表会の進行等の役割を担った。
中村 裕美子	国際厚生事業団	フィリピン	フィリピン人看護師候補者看護導入研修(在宅看護を担当)
和泉 京子	国際厚生事業団	フィリピン	フィリピン人看護師候補者看護導入研修
吉川 彰二	マヒドン大学	タイ王国	マヒドン大学からの小児看護専攻の短期留学生を受け入れ、病院見学等、学内外における施設見学などを実施
太田 暁子	国際厚生事業団	フィリピン	フィリピン人看護師候補者看護導入研修
山本 裕子	Michigan Diabetes Research and Training Center	アメリカ	9月14日から16日、糖尿病教育の第一人者であるMartha Funnellより糖尿病のセルフマネジメントサポートプログラムについての研修を受けた。
小笠 幸子	マヒドン大学	タイ王国	2009年10月、国際交流委員としてマヒドン大学の大学院生4名に対して、大阪府看護協会などへの案内と調整、および、受け入れから帰国までの生活面での支援、調整の役割りを担った。

12). その他の社会貢献

氏名	社会活動先	職務内容
榎木野 裕美	日本小児看護学会	業務検討委員会委員
町浦 美智子	大阪母性衛生学会	大阪母性衛生学会の運営に関わる会議・事業に参画
	第1回世界看護科学学会	特別講演 座長
星 和美	第21回大阪府看護研究学会	シンポジウム「未来の大阪の看護を創造する」におけるコメンテーター(2010年2月6日)。
荒木 孝治	大阪府立精神医療センター	看護研究倫理委員会 外部委員
和泉 京子	羽曳が丘校区福祉委員会	健康講座の講師
牧野 裕子	大阪府看護協会府南支部	施設代表者
	第40回日本看護学会—看護管理—学術集会抄録選考委員	学術集会抄録選考委員
田中 結華	大阪府看護協会堺支部	大阪府看護協会堺支部事例検討会研修講師。平成21年9月29日(火)午後2時～5時 ベルランド総合病院で行われた。研究発表の講評を行った。
細田 奏子	大阪府看護協会府南支部	看護研究発表会の抄録査読・講評
	看護系大学協議会	看護系大学におけるモデル・コア・カリキュラム検討会に参加
吉川 彰二	医療法人 利田会 久米田看護専門学校	小児臨床看護論Ⅱ(講義/10時間)を担当
	大阪府立母子保健総合医療センター	看護研究発表会・講評
山本 裕子	近畿大学医学部附属病院および近畿大学医学部奈良病院	近畿大学医学部附属病院(6/8,7/4,9/8,9/10,12/11,2/20)および近畿大学医学部奈良病院(6/19,2/6)にて研究指導、および看護研究発表会の講評を行った。
	大阪府看護協会府南支部	大阪府看護協会府南支部看護研究発表会講評
来栖 清美	泉大津市立病院	研究指導、平成21年度看護研究教育4月～3月(通年)講義および指導
	社団法人日本精神科看護技術協会大阪府支部	論文評価、研究発表評価委員、平成21年度看護研究発表会(大阪)、9月
根来 佐由美	大阪府看護協会府南支部	施設代表者

編集後記

大阪府立大学看護学部の年報第5巻を、看護学部各委員会、羽曳野キャンパス事務所の皆様等のご協力により、作成することができましたことを厚くお礼申し上げます。

本報の掲載内容は、平成21年4月から平成22年3月までの1年間の教育・研究等の内容に関するものです。

編集作業を通して、より一層、本大学看護学部の充実のために教職員、学生とともに改善に向け一歩ずつ積み上げる努力が必要であることを痛感いたしました。さらに大阪の社会風土に根ざす開かれた公立大学としての役割を担う、社会に貢献する意義ある教育・学術研究の府としての実績を評価される様今後も益々活動していきたいと考えております。

部局評価・企画実施委員会

委員長	中山 美由紀	学部長	青山ヒフミ
委員	大谷 昭	委員	白井みどり
委員	池田 由紀	委員	細田 泰子
委員	来栖 清美	委員	新瀬 朋未
委員	通山 由美子	委員	長谷川 智子